

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	アパレル企画論						
担当教員	柳橋 七三子					科目ナンバ	U73190
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	消費者分析およびアパレル企画のプロセスを身につける。						
授業の概要	現在のファッションは多種多様化し、自分自身の価値観や感性に基づいて「自分らしさ」をうまく表現できる消費者が増えてきている。このような成熟化した消費者を満足させるためには、その消費者のニーズに対応したアパレル商品の企画・提案が必要となる。本講義では、消費者のさまざまな生活シーンやシーズン、テイストといったスタイリングの要素を知り、ファッション感性イメージの分類を理解した上で、自分の好みに陥らない客観的なアパレル企画の提案を行う。また、アパレル商品を消費者に購入してもらうためには、ただ単にアパレル商品を企画するだけではなく、その商品を魅力的にディスプレイしたり、有効的に販売していかなければならない。これに関しては、学外見学で現場の状況を実践的に学ぶこととする。						
到達目標	私たちがちまたで目にするアパレル商品について、その商品の企画の背景、意図、商品化までのプロセスが理解でき、自らアパレル商品の企画・提案ができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 成熟化した消費者と顧客満足 第3回 オークションスタイリング 第4回 アパレル企業について 第5回 シーン・シーズン・テイストのスタイリング 第6回 ファッション感性イメージ分類について 第7回 ソフィスティケート&エレガンス 第8回 ロマンティック&カントリー 第9回 エスニック&アクティブ 第10回 マニッシュ&モダン 第11回 ターゲット分析とコンセプト設定 第12回 コーディネート企画 第13回 オリジナルのアパレル企画グループ作成 第14回 オリジナルのアパレル企画個人作成 第15回 プレゼンテーションと講評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	できるだけ多くのファッション雑誌を読んで、自分の好みの他に、ファッションテイストやテーマ、ディテールといった項目ごとに、切り抜きを集め、企画書を作成する為の材料とする。 [学習時間：2時間]						
授業方法	グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション、ロールプレイ						
評価基準と評価方法	課題70% 授業態度（欠席は減点）30% グループワークの参加度、プレゼンテーションの内容などにより、総合的に評価する。						
履修上の注意	2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。 欠席、遅刻、早退、途中退席に関しては、必ずその理由について、教員に自ら申告及び説明する事。 なお20分以上の遅刻、早退の場合は欠席とする。 授業中のマナーに関して、私語は絶対にしない事。 スマホ等は使用するように指示が無い限り、机上に置かず、筆記用具と教科書、配布プリント以外の物は椅子や机下に片づける事。 勿論飲食は厳禁。						
教科書	プリント						
参考書	文化ファッション大系 ファッション流通講座⑦『コーディネートテクニック演出編』文化服装学院編 ISBN-10 4579109414 ISBN-13 978-4579109418						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	アパレル生産実習							
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバー	U22120	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	火曜1～2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	衣服制作における技術の習得と、アパレル製品が仕上がるまでの諸工程を理解する。							
授業の概要	衣服制作における技術の習得と、アパレル製品が仕上がるまでの諸工程を理解することを目的とする。そのために、アパレル製品とこれを着装する人体との関係を把握し、人体の立体構造を平面製図に起こすことにより立体と平面の関わりを知り、パターンの特性を理解する。本実習では人体の構造、計測方法、パターン製作についての理解を深め、自分の身体にぴったりと合ったサイズの衣服制作へと展開させ、実物制作・基礎縫いを通して、基礎的な縫製技術を修得する。							
到達目標	セミタイトスカートの設計・縫製過程を理解し、完成させるまでの技術を身につけることができる。							
授業計画	第1回 オリエンテーション（スカートの基礎知識、採寸） 第2回 基礎縫いⅠ 第3回 タイトスカート（基本形）の実物大製図（自己サイズ） 第4回 タイトスカートからセミタイトスカートへ展開 第5回 セミタイトスカートの仮縫い 第6回 セミタイトスカートの補正 第7回 セミタイトスカートの裁断（表地の各パーツの裁断） 第8回 セミタイトスカートの縫製①印つけ（へらorチャコペーパー） 第9回 セミタイトスカートの縫製②伸び止めテープ貼り、ダーツ縫い、縫い代のしまつ 第10回 セミタイトスカートの縫製③後ろ中心を縫う、ファスナーつけ、基礎縫いⅡ 第11回 セミタイトスカートの縫製④脇縫い、基礎縫いⅢ、裾のしまつ、ベルト作り 第12回 セミタイトスカートの縫製⑤ベルトつけ 第13回 セミタイトスカートの縫製⑥カギホックつけ、アイロン仕上げ 第14回 実習内容の総括 第15回 レポート、スカートを着装して講評							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：衣服について日頃から関心を持ち、デザイン・縫製・着心地など自分なりに考察しておくこと。 また本実習ではミシンを使用するので、家庭用ミシン程度は使えるように自己学習しておくこと。 授業後学習：欠席すると制作が遅れます。また、授業に出席していても宿題となる部分が多くあります。授業内で詳しく説明するので、宿題は必ず各自進めておくこと。							
授業方法	実習							
評価基準と評価方法	作品課題60% レポート20% 実習取り組み態度 20%							
履修上の注意	・10回以上の出席がないと受講資格を失います。実習のため遅刻や欠席をすると作業が大幅に遅れます。遅れている部分は、次週までに必ず進めておくこと。 ・課題作品は期限内に必ず提出すること。 ・質問は授業の前後で受け付けます。不明なままにしないこと。							
教科書	文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座②『スカート・パンツ』文化服装学院編							
参考書	文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座①『服飾造形の基礎』文化服装学院編							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	アパレル生産実習							
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバー	U22120	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	水曜1～2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	衣服制作における技術の習得と、アパレル製品が仕上がるまでの諸工程を理解する。							
授業の概要	衣服制作における技術の習得と、アパレル製品が仕上がるまでの諸工程を理解することを目的とする。そのために、アパレル製品とこれを着装する人体との関係を把握し、人体の立体構造を平面製図に起こすことにより立体と平面の関わりを知り、パターンの特性を理解する。本実習では人体の構造、計測方法、パターン製作についての理解を深め、自分の身体にぴったりと合ったサイズの衣服制作へと展開させ、実物制作・基礎縫いを通して、基礎的な縫製技術を修得する。							
到達目標	セミタイトスカートの設計・縫製過程を理解し、完成させるまでの技術を身につけることができる。							
授業計画	第1回 オリエンテーション（スカートの基礎知識、採寸） 第2回 基礎縫いⅠ 第3回 タイトスカート（基本形）の実物大製図（自己サイズ） 第4回 タイトスカートからセミタイトスカートへ展開 第5回 セミタイトスカートの仮縫い 第6回 セミタイトスカートの補正 第7回 セミタイトスカートの裁断（表地の各パーツの裁断） 第8回 セミタイトスカートの縫製①印つけ（へらorチャコペーパー） 第9回 セミタイトスカートの縫製②伸び止めテープ貼り、ダーツ縫い、縫い代のしまつ 第10回 セミタイトスカートの縫製③後ろ中心を縫う、ファスナーつけ、基礎縫いⅡ 第11回 セミタイトスカートの縫製④脇縫い、基礎縫いⅢ、裾のしまつ、ベルト作り 第12回 セミタイトスカートの縫製⑤ベルトつけ 第13回 セミタイトスカートの縫製⑥カギホックつけ、アイロン仕上げ 第14回 実習内容の総括 第15回 レポート、スカートを着装して講評							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：衣服について日頃から関心を持ち、デザイン・縫製・着心地など自分なりに考察しておくこと。 また本実習ではミシンを使用するので、家庭用ミシン程度は使えるように自己学習しておくこと。 授業後学習：欠席すると制作が遅れます。また、授業に出席していても宿題となる部分が多くあります。授業内で詳しく説明するので、宿題は必ず各自進めておくこと。							
授業方法	実習							
評価基準と評価方法	作品課題60% レポート20% 実習取り組み態度 20%							
履修上の注意	・10回以上の出席がないと受講資格を失います。実習のため遅刻や欠席をすると作業が大幅に遅れます。遅れている部分は、次週までに必ず進めておくこと。 ・課題作品は期限内に必ず提出すること。 ・質問は授業の前後で受け付けます。不明なままにしないこと。							
教科書	資料を配布する							
参考書	文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座①『服飾造形の基礎』文化服装学院編 文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座②『スカート・パンツ』文化服装学院編							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	アパレルデザイン論							
担当教員	柳橋 七三子					科目ナンバー	U73200	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	アパレルデザインに関する表現方法や素材、デザイン、色彩などの基本的な知識を身につける。							
授業の概要	ちまたに溢れているアパレル商品の企画・設計にはアパレルデザインに関する基本的な知識が必要不可欠である。本講義では、まずデザインの基礎・定義を学んだ上で形、色、デザインの知識を身につけ、続いてアパレルデザインに応用発展させる。このようにアパレルデザインを系統的に幅広い視点から学ぶことによって、アパレル商品のデザインについての理解を深める。							
到達目標	アパレル商品の機能性、審美性、表現方法を知り、適切な素材、デザイン、色彩の組み合わせによるアパレルデザインを理解できる。							
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 近代デザインと服飾デザイン 第3回 デザインの定義とデザインの分類 第4回 服飾デザインとファッションデザイン 第5回 デザインの基礎 第6回 形態 第7回 色彩 第8回 素材 第9回 デザインの展開 第10回 流行色の決まり方について 第11回 ファッションのトレンドについて 第12回 アパレルデザインの要素 第13回 ファッション産業におけるデザインの要素 第14回 世界で活躍するファッションデザイナー 第15回 まとめと試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	できるだけ多くのファッション雑誌を読んで、自分の好みの他に、ファッションテイストやテーマ、ディテールといった項目ごとに、切り抜きを集め、企画書を作成する為の材料とする。 [学習時間：2時間]							
授業方法	ディスカッション グループワーク プレゼンテーション ロールプレイ							
評価基準と評価方法	試験20% 課題30% 授業態度50% グループワークの参加度、プレゼンテーションの積極性や内容によって総合的に評価する。							
履修上の注意	出席回数が開講日数の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 欠席、遅刻、早退、途中退席をする場合は、自ら申告及び説明すること。 授業中はスマホの使用を指示する以外は、机上に置かず、筆記用具や授業に関係するもの以外のバッグや洋服などは、机の下や椅子横などに片付けること。 勿論飲食は厳禁。							
教科書	文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑨『服飾デザイン』文化服装学院編 ISBN978-4-579-11049-0 C5377							
参考書	授業内に紹介します (改訂 アパレルデザインの基礎 日本衣料管理協会 03-3437-6416 日本印刷株式会社)等							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	衣生活論						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバー	U11010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	衣生活学入門						
授業の概要	衣生活学の入門として位置づけ、人と被服、社会と被服という観点から衣生活をとらえ、幅広い内容を学ぶ。被服と社会との関連、被服自体のなりたち、被服が人の心と体に及ぼす影響について習得することを目標とする。具体的に取り扱う内容は、被服の歴史と文化、被服の構成、被服の素材、染色、被服衛生、高齢者・障害者の被服とユニバーサルファッション、被服の管理と洗濯、被服の取扱いと表示、被服の廃棄とリサイクル等である。						
到達目標	・被服と社会とを関係づけることができる。 ・被服のなりたちについて説明することができる。 ・被服と人の心身とを関係づけることができる。						
授業計画	第1回 人と被服との関わりについて考える 第2回 被服の起源 第3回 被服の歴史と文化 和服の歴史 第4回 被服の歴史と文化 洋服の時代へ 第5回 被服の未来 機能性とデザイン 第6回 民族と衣生活 第7回 レポート課題とmanaba小テスト 第8回 自然環境と被服 第9回 ライフスタイルと被服 衣生活の現状 第10回 ライフスタイルと被服 TP0とフォーマルウェア 第11回 ライフスタイルと被服 ライフサイクルから見た衣服設計 第12回 衣服の取扱いと表示 第13回 被服の廃棄とリサイクル 第14回 まとめ 期末試験 第15回 試験の復習と最終課題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：テキストの該当箇所を読んでおくこと（30分） 授業後学習：復習と課題（90分）						
授業方法	講義、VTR、ディスカッション等を含む。						
評価基準と評価方法	平常点 40％、試験とレポート課題 60％						
履修上の注意	出席を重視する						
教科書	『生活科学テキストシリーズ 衣生活学』佐々井 啓・大塚美智子 編著（朝倉書店）ISBN 978-4-254-60633-1						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	インテリア・コーディネート実習						
担当教員	山本 嘉寛					科目ナンバー	U12150
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	インテリア・コーディネートの概要を実習を通して確実に理解し、表現力の基礎を身につける						
授業の概要	映像を利用した講義の後、内容に即した実習課題に取り組む。ほぼ毎回この流れで授業が進行する。ライフスタイル別のインテリア・コーディネートから開始し、カラーコーディネート、課題空間のゾーニングから家具計画、照明計画、窓装飾計画へと進める。						
到達目標	1. インテリアエレメント、カラーコーディネート、基本計画用図面、照明計画や窓装飾計画について概要を知る。 2. 漠然としたイメージから具体的な空間を構想することができる。 3. 構想した空間を表現することができる。 4. 表現した空間を他者に伝えることができる。						
授業計画	第1回：授業のガイダンスと各自のテーマとなる言葉の検討 第2回：言葉から連想される空間の実例集め 第3回：床仕上材の概説とそのコーディネート 第4回：壁・天井仕上材の概説とそのコーディネート 第5回：外部建具の概説とそのコーディネート 第6回：内部建具の概説とそのコーディネート 第7回：給排水衛生設備の概説とそのコーディネート 第8回：建築図面とインテリア模型の概説 第9回：スタイル（様式）についての概説 第10回：建築・インテリアの実例見学 第12回：家具の概説とそのコーディネート 第11回：照明器具の概説とそのコーディネート 第13回：窓装飾の概説とそのコーディネート 第14回：プレゼンテーションボードとインテリア模型の製作 第15回：製作した課題のプレゼンテーションと総評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	プレゼンテーションボード・インテリア模型は、授業外の時間でもできるだけ活用してより質の高い作品を目指すことが望ましい。						
授業方法	演習、講義						
評価基準と評価方法	平常点30%、プレゼンテーションボード30%、インテリア模型30%、プレゼンテーション10%						
履修上の注意	■授業の一環として建築・インテリアの実例見学を行う（交通費実費負担） ■カッターナイフ、カッターマット、ものさし（鋼尺）を各自用意する。 ■その他、必要に応じて各自画材を用意する場合がある。 ■Microsoft Excelの基本的な操作知識が必要である。						
教科書	プリント配布						
参考書	■1000 Chairs (Bibliotheca Universalis) / 著者：Charlotte Fiell / 編集：Peter Fiell / 出版社：Taschen America Llc / ISBN-13: 978-3836563697 ■1000 Lights (Bibliotheca Universalis) / 著者：Charlotte Fiell / 編集：Peter Fiell / 出版社：Taschen America Llc / ISBN-13: 978-3836546768 ■図解テキスト インテリアデザイン / 著者：小宮 容一、片山 勢津子、塚口 眞佐子、西山 紀子、加藤 力、ペリ一史子 / 出版社：井上書院 / ISBN-13: 978-4753015870						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	香りの科学						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバー	U73240
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	香りのさまざまな心理学的効用の考察						
授業の概要	においては人が生活していくうえで身の周りにあふれている。この授業では、香りの心理学的および生理学的メカニズムについて知ることを目的とする。香りの人間に対する作用のなかには、自律神経系、免疫系、認知機能に対する影響といったものが挙げられるが、それらに対する数々の効用について具体的に香りを用いた研究例をまじえ解説する。また、精油の種類や使い方、製法など精油の基本的な事項について、実際に香りを使いながら学ぶ。						
到達目標	1. 嗅覚の仕組みに関する用語を理解し、それを用いて嗅覚の特徴を説明できる。[知識・理解] 2. 香りの心理学的効用を複数説明でき、生活の中で用いられる場面と関係づけて自分の考えを述べるができる。[知識・理解][態度・志向性] 3. 実際に精油に触れ、それらの違いを識別でき、それらの特徴をわかりやすい言葉で表現することができる。[知識・理解]						
授業計画	1. オリエンテーション 2. 香りを使用する目的 3. 嗅覚の仕組み 4. 香りの鎮静覚醒作用 5. 香りとストレス 6. 香りと睡眠 7. 香りと疲労 8. 精油の作用 9. 精油の使い方 10. 精油の種類 11. 香りと免疫 12. 香りと認知 13. 香りと記憶 14. 嗅覚の個人差 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回の授業で取り上げる香りの効用について参考書などで予習する。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で実際に嗅いだ香りの特徴と効用を松蔭manabaコースコンテンツに投稿する（学習時間：2時間）						
授業方法	主に講義形式でおこなう。各回精油の香りを実際に嗅ぎ、グループで香りの特徴についてディスカッションし、各回のテーマについて解説・講義をおこなう。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物および松蔭manabaへの投稿(40%)：香りの特徴を表現する力、生活に関連する自分の考えを表現する力を評価する。到達目標2および3に関する到達度の確認。 試験(60%)：嗅覚の仕組み、香りの特徴や効用に関する知識に関する理解度を評価する。到達目標1および3に関する到達度の確認。						
履修上の注意	10回以上の出席がないと、受講資格を失う。私語厳禁とする。						
教科書	適宜、プリントを配布する。						
参考書	「〈香り〉はなぜ脳に効くのか アロマセラピーと先端医療」 NHK出版新書 ISBN: 978-4140883853 「アロマセラピーの教科書」 新星出版社 ISBN: 978-4405091658						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	家族関係学							
担当教員	竹田 美知					科目ナンバー	U72030	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会における人間関係について、その基本的単位である家族について理解する。現代家族の諸現象、晩婚化、少子化、国際化を概説し、親子関係の密室化、夫婦関係のライフコース上の変化、家族と地域社会ネットワークを考える。授業はライフコース上の諸問題とその対処方法を家族関係学観点から探る。							
授業の概要	社会における人間関係について、その基本的単位である家族から理解をすすめる。現代家族の諸現象である、晩婚化、少子化、国際化を概説し、親子関係の密室化など夫婦関係のライフコース上の変化を捉えつつ、家族と地域社会ネットワークを考える。授業では、ライフコース上の諸問題や男女平等に関する問題とその対処方法を家族関係学観点から、現代の家族関係の多様化を多角的にとらえる視点を育成し、支援や援助のサービスのあり方を検討する。							
到達目標	(1) 高齢化、少子化、晩婚化などの現代家族の問題を社会学の専門用語を使って説明できる。 (2) 「家族に対する支援や援助サービスがどのように地域で行われているか」について調べてレポートを書くことができる。 (3) 現代家族について問題とされていることをグループで討論して発表することができる。							
授業計画	第1回 人の一生と家族 第2回 青年期の自立と家族（グループワーク） 第3回 家族の概念と定義 第4回 少子化とその原因分析（グループ発表） 第5回 子どもの発達と親の役割 第6回 家族関係を分析する理論—役割理論— 第7回 家族関係を分析する理論—ジェンダー理論—（ゲストスピーカー招聘予定） 第8回 家族関係を分析する理論—ライフコース理論— 第9回 人間関係を分析する理論—コーホート理論— 第10回 高齢社会と家族 第11回 共生社会と福祉（高齢者福祉・児童福祉）（グループワーク） 第12回 家族とグロバリゼーション（グループ発表） 第13回 夫婦関係と法律 第14回 親子関係と法律 第15回 家族生活と社会・期末試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業前に、各界の授業で扱うテーマの箇所を教科書を読んで予習する（学習時間60分） 授業後学習：第1回目はグループディスカッションした結果と官公庁統計データをもとに、女性のライフコースについてのレポートを作成する。（学習時間300分）第2回目はわが町の人口変動（少子化・高齢化）と子育て支援と高齢者福祉についての統計データを調べ、自治体の対策の現状と今後の課題についてレポートを作成する。（学習時間300分）							
授業方法	講義：女性のライフコース及び、高齢者福祉についてのグループワークを行う。グループワークの結果と統計資料や自治体の施策についてのフィールドワーク（授業外学習）の結果を合わせてプレゼンテーションを行う。グループワークの結果及びプレゼンテーションについては松蔭マナバを活用する。							
評価基準と評価方法	小レポート、発表と期末試験（授業外小レポート2回と授業集の小レポート60％ 期末試験 40％） レポートは、到達目標（3）に示されたグループワークの結果を基にして、到達目標（2）の自治体の支援サービスについて調べた結果をまとめる能力を測定する。評価基準を定めたルーブリック評価を行う。評価結果は松蔭マナバでフィードバックする。 期末試験は到達目標（1）に示された家族社会学の専門用語の理解、到達目標（2）に示された現代家族の問題解決についての理論的知識、汎用技能、態度が確認できる設問を用意する。試験結果は解説とともに返還する。							
履修上の注意	出席回数が開講日数の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。 学外に出て、地域のデータを集めたり、フィールドワークを実施しその結果を報告することがある、それに伴う交通費や入場料が必要な場合がある。20分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻3回で欠席1回とする。							
教科書	よくわかる現代家族【改訂版】神原文子、杉井順子、竹田美知 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-07683-3							
参考書	特になし							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	家族文化演習							
担当教員	白坂 文					科目ナンバー	U73120	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ブライダル・ビジネスの現状を理解し、業種や実態、ブライダルの歴史や慣習、挙式・披露宴、附帯するサービスに関する内容を学ぶ。また、婚礼企画やブライダル・アイテムの制作も行う。							
授業の概要	結婚、出産、死という様々なライフステージの中から特に結婚について取り上げ、ブライダルの基礎知識を踏まえ、ブライダル・マーケットの現状をビジネス的な視点で考察する。また人々の結婚観や価値観の多様化、個性化専門結婚式場の事業拡大や異業種からの参入などの実態についても考察する。 本学の理念であるキリスト教の愛の精神と結婚式の関係を理解した上で、ブライダル・ビジネスの業種や業態、ブライダルの歴史や慣習、挙式・披露宴、附帯するサービスやマナーについての基礎的な知識とマーケティングやサービスに関する授業を演習形式で行う。							
到達目標	(1) ブライダルの基礎知識を習得する (2) オリジナルのブライダル・プランの企画を提案できる (3) ブライダル・アイテムを制作できる							
授業計画	【ブライダルの基礎知識】 第1回 ブライダル・マーケットの現状と顧客ニーズ 第2回 ブライダルの歴史と現代のブライダル・トレンド 第3回 日本の挙式スタイル（神前式・仏前式・キリスト教式・人前式） 第4回 日本の挙式会場の特徴と披露宴スタイル（ホテル・専門式場・ゲストハウス・レストラン） 【ブライダル企画】 第5回 婚礼プロデュースの概要 第6回 ターゲット設定・コンセプト設定 第7回 ブライダル衣装、ウェディングケーキ、ブライダル・アイテム 第8回 ディスカッション 第9回 オリジナルのブライダル・プランの作成 第10回 オリジナルのブライダル・プランの作成（まとめ） 第11回 プレゼンテーション 【ブライダル・コーディネーター】 第12回 演出物の企画 第13回 ブライダル・アイテムの制作 第14回 ブライダル・アイテムの制作（まとめ） 第15回 プレゼンテーション、レポート作成							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：ブライダル雑誌を準備し、現在のトレンドとなっている衣装やウェディングケーキ、披露宴のイベント等を調べておく。 授業後学習：授業内で指示したテーマ・課題についてレポートを作成する。							
授業方法	演習							
評価基準と評価方法	授業態度：30% 授業への取り組み、積極性、プレゼンテーションを総合的に評価する。 レポート・作品：70% レポートの内容や作品の完成度で評価する。レポート・作品の評価後は、返却して各自にフィードバックする。							
履修上の注意	出席回数が開講日数の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席とする。 授業は実習を伴うため、各自必要なものを持参し忘れ物をしないこと。 ※学外見学を予定しているが、日時については土・日等になる可能性がある。交通費については実費負担となる。詳細は授業内に伝達することとする。							
教科書	「アシスタント・ブライダル・コーディネーター（ABC検定テキスト）」 日本ブライダル事業振興協会人材育成委員会編集 日本ブライダル事業振興協会発行							
参考書	適宜、プリントを配布する。							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	家族文化論							
担当教員	竹田 美知					科目ナンバー	U73110	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	少子化社会における家族文化について概説し、子どもが育つ環境を整備し支援していくための社会的支援について考える。家族がそのライフコースにおけるターニングポイントにおいて通過儀礼として経験する結婚、出産、死などに関して生活学の視点から考察をする。結婚、生(命)の誕生と終焉の場面において、家族や地域に受け継がれてきた儀礼が特定サービス産業に担われるに従い、変化を余儀なくされている、当事者本人と家族が、生(命)の選択や誕生、終焉に対して自由な選択肢を持つとともにリスクを持つといった葛藤に直面していることに焦点を当て解決策を考える。							
授業の概要	家族がそのライフステージにおいて経験する家族や地域に受け継がれてきた文化について考察する。当事者本人と家族が、結婚、生(命)の選択や誕生、子育て、青年期のアイデンティティ確立に対して自由な選択肢を持つとともにリスクを持つといった葛藤に直面していることに焦点を当て解決策を考える。また格差社会における子育てに焦点を当てるとともに、グローバル化が進んだ社会における多文化共生社会についても概説し、多様な家族文化の中で起こる問題点を解決する社会的支援について説明する。							
到達目標	1. 親や家族の関わり方についての歴史を概観し、近代社会における子育ての文化を理解できる。 2. 子ども(乳幼児)の発達と生活についての基本的な知識・理解をする。また保育観察を通して、子ども(乳幼児)と関わるためのコミュニケーションについて、実践的に学ぶ。 3. 多文化共生社会に育つ子どもの社会化を学び、家族文化の多様性を認識できる。							
授業計画	第1回 晩婚化―結婚に関する家族文化の変化―(グループワーク) 第2回 生殖技術のもたらすもの 第3回 子どもの社会化と文化 第4回 母性神話と3歳児神話 第5回 育児とジェンダー 第6回 ひとり親家族と社会的支援 第7回 子どもの運動機能の発達・基本的生活習慣、保育観察事前指導 第8回 保育観察(次回までに保育観察記録作成) 第9回 地域社会における子育て支援(ゲストスピーカー招聘予定) 第10回 子ども(乳幼児)の遊びと社会性の発達・地域子育てセンター事前指導 第11回 地域子育てセンター観察(次回までに保育観察記録作成)・(フィールドワーク) 第12回 日本のマイノリティー家族 第13回 家族の国際化と子ども・(プレゼンテーション) 第14回 多文化共生社会における子どものアイデンティティ 第15回 子どもと社会・文化環境、期末テスト							
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前事前学習：授業の前に次回授業に関する内容について参考書や新聞記事などを示すので、そのテーマに沿って下調べをする(学習時間60分) 授業前事後学習：第1回レポートは、結婚に関するレポートを課題とする。その歴史の変遷や現代の結婚が儀式として家族文化の中にどのように捉えられてきたかに関して、レポートを課す(学習時間300分)第2回レポートは、「子ども食堂」をテーマとして地域の子育て支援をフィールドワークをし、その観察記録を作成しプレゼンテーションを行う(学習時間420分)							
授業方法	講義：結婚に関する家族文化については、グループワークを行い女性のライフコースの中でどのような価値観によって、結婚の時期、配偶者選択、結婚式という文化が形成されるか、グループ討議を行い発表する。また子育ての文化については、ジェンダーに基づく価値観がどの様に浸透し今日の育児の文化が形成されてきたかを理論的に検討する。検討結果をもとに、フィールドワークを行い、地域における子育て支援の現状の把握し、格差社会における子育ての課題を考え、対策についてプレゼンテーションを行う。							
評価基準と評価方法	小レポート、発表と期末試験(小レポート60% 期末試験 40%) 小レポート：第1回レポートについては、到達目標(1)に関して親や家族の関わり方について結婚を取り上げ、晩婚化の中で近代社会における子育て文化の変化を理解しているか、到達度の確認をする。第2回レポートに関しては、地域における子育て支援センターのフィールドワークの体験記録作成によって、到達目標(2)および到達目標(3)を確認する。レポートは評価基準を事前にルーブリック評価として示し、松蔭マナバ上で評価結果を示し、その都度フィードバックする。 期末テスト：主に、到達目標(2)を確認するために、結婚に関する文化および子育て文化の歴史の変遷とその文化的背景についての理解度を評価する。試験結果は解説とともに返還する。							
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は定期試験の受験資格を失う。 学外に出て、データを集めたりフィールドワークをし、その結果を報告することがある。それに伴う交通費や入場料が必要な場合がある。20分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻3回で欠席1回とする。							
教科書	その都度配布物を渡します。							
参考書	グローバリゼーションと子どもの社会化：帰国子女・ダブルスの国際移動と多文化共生 学文社 ISBN 978-4-762024986							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	家庭電気・機械						
担当教員	長尾 夏樹・福田 博也					科目ナンバー	U72150
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	身近な家電情報機器の役割や仕組み						
授業の概要	家庭で使用される機器は科学技術の発達により高度化されてきた。とくに最近では、一般家電機器にもコンピュータが導入され、より高度で便利な機械へと変化している。本講義ではこれら機器の一般的特質を理解すること、それらの購入・使用とそれにまつわるさまざまな問題、トラブル発生時に具体的・現実的な処理・対応のための基本的知識を修得することを目的とする。また、これからの生活に不可欠なコンピュータの扱い方なども詳しく解説・指導し、初級システムアドミニストレータの資格取得できるくらいのレベルになるような教育を行う。 生活と技術との関係について、生産、家庭生活、教育の視点から考察する。家庭生活に関わる機器、情報通信技術と各種ソフトウェアに関する基礎的な知識を得る（知識・内容の理解）。家庭生活に関わる情報通信技術と各種ソフトウェア、情報セキュリティ等について関心を持つ（関心・意欲）。情報通信技術と各種ソフトウェアに関する諸問題について、倫理的な見方や考え方を身につける（態度）。						
到達目標	・身近にある家庭生活に関わる情報通信技術と各種ソフトウェアの仕組みがわかるようになる。 ・適切な製品を選択できるようになる。 ・機器を安全かつ有効に使用できるようになる。						
授業計画	第1回 食生活と機器（担当：福田） 第2回 衣生活と機器（担当：福田） 第3回 住生活と機器（担当：福田） 第4回 電気・機械の基礎知識（担当：福田） 第5回 家庭用のエネルギー（担当：福田） 第6回 技術と環境問題（担当：福田） 第7回 エネルギー変換、電池（担当：福田） 第8回 情報機器のしくみ・デジタルAV機器（担当：長尾） 第9回 情報機器のしくみ・家庭用パーソナルコンピュータ（担当：長尾） 第10回 情報ネットワークの仕組み（担当：長尾） 第11回 情報の収集、処理、分析、発信（担当：長尾） 第12回 通信ネットワーク、インターネットの現状と近未来（担当：長尾） 第13回 個人情報とプライバシー、情報セキュリティ（担当：長尾） 第14回 家庭の省エネルギー（担当：長尾） 第15回 まとめと期末試験（担当：長尾）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業内で事前に指示するテーマやキーワードについて下調べをする（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内で指示したテーマ・課題についてレポートを作成する（学習時間：2時間）						
授業方法	講義または学生による発表						
評価基準と評価方法	試験 60%、提出物 20%、授業での発表など 20%						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は定期試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	使用しません。適宜、資料を配布します。						
参考書	特になし						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	カフェマネジメント演習						
担当教員	藤田 佳子					科目ナンバー	U23460
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来カフェのオーナーを目指すものにとって必要な基礎知識を、実践しながら将来の出店も可能であるように修得できるよう学ぶ						
授業の概要	カフェのオープンに必要な準備やオープンまでのプロセス、開店後のマネジメント管理やイベント開催での集客についても考える。カフェの意義を考えながら、自らのイメージ店舗開店のシュミレーションまで行う。さらに、開店後のマネジメント管理、販売促進についての手法についても考えていく。これからのカフェマネジメントにより近い形で実践する。						
到達目標	(1) 前期での書面上のシュミレーションをもとに、必要なレイアウトを検討しテーブルセッティングを習得する【汎用的技能】 (2) カフェ経営における必要なメニュー作成、コーヒー紅茶の淹れ方の実践をおこない習得する【汎用的技能】 (3) カフェ経営における販売促進や、イベントを企画し発表する【汎用的技能】						
授業計画	第1回 カフェコンセプトの構築と、店舗イメージの確立、カラーと素材 第2回 テーブルセッティングとテーブルコーディネート演習 第3回 フードコーディネート演習(1) 第4回 カフェコーディネートとメニューのフィールドリサーチ(校外実習) 第5回 カフェコーディネートとメニューのフィールドリサーチ(校外実習) 第6回 コーヒーの淹れ方演習(1) 第7回 コーヒーの淹れ方とサーブ演習(2) 第8回 紅茶の淹れ方演習(1) 第9回 紅茶の淹れ方とサーブ演習(2) 第10回 ドリンクとフードメニューの作成と経営企画 レポート 第11回 販売促進とイベント企画のレポート 第12回 イベント企画プレゼンテーション 第13回 イベント企画プレゼンテーション 第14回 イベント企画実施のためのグループワーク 第15回 カフェイベント開催(演習)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業内で全ての学習やレポートを行う 授業内で完成できなかった人は次回までに完成させておくこと プレゼンテーション用などのレポートは準備学習						
授業方法	ディスカッション グループワーク プレゼンテーション 実習						
評価基準と評価方法	授業態度(実習への取り組み) 40% レポート 40% プレゼンテーション 20%						
履修上の注意	30分以上の遅刻の場合は欠席とする 出席回数が2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない						
教科書	プリントを配布する						
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	カフェマネジメント論						
担当教員	藤田 佳子					科目ナンバ－	U73510
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来カフェのオーナーを目指すものにとって必要な基礎知識を学修する						
授業の概要	カフェのオープンに必要な準備やオープンまでのプロセス、開店後のマネジメント管理やイベント開催での集客についても考える。カフェとは何か、カフェの歴史、現在のカフェ事情、将来的に開業を目指す場合の手順や準備すべき内容を理解する。自分が考えるカフェをイメージし店舗開店のシュミレーションまで行う。開店後のマネジメント管理、販売促進についての手法についても考えていく。						
到達目標	(1) カフェに関する一般基礎、開店準備までの知識を習得する 【知識・理解】 (2) 知識をもとに、リサーチをおこない、自らの店舗の開店シュミレーションをし、レポートを作成する 【知識・理解】 (3) シュミレーションしたカフェを開店後マネジメント管理、販売促進について企画し、レポートを作成する。 【知識・理解】						
授業計画	第1回 カフェの歴史 第2回 コーヒー・紅茶の歴史と基礎知識 第3回 食空間・食文化・テーブルコーディネート の基礎知識 第4回 カフェ事情 現在生活におけるカフェの意義 (日本・ヨーロッパ比較) 第5回 カフェコンセプトの設定方法と進め方の手順 第6回 店舗設計、平面計画についての基礎知識 第7回 物件事情と設計依頼、人材教育と管理 第8回 開業手順の基礎知識 リサーチのための準備 第9回 多様化するカフェのフィールドワーク (校外実習) シュミレーションのための情報収集 1時間 第10回 多様化するカフェのフィールドワーク (校外実習) シュミレーションのための情報収集 1時間 第11回 カフェ開業のための経営基礎 (1) 第12回 カフェ開業のための経営基礎 (2) 第13回 店舗開店シュミレーション (1) 第14回 店舗開店シュミレーション (2) 第15回 店舗開店後販売促進企画						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業時間内ですべての学習やレポートを行う。 授業時間内で完成できなかった人は次の回までに完成させておくこと						
授業方法	ディスカッション グループワーク プレゼンテーション フィールドワーク						
評価基準と評価方法	授業態度20% 授業内レポート 50% 最終シュミレーションレポート 30%						
履修上の注意	授業内容を理解し、レポートを提出すること そのうえでリサーチを行うこと リサーチ後は自分自身の知識でシュミレーションを行うこと 出席回数が開講日数の2/3に満たないものは原則単位認定を行わない フィールドワークはシュミレーションのためのリサーチをおこない交通費、飲食代などは実費負担						
教科書	プリントを配布する						
参考書	カフェ開業 パーフェクトマニュアル 竹谷稔彦著 株商店建築社 04466-02 4910044660282 03241						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	官能評価演習						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバー	U23480
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3～4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ヒトの五感（味覚、嗅覚、視覚、聴覚、触覚）を用いて食品を評価する手法の種類と方法を修得する。食品の鮮度やおいしさの指標となる項目を学び、食品の鑑別方法を修得する。						
授業の概要	講義と演習（一部実験）を行い、食品のおいしさや品質について学ぶ。						
到達目標	食品企業などで行われる市場調査や嗜好調査に用いられる基本的な官能評価を実施することができる。代表的な食品の鮮度判定ができる。食品のおいしさや品質に大きな影響をおよぼす反応について理解し、その原理を説明できる。						
授業計画	第1回 はじめに 食品の官能評価とは（講義） 第2回 官能評価の実施法（講義） 第3回 パネル選定のための味覚感度テスト 第4回 2点比較法 味噌汁の塩分濃度の識別 第5回 2点比較法 ココアの嗜好試験 第6回 3点識別試験法 チョコレートの識別 第7回 配偶法 紅茶の識別 順位法 スポーツドリンク嗜好の一致性 第8回 うまみの相乗効果 官能評価（ゲストスピーカー招へい予定） 第9回 評点法 クッキーの嗜好調査 第10回 食品の品質と鑑別方法（講義） 第11回 りんごの酵素褐変 第12回 アミノカルボニル反応 第13回 果実のおいしさ 糖度と酸度測定 第14回 卵の鮮度判定 第15回 野菜に含まれるクロロフィルの変色、 レポート提出						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習科目のため、原則として授業時間内にデータ整理、考察などのすべての学習を行う。ただし、実験の授業についてはレポート作成のための文献調査などの授業外での学習を行うこと（学習時間90分）。						
授業方法	講義、演習、実験 演習では官能評価の調査員側とパネルメンバーを交代で行う。 実験は結果についてグループごとにディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業態度 30% レポート 70%						
履修上の注意	食品を扱うので衛生面には留意すること。演習・実験の時は白衣着用のこと。 食品アレルギーのある学生は事前にその旨連絡してください。						
教科書	三訂食品の官能評価・鑑別演習 フードスペシャリスト協会編 建帛社 その他 プリント配布						
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	起業マネジメント論							
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバー	U73580	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	企（起）業家精神の広がりを歴史的・社会的背景と関連させながら、次世代リーダーに求められる資質とスキルの必要性について理解を深める。							
授業の概要	2011年は大手証券会社や電機メーカー、製薬メーカーなど、複数の著名な企業で初の女性役員が誕生した。男女雇用機会均等法を受けて大手企業に女性の総合職が初めて登場した1980年代半ば以降、女性の社会進出が奨励され、女性を活用したCSRやプロジェクトが目立つようになってきた。その過程として、1990年代後半には、ダイバーシティ推進部や経済雑誌などに登場する女性看板部長が出現してきた。しかし実態としては、厚生労働省の調べによると日本企業の助成役員の比率は諸外国に比べるとまだまだ低い。女性の管理職登用が他国に比べて遅れている日本において、どのような知識と仕組みが必要なのかを理解していく。							
到達目標	①地域で変化を起こす先導的な役割を果たす人たちの特徴をつかむことができる。 ②アントレプレナーシップを発揮できる知識が身に付く。 ③基本的な知識を体系的に習得することができる。							
授業計画	第1回 アントレプレナーシップの基礎理論 第2回 アントレプレナーシップの社会的意義 第3回 アントレプレナーシップの倫理教育（必要なスキル！） 第4回 独立アントレプレナー（起業への影響要因と起業プロセス） 第5回 ファミリー・アントレプレナー 第6回 コーポレート・アントレプレナー 第7回 アカデミック・アントレプレナー 第8回 ソーシャル・アントレプレナー 第9回 誕生・成長初期のアントレプレナーシップ 第10回 成長期のアントレプレナーシップと外部資源 第11回 成長期のアントレプレナーシップと内部資源 第12回 長寿企業とアントレプレナーシップ 第13回 アントレプレナーシップとエスニック・マイノリティ 第14回 グローバル・アントレプレナーシップ 第15回 アントレプレナーシップとエコシステム							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】アップルやFacebook、ユニクロなど各創業者・起業者のヒストリーを紹介するので、読んでおくこと（2時間） 【授業後】新聞・雑誌必読。さらに、課題を見つけて復習をしておくこと（1時間）							
授業方法	講義							
評価基準と評価方法	中間テスト（20％）、レポート（2回）（20％）、期末試験（60％）によって総合的に判断する。							
履修上の注意	①観光産業の取り組みなど、知識を増やすために新聞やニュースを常に見ておくこと。 ②授業中の携帯電話やメールの使用、居眠り、私語、途中退出・遅刻等に対しては厳しく対処する。 ※講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 ※20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ③アクティブラーニング（グループワーク、ディスカッション等）を積極的に取り入れる。							
教科書	山田幸三・江島由裕編著『1からのアントレプレナーシップ』中央経済社、2017年							
参考書	随時紹介する。							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎栄養学						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバ	U12120
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養について科学的に理解し、乳児期から高齢期までの各ステージにおける栄養に応用できる。						
授業の概要	食物から摂取される各栄養素は身体の構成成分、細胞および臓器間での代謝に利用され、生命維持、体温保持、成長発育、活動、生殖に不可欠な役割を担う。本講義ではまず、「栄養とは何か」、その意義について理解する。次いで、主に各栄養素の種類と特徴およびその生理作用、そして生体における代謝について学ぶ。さらに、主要なライフステージの応用栄養学へと発展させる。 具体的には、①栄養の概念、②5栄養素と消化・吸収・体内動態、③食品の機能性、④ライフステージと栄養、⑤生活習慣と健康などについて解説する。						
到達目標	・5大栄養素の消化・吸収、代謝の過程と、体内での役割が記述できるようになる。 ・主要なライフステージでの栄養の特徴が答えられるようになる。 ・食品の機能性について列挙できるようになる。						
授業計画	第1回 健康と栄養：健康概念と栄養・食生活 第2回 食事と栄養物質(1)：炭水化物の栄養 第3回 食事と栄養物質(2)：脂質の栄養 第4回 食事と栄養物質(3)：タンパク質の栄養 第5回 食事と栄養物質(4)：タンパク質の栄養 小テスト 第6回 食事と栄養物質(5)：ビタミン・ミネラルの栄養 第7回 食事と栄養物質(6)：エネルギー代謝 第8回 食事と健康 第9回 健康づくりのための政策・指針 小テスト 第10回 健康とダイエット 第11回 ライフステージと栄養(1)：胎児・妊娠・授乳期 新生児期・乳児期 第12回 ライフステージと栄養(2)：幼児期・学童期・思春期 小テスト 第13回 ライフステージと栄養(3)：成人期・高齢期 第14回 生活習慣病と栄養 第15回 免疫と栄養 期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って教科書の該当するところをあらかじめ読んでおく（学習時間：1時間）。 授業後：配布プリントや採点・返却後の小テストを使い学習内容をノートにまとめる（学習時間：1時間）。						
授業方法	講義 ただし、ライフステージ栄養学の授業時にはグループディスカッションと発表を行う。						
評価基準と評価方法	授業態度10%、小テスト40%、期末テスト50%						
履修上の注意	積極的に学ぶ姿勢が必要です。						
教科書	三訂 栄養と健康 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 その他適宜プリント配布						
参考書	特になし						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバー	U0106A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。						
授業の概要	都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レジュメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。						
到達目標	・図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。【汎用的技能】 ・学科での学びの基礎となる、レポート作成及びプレゼンテーション技法の基本的なスキルが身についている。【汎用的技能】 ・フィールドワークに主体的に取り組むことができる。【態度・志向性】						
授業計画	1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 大学での学び方 3. 図書館オリエンテーション 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体） 9. レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論） 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. フィールドワークの計画 12. フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索） 13. フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー） 14. フィールドワークのまとめ（グループワークと発表） 15. 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習科目なので、授業によって出される課題（例：資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備）などを次の講義まで行う。また、個々の課題に応じた補充的学習を推奨する。（1時間）						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	・授業内のリアクションペーパーやワークシート記入状況、受講態度など（40%） ・作成したレポート、プレゼンテーションに用いた資料（レジュメ）など（60%） による総合評価						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがあるので、入場料や交通費などの実費負担がある。						
教科書	授業毎にプリントを配付する。						
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバー	U0106A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。						
授業の概要	都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レジュメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。						
到達目標	・図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。【汎用的技能】 ・学科での学びの基礎となる、レポート作成及びプレゼンテーション技法の基本的なスキルが身についている。【汎用的技能】 ・フィールドワークに主体的に取り組むことができる。【態度・志向性】						
授業計画	1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 大学での学び方 3. 図書館オリエンテーション 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体） 9. レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論） 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. フィールドワークの計画 12. フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索） 13. フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー） 14. フィールドワークのまとめ（グループワークと発表） 15. 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習科目なので、授業によって出される課題（例：資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備）などを次の講義まで行う。また、個々の課題に応じた補充的学習を推奨する。（1時間）						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	・授業内のリアクションペーパーやワークシート記入状況、受講態度など（40%） ・作成したレポート、プレゼンテーションに用いた資料（レジュメ）など（60%） による総合評価						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがあるので、入場料や交通費などの実費負担がある。						
教科書	授業毎にプリントを配付する。						
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	金丸 彰寿					科目ナンバー	U0106A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。						
授業の概要	都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レジュメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。						
到達目標	・図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。【汎用的技能】 ・学科での学びの基礎となる、レポート作成及びプレゼンテーション技法の基本的なスキルが身についている。【汎用的技能】 ・フィールドワークに主体的に取り組むことができる。【態度・志向性】						
授業計画	1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 大学での学び方 3. 図書館オリエンテーション 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体） 9. レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論） 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. フィールドワークの計画 12. フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索） 13. フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー） 14. フィールドワークのまとめ（グループワークと発表） 15. 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習科目なので、授業によって出される課題（例：資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備）などを次の講義まで行う。また、個々の課題に応じた補充的学習を推奨する。（1時間）						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	・授業内のリアクションペーパーやワークシート記入状況、受講態度など（40%） ・作成したレポート、プレゼンテーションに用いた資料（レジュメ）など（60%） による総合評価						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがあるので、入場料や交通費などの実費負担がある。						
教科書	授業毎にプリントを配付する。						
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバー	U0106A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。						
授業の概要	都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レジュメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。						
到達目標	・図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。【汎用的技能】 ・学科での学びの基礎となる、レポート作成及びプレゼンテーション技法の基本的なスキルが身についている。【汎用的技能】 ・フィールドワークに主体的に取り組むことができる。【態度・志向性】						
授業計画	1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 大学での学び方 3. 図書館オリエンテーション 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体） 9. レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論） 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. フィールドワークの計画 12. フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索） 13. フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー） 14. フィールドワークのまとめ（グループワークと発表） 15. 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習科目なので、授業によって出される課題（例：資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備）などを次の講義まで行う。また、個々の課題に応じた補充的学習を推奨する。（1時間）						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	・授業内のリアクションペーパーやワークシート記入状況、受講態度など（40%） ・作成したレポート、プレゼンテーションに用いた資料（レジュメ）など（60%） による総合評価						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがあるので、入場料や交通費などの実費負担がある。						
教科書	授業毎にプリントを配付する。						
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバー	U0106A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。						
授業の概要	都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レジュメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。						
到達目標	・図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。【汎用的技能】 ・学科での学びの基礎となる、レポート作成及びプレゼンテーション技法の基本的なスキルが身についている。【汎用的技能】 ・フィールドワークに主体的に取り組むことができる。【態度・志向性】						
授業計画	1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 大学での学び方 3. 図書館オリエンテーション 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体） 9. レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論） 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. フィールドワークの計画 12. フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索） 13. フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー） 14. フィールドワークのまとめ（グループワークと発表） 15. 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習科目なので、授業によって出される課題（例：資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備）などを次の講義まで行う。また、個々の課題に応じた補充的学習を推奨する。（1時間）						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	・授業内のリアクションペーパーやワークシート記入状況、受講態度など（40%） ・作成したレポート、プレゼンテーションに用いた資料（レジュメ）など（60%） による総合評価						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがあるので、入場料や交通費などの実費負担がある。						
教科書	授業毎にプリントを配付する。						
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバー	U0106A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。						
授業の概要	都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レジュメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。						
到達目標	・図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。【汎用的技能】 ・学科での学びの基礎となる、レポート作成及びプレゼンテーション技法の基本的なスキルが身についている。【汎用的技能】 ・フィールドワークに主体的に取り組むことができる。【態度・志向性】						
授業計画	1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 大学での学び方 3. 図書館オリエンテーション 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体） 9. レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論） 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. フィールドワークの計画 12. フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索） 13. フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー） 14. フィールドワークのまとめ（グループワークと発表） 15. 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習科目なので、授業によって出される課題（例：資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備）などを次の講義まで行う。また、個々の課題に応じた補充的学習を推奨する。（1時間）						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	・授業内のリアクションペーパーやワークシート記入状況、受講態度など（40%） ・作成したレポート、プレゼンテーションに用いた資料（レジュメ）など（60%） による総合評価						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがあるので、入場料や交通費などの実費負担がある。						
教科書	授業毎にプリントを配付する。						
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目																																
科目名	基礎演習B																																
担当教員	担当者未定					科目ナンバー	U0106B																										
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0																									
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科に隣接する諸分野の入門的な内容を各教員のローテーション形式による講義の中で学ぶ中で、「都市生活」に関する認識、洞察をより一層深めるための基礎訓練をテーマとしている。																																
授業の概要	基礎演習Aに引き続き、本学科で学ぶ内容を概観できるよう、生活科学、社会生活、社会システム、生活行動などに対する基礎知識や調査あるいは演習の基礎を学ぶことを目的とする。家族や生活を取り巻く諸環境について導入的な解説を行い、多様な演習を通じて、本学科で学ぶ上で必要となる基礎を養う。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。																																
到達目標	・各専門領域の入門的内容についての基礎的知識を身につける。【知識・理解】 ・学習テーマについて、自らの考えをもち、他者にわかりやすく説明することができる。【汎用的技能】 ・主体的な姿勢で講義に参加することができる。【態度・志向性】																																
授業計画	1. 夏休みの課題報告Ⅰ（夏休みの報告・神戸フィールドワークレポートの発表） 2. クラス別課題探求（ローテーション講義へ向けた心構え） 3～14：ローテーション形式の演習下記の表に従って行う。 （○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す） 各教員のテーマ 奥井「生活経営入門」 長谷川「キャリア入門」 花田「衣生活入門」 <table><tr><td></td><td>UL①</td><td>UL②</td><td>UL③</td></tr><tr><td>3～6回</td><td>花田</td><td>奥井</td><td>長谷川</td></tr><tr><td>7～10回</td><td>長谷川</td><td>花田</td><td>奥井</td></tr><tr><td>11～14回</td><td>奥井</td><td>長谷川</td><td>花田</td></tr></table> 各教員のテーマ 青谷「マーケティング入門」 川口「食生活入門」 <table><tr><td></td><td>UB①</td><td>UB②</td></tr><tr><td>3～8回</td><td>川口</td><td>青谷</td></tr><tr><td>9～14回</td><td>青谷</td><td>川口</td></tr></table> 15. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて									UL①	UL②	UL③	3～6回	花田	奥井	長谷川	7～10回	長谷川	花田	奥井	11～14回	奥井	長谷川	花田		UB①	UB②	3～8回	川口	青谷	9～14回	青谷	川口
	UL①	UL②	UL③																														
3～6回	花田	奥井	長谷川																														
7～10回	長谷川	花田	奥井																														
11～14回	奥井	長谷川	花田																														
	UB①	UB②																															
3～8回	川口	青谷																															
9～14回	青谷	川口																															
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習科目なので、授業によって出される課題（例：資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備）などを次の講義まで行う。また、個々の課題に応じた補充的学習を推奨する。（1時間）																																
授業方法	演習																																
評価基準と評価方法	・授業内のリアクションペーパーやワークシート記入状況、受講態度など（40%） ・作成したレポート、プレゼンテーションに用いた資料（レジュメ）など（60%） による総合評価																																
履修上の注意	・出席及び授業への参加度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。																																
教科書	授業毎にプリントを配布する。																																
参考書																																	

科目区分	都市生活学科専門教育科目																																
科目名	基礎演習B																																
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバー	U0106B																										
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0																									
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科に隣接する諸分野の入門的な内容を各教員のローテーション形式による講義の中で学ぶ中で、「都市生活」に関する認識、洞察をより一層深めるための基礎訓練をテーマとしている。																																
授業の概要	基礎演習Aに引き続き、本学科で学ぶ内容を概観できるよう、生活科学、社会生活、社会システム、生活行動などに対する基礎知識や調査あるいは演習の基礎を学ぶことを目的とする。家族や生活を取り巻く諸環境について導入的な解説を行い、多様な演習を通じて、本学科で学ぶ上で必要となる基礎を養う。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。																																
到達目標	・各専門領域の入門的内容についての基礎的知識を身につける。【知識・理解】 ・学習テーマについて、自らの考えをもち、他者にわかりやすく説明することができる。【汎用的技能】 ・主体的な姿勢で講義に参加することができる。【態度・志向性】																																
授業計画	1. 夏休みの課題報告Ⅰ（夏休みの報告・神戸フィールドワークレポートの発表） 2. クラス別課題探求（ローテーション講義へ向けた心構え） 3～14：ローテーション形式の演習下記の表に従って行う。 （○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す） 各教員のテーマ 奥井「生活経営入門」 長谷川「キャリア入門」 花田「衣生活入門」 <table><tr><td></td><td>UL①</td><td>UL②</td><td>UL③</td></tr><tr><td>3～6回</td><td>花田</td><td>奥井</td><td>長谷川</td></tr><tr><td>7～10回</td><td>長谷川</td><td>花田</td><td>奥井</td></tr><tr><td>11～14回</td><td>奥井</td><td>長谷川</td><td>花田</td></tr></table> 各教員のテーマ 青谷「マーケティング入門」 川口「食生活入門」 <table><tr><td></td><td>UB①</td><td>UB②</td></tr><tr><td>3～8回</td><td>川口</td><td>青谷</td></tr><tr><td>9～14回</td><td>青谷</td><td>川口</td></tr></table> 15. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて									UL①	UL②	UL③	3～6回	花田	奥井	長谷川	7～10回	長谷川	花田	奥井	11～14回	奥井	長谷川	花田		UB①	UB②	3～8回	川口	青谷	9～14回	青谷	川口
	UL①	UL②	UL③																														
3～6回	花田	奥井	長谷川																														
7～10回	長谷川	花田	奥井																														
11～14回	奥井	長谷川	花田																														
	UB①	UB②																															
3～8回	川口	青谷																															
9～14回	青谷	川口																															
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習科目なので、授業によって出される課題（例：資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備）などを次の講義まで行う。また、個々の課題に応じた補充的学習を推奨する。（1時間）																																
授業方法	演習																																
評価基準と評価方法	・授業内のリアクションペーパーやワークシート記入状況、受講態度など（40%） ・作成したレポート、プレゼンテーションに用いた資料（レジュメ）など（60%） による総合評価																																
履修上の注意	・出席及び授業への参加度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。																																
教科書	授業毎にプリントを配布する。																																
参考書																																	

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバー	U0106B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科に隣接する諸分野の入門的な内容を各教員のローテーション形式による講義の中で学ぶ中で、「都市生活」に関する認識、洞察をより一層深めるための基礎訓練をテーマとしている。						
授業の概要	基礎演習Aに引き続き、本学科で学ぶ内容を概観できるよう、生活科学、社会生活、社会システム、生活行動などに対する基礎知識や調査あるいは演習の基礎を学ぶことを目的とする。家族や生活を取り巻く諸環境について導入的な解説を行い、多様な演習を通じて、本学科で学ぶ上で必要となる基礎を養う。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。						
到達目標	・各専門領域の入門的内容についての基礎的知識を身につける。【知識・理解】 ・学習テーマについて、自らの考えをもち、他者にわかりやすく説明することができる。【汎用的技能】 ・主体的な姿勢で講義に参加することができる。【態度・志向性】						
授業計画	1. 夏休みの課題報告Ⅰ（夏休みの報告・神戸フィールドワークレポートの発表） 2. クラス別課題探求（ローテーション講義へ向けた心構え） 3～14：ローテーション形式の演習下記の表に従って行う。 （○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す） 各教員のテーマ 奥井「生活経営入門」 長谷川「キャリア入門」 花田「衣生活入門」 UL① UL② UL③ 3～6回 花田 奥井 長谷川 7～10回 長谷川 花田 奥井 11～14回 奥井 長谷川 花田 各教員のテーマ 青谷「マーケティング入門」 川口「食生活入門」 UB① UB② 3～8回 川口 青谷 9～14回 青谷 川口 15. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習科目なので、授業によって出される課題（例：資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備）などを次の講義まで行う。また、個々の課題に応じた補充的学習を推奨する。（1時間）						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	・授業内のリアクションペーパーやワークシート記入状況、受講態度など（40%） ・作成したレポート、プレゼンテーションに用いた資料（レジュメ）など（60%） による総合評価						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。						
教科書	授業毎にプリントを配布する。						
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	基礎演習B							
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバー	U0106B	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科に隣接する諸分野の入門的な内容を各教員のローテーション形式による講義の中で学ぶ中で、「都市生活」に関する認識、洞察をより一層深めるための基礎訓練をテーマとしている。							
授業の概要	基礎演習Aに引き続き、本学科で学ぶ内容を概観できるよう、生活科学、社会生活、社会システム、生活行動などに対する基礎知識や調査あるいは演習の基礎を学ぶことを目的とする。家族や生活を取り巻く諸環境について導入的な解説を行い、多様な演習を通じて、本学科で学ぶ上で必要となる基礎を養う。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。							
到達目標	・各専門領域の入門的内容についての基礎的知識を身につける。【知識・理解】 ・学習テーマについて、自らの考えをもち、他者にわかりやすく説明することができる。【汎用的技能】 ・主体的な姿勢で講義に参加することができる。【態度・志向性】							
授業計画	1. 夏休みの課題報告Ⅰ（夏休みの報告・神戸フィールドワークレポートの発表） 2. クラス別課題探求（ローテーション講義へ向けた心構え） 3～14：ローテーション形式の演習下記の表に従って行う。 （○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す） 各教員のテーマ 奥井「生活経営入門」 長谷川「キャリア入門」 花田「衣生活入門」 UL① UL② UL③ 3～6回 花田 奥井 長谷川 7～10回 長谷川 花田 奥井 11～14回 奥井 長谷川 花田 各教員のテーマ 青谷「マーケティング入門」 川口「食生活入門」 UB① UB② 3～8回 川口 青谷 9～14回 青谷 川口 15. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習科目なので、授業によって出される課題（例：資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備）などを次の講義まで行う。また、個々の課題に応じた補充的学習を推奨する。（1時間）							
授業方法	演習							
評価基準と評価方法	・授業内のリアクションペーパーやワークシート記入状況、受講態度など（40%） ・作成したレポート、プレゼンテーションに用いた資料（レジュメ）など（60%） による総合評価							
履修上の注意	・出席及び授業への参加度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。							
教科書	授業毎にプリントを配布する。							
参考書								

科目区分	都市生活学科専門教育科目																																
科目名	基礎演習B																																
担当教員	花田 美和子					科目ナンバー	U0106B																										
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0																									
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科に隣接する諸分野の入門的な内容を各教員のローテーション形式による講義の中で学ぶ中で、「都市生活」に関する認識、洞察をより一層深めるための基礎訓練をテーマとしている。																																
授業の概要	基礎演習Aに引き続き、本学科で学ぶ内容を概観できるよう、生活科学、社会生活、社会システム、生活行動などに対する基礎知識や調査あるいは演習の基礎を学ぶことを目的とする。家族や生活を取り巻く諸環境について導入的な解説を行い、多様な演習を通じて、本学科で学ぶ上で必要となる基礎を養う。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。																																
到達目標	・各専門領域の入門的内容についての基礎的知識を身につける。【知識・理解】 ・学習テーマについて、自らの考えをもち、他者にわかりやすく説明することができる。【汎用的技能】 ・主体的な姿勢で講義に参加することができる。【態度・志向性】																																
授業計画	1. 夏休みの課題報告Ⅰ（夏休みの報告・神戸フィールドワークレポートの発表） 2. クラス別課題探求（ローテーション講義へ向けた心構え） 3～14：ローテーション形式の演習下記の表に従って行う。 （○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す） 各教員のテーマ 奥井「生活経営入門」 長谷川「キャリア入門」 花田「衣生活入門」 <table><tr><td></td><td>UL①</td><td>UL②</td><td>UL③</td></tr><tr><td>3～6回</td><td>花田</td><td>奥井</td><td>長谷川</td></tr><tr><td>7～10回</td><td>長谷川</td><td>花田</td><td>奥井</td></tr><tr><td>11～14回</td><td>奥井</td><td>長谷川</td><td>花田</td></tr></table> 各教員のテーマ 青谷「マーケティング入門」 川口「食生活入門」 <table><tr><td></td><td>UB①</td><td>UB②</td></tr><tr><td>3～8回</td><td>川口</td><td>青谷</td></tr><tr><td>9～14回</td><td>青谷</td><td>川口</td></tr></table> 15. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて									UL①	UL②	UL③	3～6回	花田	奥井	長谷川	7～10回	長谷川	花田	奥井	11～14回	奥井	長谷川	花田		UB①	UB②	3～8回	川口	青谷	9～14回	青谷	川口
	UL①	UL②	UL③																														
3～6回	花田	奥井	長谷川																														
7～10回	長谷川	花田	奥井																														
11～14回	奥井	長谷川	花田																														
	UB①	UB②																															
3～8回	川口	青谷																															
9～14回	青谷	川口																															
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習科目なので、授業によって出される課題（例：資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備）などを次の講義まで行う。また、個々の課題に応じた補充的学習を推奨する。（1時間）																																
授業方法	演習																																
評価基準と評価方法	・授業内のリアクションペーパーやワークシート記入状況、受講態度など（40%） ・作成したレポート、プレゼンテーションに用いた資料（レジュメ）など（60%） による総合評価																																
履修上の注意	・出席及び授業への参加度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。																																
教科書	授業毎にプリントを配布する。																																
参考書																																	

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	金融商品学							
担当教員	前田 直哉					科目ナンバー	U73100	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	月曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	金融商品の体系的知識を習得するとともに、生活者の立場からライフプランに合った金融商品の選び方を学ぶ。							
授業の概要	金融に関する基本的な理解やそれぞれの金融商品のメリットやリスクの理解、証券税制や金融商品全体の体系的な知識を学ぶ。特に金融商品の持つさまざまなリスクや金融トラブルを回避するための基礎知識と対処法、金融商品や金融機関に関する法律などについて理解を深める。具体的には、生活者の立場から金融商品の選び方・組み合わせ方、金融商品を巡る環境の変化と自己責任、ライフプランに合った金融商品の選択、金融機関破綻と金融商品保護について学ぶ。							
到達目標	(1)「ライフプランニングの中に金融商品がどのように位置付けられ、その重要性がどのようなものであるかということを理解できるようになる」【知識・理解】 (2)「金融商品の体系的な知識を習得し、その具体的説明ができるようになる」【汎用的技能】 (3)「生活者の立場からライフプランに合った金融商品の選び方を身近なものとして認識できるようになる」【態度・志向性】							
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 金融・経済の基本①：経済指標、金融市場と金利の変動要因 第3回 金融・経済の基本②：中央銀行と民間金融機関 第4回 金融・経済の基本③：金融政策と財政政策 第5回 セーフティネットと関連法規：預金保険制度、投資保護基金、消費者契約法、金融商品販売法、金融商品取引法、その他の法規 第6回 貯蓄型金融商品：金利の基礎知識、金融商品の種類 第7回 債券：債券の基本、債券の利回り、債券のリスク 第8回 株式：株式の基本、株式取引、信用取引、株式ミニ投資と株式累積投資(るいとう)、株式指標 第9回 第1～8回のまとめと中間試験 第10回 投資信託：投資信託の基本、投資信託の分類、主な投資信託の種類、投資信託のディスクロージャー、トータルリターン通知制度、投資信託取引 第11回 外貨建て金融商品：外貨建て金融商品の基本、主な外貨建て金融商品 第12回 その他の商品：金融派生商品(デリバティブス)、金投資 第13回 ポートフォリオ理論：ポートフォリオ理論の基本、ポートフォリオ理論で用いる指標、ポートフォリオの期待収益率とリスク 第14回 金融商品と税金：預貯金と税金、債券と税金、株式と税金、投資信託と税金 第15回 第10～14回のまとめと定期試験							
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードについて、その関係文献を図書館で見つけて、読み込むこと(学習時間：90分) ・授業後学習：授業内で指定したテーマ・課題についてレポートを作成し、松陰manabaコースコンテンツに提出すること(学習時間：90分)							
授業方法	各回設定のテーマについて講義し、練習問題を出す。その練習問題にペアワークあるいはグループワークによって答えること。							
評価基準と評価方法	・定期試験(30%)：第10～14回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。 ・中間試験(30%)：第1～8回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・平常点(40%)：リアクションペーパー(講義内容に基づいた練習問題)と松陰manabaコースコンテンツへの提出物で内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。							
履修上の注意	・出席回数が規定に満たない場合は、原則として評価の対象としない。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・就職活動や公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席する場合は、証明書とともに、欠席届を提出した場合にのみ、考慮の対象とする。 ・講義への理解度を確認するため、講義中に小テストを行い、その結果は平常点をカウントする上での材料とする。							
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。							
参考書	授業中に適宜、紹介する。							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	化粧心理学						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバー	U73250
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	化粧行動の心理学的観点からの考察						
授業の概要	化粧行動は、人間の生存に直接関わる行為ではないにも関わらず、古来より世界各地でおこなわれてきた。その意味を知覚心理学、認知心理学、社会心理学、生理心理学、健康心理学、人格心理学、高齢者心理学などのさまざまな心理学的見地から考察する。また気候やシチュエーションなど実際の生活場面に適したスキンケアやメイクアップの方法について考える。人間として心身ともに健康に生きていくための力と知識を化粧行動をとおして身につける。						
到達目標	1. 化粧行動の効用を複数の心理学的観点から説明できる。[知識・理解] 2. 生活における化粧行動の意味について自分の考えを述べることができる。[知識・理解][態度・志向性] 3. 状況や場面に応じた化粧の方法について考えることができる。[知識・理解][汎用的技能]						
授業計画	1. オリエンテーション 2. 化粧の目的と歴史 3. さまざまな場面における化粧 4. 自己愛と化粧 5. 対人魅力と化粧 6. 肌の生理と環境 7. スキンケアの実際 8. スキンケアによる印象の違い 9. 顔における年齢・性別の印象 10. 表情と感情 11. 笑顔の視覚的特徴 12. メイクアップの実際 13. メイクアップによる印象の違い 14. 医療分野や高齢者における化粧 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業で指示する資料を収集し、まとめる。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で指定された課題を松蔭manabaコースコンテンツに投稿する（学習時間：2時間）						
授業方法	主に講義形式でおこなう。グループで設定のテーマについてディスカッションし発表をおこなうことや、授業前学習でまとめたものについて発表することもある。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物および松蔭manabaへの投稿(40%)：化粧行動に関連する自分の考えを表現する力や状況に応じた化粧の方法を考える力を評価する。到達目標2および3に関する到達度の確認。 試験(60%)：化粧や化粧行動の心理学的意味に関する理解度を評価する。到達目標1および2に関する到達度の確認。						
履修上の注意	10回以上の出席がないと、受講資格を失う。私語厳禁とする。						
教科書	適宜、プリントを配布する。						
参考書	「顔の百科事典」 丸善出版 ISBN: 978-4-621-08958-3 「化粧行動の社会心理学 化粧する人間のこころと行動」 北大路書房 ISBN: 978-4-7628-2226-1						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	公衆衛生学							
担当教員	竹市 仁美					科目ナンバー	U72410	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	人の健康と環境衛生・法律や制度・疾病について学び、疾病予防の必要性和その方法を学ぶ							
授業の概要	「公衆」の健康を保持増進するための理論と方法について学ぶ。特に、地域社会における生活者としての公衆衛生部分を重視する。「健康」とは何かについて定義し、公衆衛生学とわが国の公衆衛生の現状を踏まえ、衛生統計、衛生行政の基礎と現状、疾病と受療状況、保健医療対策などの諸問題について取り上げて講義する。特に、予防の概念の重要性を学ぶ。公衆衛生学の知識を全般的に学び、特に予防に関する理解を深め、身近で起こっている事象に対して、予防の概念がどの程度応用されているか理解できるようになることを目的とする。							
到達目標	(1)健康と疾病に関わる統計資料を活用し、その傾向性を把握できる【知識・理解】【汎用的技能】 (2)健康の保持増進のための対策を理解できる【知識・理解】 (3)保健、医療、福祉の制度を理解できる。【知識・理解】 (4)疾病予防の重要性を理解し、具体的に取組もうとする【態度・志向性】							
授業計画	第1回 公衆衛生の概念と歴史 第2回 健康と予防医学の概念 第3回 保健統計(人口、衛生環境) 第4回 保健統計(疾病) 第5回 日本人の生活習慣の現状と対策Ⅰ(食事と運動) 第6回 日本人の生活習慣の現状と対策Ⅱ(飲酒、喫煙、口腔保健) 第7回 日本人の生活習慣の現状と対策Ⅲ(休養、睡眠、ストレス) 第8回 健康日本21(第2次)と健康づくり 第9回 母子保健と施策 第10回 老人保健と施策 第11回 産業保健と環境保健 第12回 感染症の現状と予防対策 第13回 疫学の概念と方法 第14回 地球環境と食糧事情・食環境の整備と街づくり 第15回 授業内容のまとめ・期末試験							
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回授業の内容箇所の教科書予習し、関連のトピックについて下調べをする(学習時間90分) 授業後学習：授業内容の復習と要点箇所の整理、課題作成(学習時間90分)							
授業方法	講義(練習ワークやディスカッション)を取り入れながら、各回設定テーマに沿った解説・講義を行う							
評価基準と評価方法	授業内での提出物：20%(リアクションペーパー含む) 中間試験：20%(基礎となる知識を理解できているか教科書の内容について確認する) 期末試験：60%(講義の知識を理解し、健康や疾病予防について自らの考えを述べることができるか確認) 各課題に対する取り組みの評価：次週、クラスでシェアしながら共有できるようにする							
履修上の注意	1.欠席しないよう心がける。小テストなど欠席の場合は加点しない。 2.食品環境や健康と疾病などの身の回りのテーマに意識を向け、課題に取り組むこと。 3.授業回数の3分の1以上欠席した者は定期試験の受験資格を失うものとする。							
教科書	図解入門 よくわかる公衆衛生学の基本としくみ(メディカルサイエンスシリーズ)単行本 - 2018/8/24 上地 賢(著), 安藤 絵美子(著), 雑賀 智也(著)							
参考書	厚生労働統計協会/図説 国民衛生の動向 2018/2019							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	行動科学基礎演習Ⅰ						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバー	U22010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の基礎的な実験法と考え方の習得						
授業の概要	行動科学の基本となる心理学の基礎的な実験方法と考え方について学ぶ。少人数のグループに分かれ、知覚、学習・記憶、情意・行動などの心理学の基礎的な実験を、実験者および被験者のいずれの立場にもなって実施し、データを集計し、図表を作成し、統計的解析、考察を加え、レポートを作成する。このような一連の実験研究過程の経験を通して、科学的論理思考と実証方法を身につける。3年時の演習、4年時の卒業研究に向けた知識と技法を習得する。						
到達目標	1. 心理学の基礎的な実験手法を説明できる。[知識・理解] 2. エクセルを用いてデータ整理ができ、結果を図表で表すことができる。[汎用的技能] 3. データに基づいて考察を記述することができる。[汎用的技能] 4. 図表を含めたレポートを作成できる。[汎用的技能]						
授業計画	1. 授業の進め方、班分け 2. レポートの書き方(1)－構成－ 3. レポートの書き方(2)－図表の作成－ 4. ミュラーリヤーの錯視(1)－解説－ 5. ミュラーリヤーの錯視(2)－実験の実施－ 6. ミュラーリヤーの錯視(3)－データの整理－ 7. 鏡映描写(1)－解説と実験－ 8. 鏡映描写(2)－データの整理－ 9. 自由再生における系列位置効果(1)－解説と実験－ 10. 自由再生における系列位置効果(2)－データの整理－ 11. 要求水準(1)－解説と実験－ 12. 要求水準(2)－データの整理－ 13. 認知的葛藤(1)－解説と実験－ 14. 認知的葛藤(2)－データの整理－ 15. 講評						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：参考書の該当実験のページに目をとおしておく。(学習時間：2時間) 授業後学習：レポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出する。(学習時間：2時間)						
授業方法	実習形式でおこなう。 1つの実験をグループで実施する。グループで交互に実験者と被験者になり、取得したデータをグループでまとめる。考察は各自で考え、レポートとしてまとめたら、次のテーマの授業時間初めまでに、その回の実験レポートを松蔭manabaに提出する。						
評価基準と評価方法	レポート80%（締め切り厳守）：レポートの結果のまとめ方、図表の作成の仕方、考察の内容について評価する。到達目標1, 2, 3, 4に関する到達度の確認。 実験への取り組み20%：グループワークで実施する実験における協調性、積極性、粘り強さを評価する。到達目標5に関する到達度の確認。 レポートのフィードバックは松蔭manabaをとおして行う。						
履修上の注意	実験のため、毎回出席することが原則である。11回以上の出席がないと受講資格を失う。欠席する場合は、次回までに自分で補っておくようにする。15分以上の遅刻は欠席扱いにする。すべてのレポートを期限までに松蔭manabaに提出することが必須である。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	「実験とテスト＝心理学の基礎 実習編」心理学実験指導研究会 編 培風館						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	行動科学基礎演習Ⅱ						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバ	U22020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の基礎的な実験、検査・調査法と考え方の習得						
授業の概要	行動科学の基本となる心理学の基礎的な実験方法、検査や調査法と考え方について学ぶ。少人数のグループに分かれ、心理検査、イメージの測定、社会的態度尺度の作成法などの心理学の基礎的な検査や調査を、実験者および被験者のいずれの立場にもなって実施し、データを集計し、図表を作成し、統計的解析、考察を加え、レポートを作成する。このような一連の実験研究過程の経験を通して、科学的論理思考と実証方法を身につける。3年時の演習、4年時の卒業研究に向けた知識と技法を習得する。						
到達目標	1. 心理学の基礎的な実験、検査・調査手法を説明できる。[知識・理解] 2. エクセルを用いてデータ整理ができ、結果を図表で表すことができる。[汎用的技能] 3. データに基づいて考察を記述することができる。[汎用的技能] 4. 図表を含めたレポートを作成できる。[汎用的技能]						
授業計画	1. 講義の進め方、班分け 2. 状態不安尺度 (STAI) の受検と整理、解釈 3. YG性格検査 (1) ー解説ー 4. YG性格検査 (2) ー受検と評点ー 5. SD法によるイメージの測定 (1) ー解説と実験ー 6. SD法によるイメージの測定 (2) ーデータの整理ー 7. SD法によるイメージの測定 (3) ー解析ー 8. 一対比較による好悪の尺度化 (1) ー解説と実験ー 9. 一対比較による好悪の尺度化 (2) ーデータの整理ー 10. 一対比較による好悪の尺度化 (3) ー解析ー 10. 社会的態度尺度の構成 サーストンの態度尺度構成法 (1) ー解説と評定ー 11. 社会的態度尺度の構成 サーストンの態度尺度構成法 (2) ー整理と解釈ー 12. 社会的態度尺度の構成 リッカート法による態度測定 (1) ー解説と評定ー 13. 社会的態度尺度の構成 リッカート法による態度測定 (2) ー整理と解釈ー 15. 講評						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前学習：参考書の該当実験のページに目をとおしておく。(学習時間：2時間) 授業後学習：実験・調査のレポートをまとめ松蔭manabaコースコンテンツに提出する。(学習時間：2時間)						
授業方法	実習形式でおこなう。 1つの実験、検査・調査をグループで実施する。グループで交互に実験者と被験者になり、取得したデータをグループでまとめる。考察は各自で考え、レポートとしてまとめたら、次のテーマの授業時間初めまでに、その回の実験レポートを松蔭manabaに提出する。						
評価基準と評価方法	レポート80% (締め切り厳守)：レポートの結果のまとめ方、図表の作成の仕方、考察の内容について評価する。 到達目標1, 2, 3, 4に関する到達度の確認。 実験への取り組み20%：グループワークで実施する実験、検査・調査における協調性、積極性、粘り強さを評価する。 到達目標5に関する到達度の確認。 レポートのフィードバックは松蔭manabaをとおして行う。						
履修上の注意	実験のため、毎回出席することが原則である。11回以上の出席がないと受講資格を失う。都合により欠席する場合は、次回までに自分で補っておくようにすること。15分以上の遅刻は欠席扱いにする。すべてのレポートを提出期限までに提出することが必須である。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	「実験とテスト＝心理学の基礎 実習編」心理学実験指導研究会 編 培風館						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	神戸の食と文化							
担当教員	江 弘毅					科目ナンバー	U73640	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	木曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	地元・神戸の食と文化を概観するとともに、その特徴や魅力を押さえる。							
授業の概要	海と山に囲まれ自然に恵まれた環境にある神戸は、開港以来、外国文化を取り入れ、洋菓子・パン・洋食・中華など日本独自の料理に限られることのない。多様で国際色豊かな食文化を培ってきた。近年、世界からも注目される日本の味わいの土台をつくり、外国の食文化と日本独自の食文化をうまく融合させて、日本の食をけん引してきた神戸の食。その背景にある文化を歴史的に考察しながら、江戸時代から現代に至る神戸の食文化の変遷と熟成について理解を深める。							
到達目標	(1)「地元人」というスタンスから神戸の食について知り、語り、書き、表現することができる。 (2)和食、フランス料理、中国料理などの神戸の代表的料理の特徴を理解し、わかりやすく説明することができる。 (3)魅力ある神戸グルメについて、独自の企画を立てたり情報発信することができる。							
授業計画	第1回 ガイダンス 「神戸の食」をどう見るか 第2回 神戸の地勢と食材 第3回 「上方(摂津の)料理」としての神戸の食 第4回 天下の台所・大坂と兵庫津 第5回 灘の生一本。日本酒づくり 第6回 神戸開港と洋食文化。阿利機（オリーブ）園と泉州タマネギ 第7回 オリエンタルホテルの客船の洋食の系譜 第8回 「パンの街・神戸」のパンの歴史と展開 第9回 「スイーツと喫茶店の街・神戸」の歴史と展開 第10回 世界を魅了する「神戸ビーフ」 第11回 神戸の中国料理 第12回 神戸の各国料理 第13回 神戸のお好み焼き 第14回 神戸観光とグルメ 第15回 この授業のまとめと試論提出							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前、授業後に神戸の食に関する参考書を読んで、キーワードや専門用語を理解する（1時間）。 神戸にある老舗の洋食店、パン屋、洋菓子店を意識して訪ね、食べるなど実体験する（1時間）。 雑誌など出版物の神戸の特集グルメ記事や新聞、雑誌、印刷物そしてインターネットで神戸食関連の資料を集め、ストックし、学習する（1時間）。							
授業方法	講義とその都度の質問。 毎回、レジュメや資料を配布します。 毎回講義についてのリアクションペーパーを書いてください。							
評価基準と評価方法	期末試験として1200字程度の試論を提出40%。 各回授業のあとに書いて提出するリアクションペーパー40%。 授業中のコール&レスポンス20%。							
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることができません。							
教科書	毎回、レジュメや資料を配布します。							
参考書	『外国人居留地と神戸』田井玲子著、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343007339 『神戸と居留地』神戸外国人居留地研究会編、神戸新聞総合出版センター ISBN-10: 4343003159 『神戸の中国料理』神戸新聞出版センター ISBN: 9784875211280 『神戸のパン・ケーキ・チョコレート』神戸新聞出版センター ISBN-10: 487521325 『神戸とお好み焼き 比較都市論とまちづくりの視点から』三宅正弘著、神戸新聞総合出版センター ISBN-10: 4343002055							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	神戸論							
担当教員	江 弘毅					科目ナンバー	U12050	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	開港以来その都市としての性格を決定づけられた神戸の成り立ちを知り、その特徴と魅力を概観する。							
授業の概要	この授業では、都市社会のモデルとして神戸を取りあげ、現代社会における都市生活についての社会的な問題を理解し、その問題を解決する方法について学ぶ。最初に、神戸の産業、生活様式から文化までを具体的な事例によって学ぶ。 続いて、神戸の社会問題とその解決方法について理解する。さらに、得られた知見を他の都市社会に応用し、よりよい社会生活を送るための知識を習得する。最後に震災と復興を経験した都市として、神戸を見直すことにより、今後、災害に備えた生活者として必要な知識をまとめる。							
到達目標	(1) 都市としての神戸の魅力について語り、書き、表現することができる。 (2) 神戸を「わがまち」としてとらえ、独自のまちづくりについて立案することができる。 (3) 神戸で都市生活、グルメやファッション、クリエイティブ産業にかかわる人的ネットワークをつくること ができる。							
授業計画	第1回 オリエンテーション。この授業で何を学ぶか 第2回 神戸と開港 第3回 外国人居留地の歴史と現在 第4回 神戸の外国人とコミュニティ 第5回 神戸の近代建築 第6回 神戸の洋食～外国料理 第7回 神戸の中国料理と南京町 第8回 神戸の洋菓子、パン 第9回 神戸の観光（ゲスト・スピーカー招聘予定） 第10回 神戸の地勢、自然と公園 第11回 ファッション都市・神戸 第12回 神戸と阪神間モダニズム 第13回 阪神大水害、神戸大空襲、阪神淡路大震災と神戸 第14回 メディアのなかの神戸 第15回 神戸流生活術							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	神戸の都市としての特徴や魅力を参考書はじめ、文学作品、雑誌や新聞、印刷物、映像、デザイン、音楽…から抽出し、資料としてストックし、学習すること（1時間）。 その資料に基づき、「現地」「現場」を訪ねて実感すること（1時間）。							
授業方法	講義とその都度の質問。 毎回、レジュメや資料を配布します。 講義についてのリアクションペーパーを書いてください。 神戸の観光について「おとな旅、神戸」実行委員会ご担当の神戸市職員の方にゲスト講師に来ていただきます。 【実務経験のある教員等による授業】 都市情報誌の編集長であった職歴を生かして、神戸におけるグルメ、ファッション、観光産業などの事例を紹介しつつ、実務家としての人的ネットワークを生かしたフィールドワークを行う。							
評価基準と評価方法	期末試験＝試論（1200字）50%。各回提出のリアクションペーパー30%、質問応答（コール&レスポンス）、授業中の発表発言20%。							
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることが出来ません。							
教科書								
参考書	『神戸学』 崎山昌廣監修、神戸新聞総合出版センター ISBN4-343-00353-1 『外国人居留地と神戸』 田井玲子著、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343007339 『古地図で見る神戸』 大国昌美著、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343006035 『ミナト神戸の宗教とコミュニティ』 関西学院大学キリスト教と文化研究センター編、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343007254 『神戸外国人居留地―ジャパン・クロニクル紙ジュビリーナンバー』 神戸新聞出版センター ISBN: 9784875210481 『神戸の中国料理』 神戸新聞出版センター ISBN: 9784875211280							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	国際ビジネス						
担当教員	福田 洋子					科目ナンバー	U72540
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ヒト・モノ・カネ・情報が国境を超えるとときに何が起こるのか、国際ビジネスの実態とその環境変化を学ぶ。						
授業の概要	国際ビジネスを理解するために必要な基本的ビジネス英語と、経営・金融などの基礎を学ぶ。そして、世界的な企業や特色ある企業を具体的にケーススタディなどで考察し、その成功や失敗の要因を探る。 また、アメリカ経済、ヨーロッパ経済、アジア経済の特徴について理解を深める。						
到達目標	(1) グローバル企業（外国企業、海外とのビジネスを実施している日本企業）で必要とされる基礎的な知識とスキルを得る。【知識・理解】 (2) 発展している企業をグループで研究する。また、研究結果としてその特長を発表することで、企業や業界に対する興味を具体的なものとして意識を深める。【態度・志向性】						
授業計画	1. オリエンテーション 2. 国際経営の基本 3. 日本のグローバル企業 4. 世界の主要市場 5. 国際経営における新製品（新サービス）の開発 6. サービス産業の国際化 7. 国際経営のCSRとグローバル行動基準 8. 国際経営の人的資源 9. グローバルなキャリアをデザインする（ゲストスピーカー招聘予定） 10. グローバリゼーションの方向性 11. ケーススタディ（グループで実施） 12. グループ研究Ⅰ（バズセッション方式） 13. グループ研究Ⅱ（発表の準備） 14. グループ発表と質疑応答 15. まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	国内外の生時・経済などの情報がなくては、ビジネスの世界は理解できません。 毎日少なくとも1時間は新聞やWebニュースからの情報収集につとめましょう。 授業前学習：世界のビジネス情報に関心を持つ。教科書を予習する。社会全体に関心を持つ。 授業後学習：学んだ内容の復習。専門用語を理解し、知識を蓄積する。 関心のある企業に関する記事をスクラップしておくことを推奨する。就職時や転職時のデータとして活用できます。						
授業方法	講義形式だが、できる限りグループディスカッションを取り入れる。 VTRやDVDを活用し理解を助ける。グループ発表や、質疑応答を実施する。						
評価基準と評価方法	筆記試験50%、提出物やグループ発表、授業中の積極性など50%の総合評価です。 到達目標(1)(2)に関する到達度を確認する。						
履修上の注意	できるだけ「インターンシップ」などに参加することや、グローバル企業で働く人たちの考え方・働き方に触れる機会を持つ。						
教科書	『最新「国際経営入門」』、高橋 浩夫著、同文館出版、ISBN978-4-495-39009-9						
参考書	『1からの経営学』、加護野 忠雄・吉村 典久編著、中央経済社、ISBN4-502-38930-7 C3034						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	産学連携プロジェクト演習A						
担当教員	楠木 新					科目ナンバー	U2241A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、自分の抱く課題を教員の指導を受けながら自ら解明しようとする科目であり、課題を専門知識やマネジメント・スキルを駆使して論理的にほぐしながら、洞察力や思考力を訓練する。①都市生活の実態についてフィールドを通じて理解し、②持続可能な発展や地域活性化方策について多面的に考察する能力、③自ら主体的に企画立案し、創造的な研究を遂行していく能力、④論理的に思考し、討論する能力、効果的にプレゼンテーションできる技術、などである。地元の食に関して関心を抱かせる。						
授業の概要	都市生活というフィールドにおいて、全体の説明を行った後に各自が自ら課題を設定をして、地域活性化や地元の企業の役割について理解を深める。その後、課題を取りまとめて整理したうえでプレゼンを行う。						
到達目標	①都市生活という学外のフィールドに目を向けて関心を持つ。 ②自ら地域活性化などについて課題設定を行えるようになる。 ③グループ内での発言、プレゼンを効果的に行える力を養う。 学外に目を向けて自ら学び発信する態度・志向性を身に着けることを目標にする。						
授業計画	第1回 導入と全体説明 第2回 都市生活についての理解1（全体論） 第3回 都市生活についての理解2（企業と地域活動） 第4回 都市生活についての理解3（企業と消費者） 第5回 都市生活についての理解4（企業と投資家） 第6回 都市生活についての理解5（企業と労働組合） 第7回 都市生活についての理解6（企業と従業員①） 第8回 都市生活についての理解7（企業と従業員②） 第9回 都市生活についての理解8（神戸の特色①） 第10回 都市生活についての理解9（神戸の特色②） 第11回 各受講者の課題発見① 第12回 各受講者の課題発見② 第13回 各自の課題をもとにしたグループワーク 第14回 課題に基づいたレポート作成 第15回 発表、全体のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	都市生活に対して、日頃から関心を持ち課題意識を研ぎ澄ませること 共通課題に対してのレポートの提出がある（各自の学習時間：5時間程度）。 受講者各自のトピックスの発表も予定している（各自の学習時間：3時間程度）。						
授業方法	基本は教室で行い、一部、企業社会や地域活性化の専門家によるレクチャーなども取り入れることがある。						
評価基準と評価方法	出席・発表などの日常の取り組み＋レポートで評価。						
履修上の注意	「自ら課題を設定する」、「発表を行う」など、受け身ではなく主体的な取り組みが必要になる。						
教科書	特に定めない。 適宜、企業経営に関する新聞記事や書籍の内容などをプリント配布						
参考書	特に定めない						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	産学連携プロジェクト演習B						
担当教員	楠木 新					科目ナンバー	U2241B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	産学連携プロジェクト演習Aで、地域の諸問題を発見し、持続可能な生活や地域の活性化策について理解したうえで、産学連携プロジェクトBでは、地域と学生が共同参画できる取り組みについて模索し、より実践的な力を養うことを目的とする。実際にフィールドを通してより具体的に地域の諸問題を理解し、地元の食（食生活を含めて）や環境など生活にかかわるすべてのことから創造を膨らませ、自らが主体となって取り組める企画を立案し実践できる力を養う。						
授業の概要	産学連携プロジェクト演習Aでの各自の課題から出発して、それを演習Bではグループ議論を通じてグループ毎に課題設定を行う。それをもとにフィールドを通して、地域の諸課題、地元の食や環境について課題解決に向けて企画して実践することを目指す。昨年度は、神戸の食ビジネス企業の経営者からのレクチャーを行った。						
到達目標	①都市生活に対する自らの課題設定を深める ②他の参加者との議論の中で、都市生活のフィールドでの視野を広げる ③実際のフィールド活動の中で、自らの課題解決に向けた実践力を養う 社外に目を向けて自ら発信する姿勢を養うことを目標にする						
授業計画	第1回 導入と全体説明 第2回 企業におけるコンプライアンス課題① 第3回 企業におけるコンプライアンス課題② 第4回 「就活ルールについて」 第5回 「働き方改革①」 第6回 「働き方改革②」 第7回 「働き方改革③」 第8回 「お客様は神様です」は、正しいか？① 第9回 「お客様は神様です」は、正しいか？② 第10回 「お客様は神様です」は、正しいか？③（レポート作成） 第11回 「企業と採用」 第12回 「就活の勘違い」（学生と企業社会のギャップ） 第13回 「食ビジネスの地元経営者に対する質問作成」 第14回 「食育教育と企業経営」地元経営者のレクチャー 第15回 地元経営者のレクチャーに関するレポート作成、全体のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	都市生活に対して、日頃から関心を持ち課題意識を研ぎ澄ませること 共通課題に対してのレポートの提出がある（各自の学習時間：5時間程度） ゲストスピーカーの話材に対する事前調査、取材準備（各自の学習時間：4時間程度）。						
授業方法	基本は教室で行い、地元企業経営者、地域活性化の専門家によるレクチャーやフィールド先との共同参画を行う。						
評価基準と評価方法	出席・発表などの日常の取り組み＋レポートの内容で評価						
履修上の注意	「自ら課題を設定する」「フィールド先との共同参画」「発表を行う」など、受け身ではなく主体的な取り組みが必要になる。						
教科書	特に定めない。必要に応じてプリント配布。						
参考書	特に定めない。必要に応じてプリント配布。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	社会調査基礎演習Ⅰ							
担当教員	竹田 美知					科目ナンバー	U22030	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会調査により資料やデータ収集を行い、分析しうる形に整理していくための具体的方法および分析についての基本的考え方の習得を目的とする。							
授業の概要	この演習では、調査目的の設定、調査方法の選定、調査企画と設計、仮説の構成、標本の抽出、質問文・回答のデザイン、調査票の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など）、調査データの整理などを実習する。							
到達目標	（１） 社会調査の種類・方法を理解し、調査企画の仕方を習得する。 （２） 資料やデータを収集し、分析しうる形に整理し、得られた調査結果や実習の過程を検討し、後期の社会調査基礎演習Ⅱにつなげる。							
授業計画	第1回 イン트로ダクション：講義の目的、内容、社会調査士の資格との関連について。社会調査の定義・目的・種類～社会調査とは何か～：データブックなどを参照し、社会調査のよって得られるデータについて理解する。社会調査のプロセス：調査の流れや全体像を把握する。 第2回 問題意識の明確化～何を知りたいのか～：調査を具体化するために、問いのたて方を学ぶ（記述的な問いと説明的な問い） 第3回 関連する情報の探索と検討～何が明らかになっていて、何が明らかになっていないのか～：問題意識と関連するデータを探索する（先行研究の検討）。 第4回 仮説の構成～明らかにしたいことは何にか、どのように検証するのか～：問題意識をもとに、仮説（理論仮説と作業仮説）を組み立てる。 第5回 概念の操作化と変数の設定～どのように分析するのか～：仮説を検証するために概念を操作化し、変数を設定する。変数と尺度の水準（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度）について理解する（質的変数・量的変数）。 第6回 調査者の選定～誰を対象とするのか～：全数調査と標本調査、母集団と標本の関係、標本と誤差 第7回 サンプリングの方法～どのように標本を抽出するのか～：単準無作為抽出法・系統抽出法・層化抽出法・多段抽出法 第8回 調査方法の選択～どのような方法で調査するのか～：調査票の配布・回収方法（面接調査・留置調査・郵送調査・集合調査・電話調査・インターネットなど）、調査の信頼性、調査倫理、質問紙調査の種類と特徴について学ぶ。 第9回 調査票の作成（１）：調査票の作成の方法を学ぶ（依頼文書、体裁、質問項目、回答形式、フェイスシートなど）。 第10回 調査票の作成（２）：質問文を考える（ワーディング）。質問文を作成するときの留意点を学ぶ。 第11回 調査票の作成（３）：回答形式を考える（選択肢、尺度の設定） 第12回 調査票の作成（４）：プリテストと調査票の最終チェックを行う 第13回 調査の実施：実査の方法について学ぶ。（実習） 第14回 調査データの整理（１）：回収された調査票の点検、エディング、コーディング、有効票、無効票の区別、回収率について学ぶ。 第15回 調査データの整理（２）：調査票からコンピューターへの入力、単純集計とクロス集計を使ったデータクリーニングの方法を学ぶ。調査報告とデータ管理：調査の報告とデータ管理について学ぶ。（プレゼンテーション）							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業外学習：授業の前に調査テーマに関する資料を図書館で調べ授業の時に持参する。（学習時間60分） また調査票作成後は、プリテスト、データの入力、コーディング、データクリーニング、発表の準備などを授業外に行う。（学習時間120分）							
授業方法	演習：個人ごとにテーマを設定し、アンケート調査の調査票の作成、実施、データ整理、データの分析等を実習を行い、結果のプレゼンテーションを行う。各自でレポートを作成する。							
評価基準と評価方法	授業中の課題（４０％）、レポート（６０％）などによる総合評価を行う。 授業集の課題については 到達目標（１）に沿ったプリントを配布し、作成させる。その都度翌週の授業で返還し、解説する。 レポートについては、テーマの作成、関連調査の検討、仮説の作成、調査の実施、分析、考察を含めた社会調査報告書を到達目標（２）に従って評価する。							
履修上の注意	開講授業回数の３分の１以上の欠席は、原則単位認定を行わない。２０分以上の遅刻は欠席とする。社会調査に必要な資料やデータの収集のために学外で実習をするときは、入場料、交通費の実費負担がある。							

教科書	関連する資料を随時配布する。
参考書	大谷信介、2005、「社会調査へのアプローチ（第2版）」ミネルヴァ書房 嶋崎尚子 2008、「社会調査のリテラシー1 社会をとらえるためのルール」学文社 西野理子 2008、「社会調査のリテラシー2 社会をはかるためのルール」学文社 轟亮・杉野勇、2013、「入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ 第2版」法律文化社

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	社会調査基礎演習Ⅰ						
担当教員	竹田 美知					科目ナンバー	U22030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会調査により資料やデータ収集を行い、分析しうる形に整理していくための具体的方法および分析についての基本的考え方の習得を目的とする。						
授業の概要	この演習では、調査目的の設定、調査方法の選定、調査企画と設計、仮説の構成、標本の抽出、質問文・回答のデザイン、調査票の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など）、調査データの整理などを実習する。						
到達目標	(1) 社会調査の種類・方法を理解し、調査企画の仕方を習得する。 (2) 資料やデータを収集し、分析しうる形に整理し、得られた調査結果や実習の過程を検討し、後期の社会調査基礎演習Ⅱにつなげる。						
授業計画	第1回 イン트로ダクション：講義の目的、内容、社会調査士の資格との関連について。社会調査の定義・目的・種類～社会調査とは何か～：データブックなどを参照し、社会調査のよって得られるデータについて理解する。社会調査のプロセス：調査の流れや全体像を把握する。 第2回 問題意識の明確化～何を知りたいのか～：調査を具体化するために、問いのたて方を学ぶ（記述的な問いと説明的な問い） 第3回 関連する情報の探索と検討～何が明らかになっていて、何が明らかになっていないのか～：問題意識と関連するデータを探索する（先行研究の検討）。 第4回 仮説の構成～明らかにしたいことは何にか、どのように検証するのか～：問題意識をもとに、仮説（理論仮説と作業仮説）を組み立てる。 第5回 概念の操作化と変数の設定～どのように分析するのか～：仮説を検証するために概念を操作化し、変数を設定する。変数と尺度の水準（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度）について理解する（質的変数・量的変数）。 第6回 調査者の選定～誰を対象とするのか～：全数調査と標本調査、母集団と標本の関係、標本と誤差 第7回 サンプリングの方法～どのように標本を抽出するのか～：単準無作為抽出法・系統抽出法・層化抽出法・多段抽出法 第8回 調査方法の選択～どのような方法で調査するのか～：調査票の配布・回収方法（面接調査・留置調査・郵送調査・集合調査・電話調査・インターネットなど）、調査の信頼性、調査倫理、質問紙調査の種類と特徴について学ぶ。 第9回 調査票の作成（1）：調査票の作成の方法を学ぶ（依頼文書、体裁、質問項目、回答形式、フェイスシートなど）。 第10回 調査票の作成（2）：質問文を考える（ワーディング）。質問文を作成するときの留意点を学ぶ。 第11回 調査票の作成（3）：回答形式を考える（選択肢、尺度の設定） 第12回 調査票の作成（4）：プリテストと調査票の最終チェックを行う 第13回 調査の実施：実査の方法について学ぶ。（実習） 第14回 調査データの整理（1）：回収された調査票の点検、エディング、コーディング、有効票、無効票の区別、回収率について学ぶ。 第15回 調査データの整理（2）：調査票からコンピューターへの入力、単純集計とクロス集計を使ったデータクリーニングの方法を学ぶ。調査報告とデータ管理：調査の報告とデータ管理について学ぶ。（プレゼンテーション）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業外学習：授業の前に調査テーマに関する資料を図書館で調べ授業の時に持参する。（学習時間60分） また調査票作成後は、プリテスト、データの入力、コーディング、データクリーニング、発表の準備などを授業外に行う。（学習時間120分）						
授業方法	演習：個人ごとにテーマを設定し、アンケート調査の調査票の作成、実施、データ整理、データの分析等を実習を行い、結果のプレゼンテーションを行う。各自でレポートを作成する。						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40％）、レポート（60％）などによる総合評価を行う。 授業集の課題については 到達目標（1）に沿ったプリントを配布し、作成させる。その都度翌週の授業で返還し、解説する。 レポートについては、テーマの作成、関連調査の検討、仮説の作成、調査の実施、分析、考察を含めた社会調査報告書を到達目標（2）に従って評価する。						
履修上の注意	開講授業回数数の3分の1以上の欠席は、原則単位認定を行わない。20分以上の遅刻は欠席とする。社会調査に必要な資料やデータの収集のために学外で実習をするときは、入場料、交通費の実費負担がある。						

教科書	関連する資料を随時配布する。
参考書	大谷信介、2005、「社会調査へのアプローチ（第2版）」ミネルヴァ書房 嶋崎尚子 2008、「社会調査のリテラシー1 社会をとらえるためのルール」学文社 西野理子 2008、「社会調査のリテラシー2 社会をはかるためのルール」学文社 轟亮・杉野勇、2013、「入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ 第2版」法律文化社

授業外における学習（準備学習の内容・時間）	この授業は演習として社会調査の技法を実際に体験して学んでいくため、各自が作業を通して技法を学び取ることを重視している。そのため、毎回学習内容と作業内容は異なり、かかる時間についても個人差が大きいことが予想される。どの作業についても、毎回の授業中に出される課題にしっかり取り組み、苦手に感じたり理解が難しいことについて、授業時間以外の時間を用いて言語化・記録していくことが重要である。 また、初めて調査を体験する学生が多いため、授業内で出された課題について授業時間内に終えられない場合がある。終えられなかった場合は、次回の授業に作業がずれ込むことになる。そこで、授業時間以外に自分の状況を把握し、これらの課題について自主的に作業を進め完了させておく必要がある。病気やケガなどの事情で作業が遅れる場合は早めに連絡し、課題提出を先延ばしにしないことが、望ましい。 その目安時間や内容については個々の進捗状況によるが、たとえば、 ・ 内容分析の単元ではパソコン（エクセル）での入力作業もしくは手書きでの白表への記入の作業のほか、グループでの分析のためのディスカッションの作業がある。エクセル操作が苦手な学生の場合作業に時間がかかり結果的に授業時間外に残りの作業を完了させたケースがある。作業時間は個々の状況による。 ・ 聞き取り調査の単元では実際に指定された対象者への聞き取り調査を録音する課題があり、授業に欠席した学生などについては授業時間外に各自で対象者を探し協力依頼をし、調査を実施することがある。また、聞き取りの音源はその次の回に書き起こし作業を行うが、これについてもパソコンでの入力もしくは手書きでの書き起こし作業を行う。また、パワーポイントを用いた発表会への準備も、授業時間外に自主的に行う必要がある。
------------------------------	---

授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・観察法の単元では、写真撮影などの調査を各自授業時間外に実施し、その結果についての報告ポスター作成も授業時間外に行うことがある。このときには、パソコンでワードやパワーポイントを使用することもある。 ・グループワークでは授業時間外での各自の進捗状況について同じチームのメンバーと連絡をとりあい、課題を共有する必要がある。欠席時の連絡はとくに丁寧に行い、人任せにしないことが重要である。連絡を取る方法と時間については各グループ、学生に任せる。 これら多岐にわたる作業は、各自得意な作業やそのスピードは異なることと、苦手かつ時間がかかる学生については適宜代案を相談し進めているので、その都度教員に相談してほしい。わかったこと、わからなかったことなど、不明な点は次回授業までにメール等で教員に内容確認する必要があるが、連絡方法や時間については複数の方法を初回に示すため、学生各自に任せる。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	「内容分析」「聞き取り調査」「観察」という各技法の実施報告書作成とプレゼンテーションの内容に加え、グループワークやディスカッションなどを含め、授業への参加姿勢、毎回授業後に提出するミニレポートによって、総合的に評価する。
履修上の注意	授業へ参加することが重要なので出席を重視する。開講授業回数の3分の2以上の出席をすること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻2回で欠席1回とする。資料やデータ収集のため、学外実習を行う。交通費や入場料の実費負担がある。課題の提出や、作業の進捗状況の確認や準備しておく作業等について連絡をとるため、授業冒頭で連絡先（メール）を提出させることがある。時間外での質問や相談は基本的にメールで受け付ける。（ただし出席数や成績についての確認は直接授業の前後で行うこと。） また、授業に欠席した場合は各自、初回に説明した方法で配布資料や課題などを確認しておくこと。
教科書	関連する資料を随時配布する。
参考書	谷富夫・芦田徹郎編著、2009、『よくわかる質的社会調査 技法編』ミネルヴァ書房。 谷富夫・山本努編著、2010、『よくわかる質的社会調査 プロセス編』ミネルヴァ書房。 轟亮・杉野勇編、2010、『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社。 盛山和夫、2004、『社会調査法入門』有斐閣。

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	社会調査基礎演習Ⅱ						
担当教員	松原 千恵					科目ナンバー	U22040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまな質的データの収集や分析方法を習得することを目的とし、質的研究および質的調査の意義と特質を理解し、調査の企画・設計・分析・報告の方法を学ぶ。						
授業の概要	さまざまな質的データの収集や分析方法を修得することを目的とし、質的研究および質的調査の意義と特質を理解し、調査の企画・設計・分析・報告の方法を学ぶ。フィールドワーク、エスノグラフィー、聞き取り調査、参与観察法、考現学的観察、ドキュメント分析、内容分析、言説分析、エスノメソドロジー、会話分析、インタビュー、ライフヒストリー分析他、質的調査の代表的な方法論を修得する。問題設定や仮説に基づき適切な技法を選択し、言語的データや非言語的データの質に応じて、データの収集および分析の方法を実習する。						
到達目標	調査の意義と特質を理解し、企画・設計・分析・報告をとおして、質的研究および質的調査にもとづく社会調査の方法を習得する。						
授業計画	第1回質的研究および質的調査の意義と特質～さまざまな調査方法を学ぼう～ : 量的データと質的データの特性、量的研究と質的研究の意義と特質を理解する。 既存の研究や調査を題材として、質的研究の方法を学ぶ。 第2回質的研究および質的調査の方法～さまざまな調査方法を学ぼう～ : さまざまな質的研究および質的調査の方法を先行研究から学ぶ。 第3回内容分析 (1) ～文字・活字データを分析しよう～ : 新聞・雑誌記事などのメディアにおける質的データを量的データに変換し、分析する方法を学ぶ。 データベースを利用してキーワード検索を行い、データを収集し、内容を検討する。 第4回内容分析 (2) ～文字・活字データを分析しよう～ : 分析単位の設定とコーディングを行い、データを整理する。 第5回内容分析 (3) ～文字・活字データを分析しよう～ : 整理されたデータの信頼性と妥当性を確認する。 第6回内容分析 (4) ～文字・活字データを分析しよう～ : データを図表化、分析の結果を文章化し、報告書としてまとめる。 第7回聞き取り調査による分析 (1) ～音声データを分析しよう～ : 聞き取りを通して得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析の手法として、エスノグラフィー、ライフコース分析、ライフヒストリー分析、ライフストーリー分析、ナラティブ分析などがある。問題設定を行い、聞き取りの対象、内容、場所について検討する。 第8回聞き取り調査による分析 (2) ～音声データを分析しよう～ : 聞き取り調査を実施する。 第9回聞き取り調査による分析 (3) ～音声データを分析しよう～ : トランスクリプトの作成やデータの再構成など、得られたデータの整理を行う。 第10回聞き取り調査による分析 (4) ～音声データを分析しよう～ : データを分析し、報告書にまとめる。 第11回観察による分析 (1) ～視覚的なデータを分析しよう～ : 観察を通して得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析の手法として、参与観察法、考現学的観察法、ドキュメント分析、エスノメソドロジー（相互行為分析）などがある。 問題設定を行い、観察の対象、内容、場所について検討する。 第12回観察による分析 (2) ～視覚的なデータを分析しよう～ : 観察調査を実施する。 第13回観察による分析 (3) ～視覚的なデータを分析しよう～ : 観察されたデータの検討を行う。 第14回観察による分析 (4) ～視覚的なデータを分析しよう～ : 観察されたデータを分析し、報告書にまとめる。 第15回分析結果のプレゼンテーション : 報告書としてまとめた分析結果レジュメやパワーポイントによって発表する。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	この授業は演習として社会調査の技法を実際に体験して学んでいくため、各自が作業を通して技法を学び取ることを重視している。そのため、毎回学習内容と作業内容は異なり、かかる時間についても個人差が大きいことが予想される。どの作業についても、毎回の授業中に出される課題にしっかり取り組み、苦手に感じたり理解が難しいことについて、授業時間以外の時間を用いて言語化・記録していくことが重要である。 また、初めて調査を体験する学生が多いため、授業内で出された課題について授業時間内に終わられない場合がある。終わらなかった場合は、次の授業に作業がずれ込むことになる。そこで、授業時間以外に自分の状況を把握し、これらの課題について自主的に作業を進め完了させておく必要がある。病気やケガなどの事情で作業が遅れる場合は早めに連絡し、課題提出を先延ばしにしないことが、望ましい。 その目安時間や内容については個々の進捗状況によるが、たとえば、 ・内容分析の単位ではパソコン（エクセル）での入力作業もしくは手書きでの白表への記入の作業のほか、グループでの分析のためのディスカッションの作業がある。エクセル操作が苦手な学生の場合作業に時間がかかり結果的に授業時間外に残りの作業を完了させるケースがある。作業時間は個々の状況による。 ・聞き取り調査の単位では実際に指定された対象者への聞き取り調査を録音する課題があり、授業に欠席した学生などについては授業時間外に各自で対象者を探して協力依頼をし、調査を実施することがある。また、聞き取りの音源はその次の回に書き起こし作業を行うが、これについてもパソコンでの入力もしくは手書きでの書き起こし作業を行う。また、パワーポイントを用いた発表会への準備も、授業時間外に自主的に行う必要がある。						

授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・観察法の単元では、写真撮影などの調査を各自授業時間外に実施し、その結果についての報告ポスター作成も授業時間外に行うことがある。このときには、パソコンでワードやパワーポイントを使用することもある。 ・グループワークでは授業時間外での各自の進捗状況について同じチームのメンバーと連絡をとりあい、課題を共有する必要がある。欠席時の連絡はとくに丁寧に言い、人任せにしないことが重要である。連絡を取る方法と時間については各グループ、学生に任せる。 これら多岐にわたる作業は、各自得意な作業やそのスピードは異なることと、苦手かつ時間がかかる学生については適宜代案を相談し進めているので、その都度教員に相談してほしい。わかったこと、わからなかったことなど、不明な点は次回授業までにメール等で教員に内容確認する必要があるが、連絡方法や時間については複数の方法を初回に示すため、学生各自に任せる。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	「内容分析」「聞き取り調査」「観察」という各技法の実施報告書作成とプレゼンテーションの内容に加え、グループワークやディスカッションなどを含め、授業への参加姿勢、毎回授業後に提出するミニレポートによって、総合的に評価する。
履修上の注意	授業へ参加することが重要なので出席を重視する。開講授業回数の3分の2以上の出席をすること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻2回で欠席1回とする。資料やデータ収集のため、学外実習を行う。交通費や入場料の実費負担がある。課題の提出や、作業の進捗状況の確認や準備しておく作業等について連絡をとるため、授業冒頭で連絡先（メール）を提出させることがある。時間外での質問や相談は基本的にメールで受け付ける。（ただし出席数や成績についての確認は直接授業の前後で行うこと。 また、授業に欠席した場合は各自、初回に説明した方法で配布資料や課題などを確認しておくこと。
教科書	関連する資料を随時配布する。
参考書	谷富夫・芦田徹郎編著、2009、『よくわかる質的社会調査 技法編』ミネルヴァ書房。 谷富夫・山本努編著、2010、『よくわかる質的社会調査 プロセス編』ミネルヴァ書房。 轟亮・杉野勇編、2010、『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社。 盛山和夫、2004、『社会調査法入門』有斐閣。

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	社会調査論						
担当教員	竹田 美知					科目ナンバ	U21060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	社会調査の理論や技法を学び、実際の調査ができるようになるための基礎的事項を解説する。これまでの社会調査史をたどりながら、実際の調査を題材として、社会調査の意義、用途を解説する。さらに資料の収集、調査の設計から現地調査の実施の方法、データの収集と分析、報告書の作成までの一連の流れを、量的・質的調査の双方について概説する。また社会調査の全過程における調査倫理について理解をはかる。						
授業の概要	社会調査の意義と諸類型に関する基礎的事項を解説する。国勢調査や官公庁統計、世論調査、マーケティングリサーチなどの実例をもとに、社会調査が我々の社会でどのように行われ、またその結果がどのように活用されているかということを理解する。次に社会調査士を振り返り、これまでに行われてきた調査の目的や種類などを検討し、これまでに生じてきた方法的問題や倫理的問題を紹介する。それを踏まえて最終的には、実際に調査を行う際のデータ収集の方法から分析までの諸課程に関する基礎的な知識と技術を修得させる。						
到達目標	(1) 社会調査の基礎的な理論や技法を習得し、実際に社会調査ができる。 (2) 公表された社会調査結果を読み解くことができる。						
授業計画	第1回 社会調査の意義と用途 第2回 社会調査の歴史 第3回 社会調査のうそ 第4回 問題意識の明確化 第5回 関連データ収集—定量データと定性データ 第6回 概念・指標・変数 第7回 仮説構成とモデルづくり 第8回 実査と調査倫理 第9回 調査の種類と実例Ⅰ 調査目的別 (学術調査・マーケティング調査・官公庁統計・世論調査) 第10回 調査の種類と実例Ⅱ 調査時点別 (クロスセクションサーベイ・継続調査・パネルサーベイ) 第11回 調査の種類と実例Ⅲ 調査地点別 (地域調査・全国調査・国際比較調査) 第12回 量的調査と実的調査 第13回 統計調査と事例研究法 第14回 二次データの利用 第15回 グループでの報告と期末テスト						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：前回の授業での小テストの内容を復習し、参考書などで社会調査の基礎知識を確認する。(5時間) 授業後学習：授業で示したテーマに沿って、過去の調査を検討しその結果を授業で示した指示に従って報告分を作成し松陰manabaに提出する (10時間)						
授業方法	講義：グループでいろいろな調査を比較検討し、報告書にまとめ、その結果をプレゼンテーションすることによって到達目標 (2) を確認する。また、各回での小テストを通して、社会調査の基礎的な知識を確認し到達目標 (1) を達成する。						
評価基準と評価方法	授業内小テスト (30%)：到達目標 (1) を確認するために、毎回小テストを行い社会調査の専門用語や技法についての理解度を見る 授業外レポート (30%)：到達目標 (2) を確認するために、グループで過去の社会調査の検討し報告書を作成しプレゼンテーションをする。 期末テスト (40%)：到達目標 (1) を総合的に確認するために、期末テストで社会調査の理論と技法について作問し理解度を見る						
履修上の注意	グループでの役割があるので、授業回数の3分の1の欠席は期末テストの受験資格を失う。学外に出てフィールドワークをすることがあるので交通費や入館料が発生することがある。社会調査士を将来的に目指すことを目的としているので、この科目を受講した学生は引き続き、「社会調査基礎演習Ⅰ」「調査集計演習」を受講することが望ましい。						
教科書	なし (各回のプリントで対応)						
参考書	大谷信介・木下栄二他編 2013 『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法 - 』 ミネルバ書房9784623066544						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	消費行動論							
担当教員	待田 昌二					科目ナンバー	U12100	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	私たちはなぜ買い物をするのかを考える							
授業の概要	日本のような現代の先進国は大量消費社会であり、人間の欲望・要求を実現するとともにさらに拡張していく経済システムの下、何をかうか選択することが生活の中で大きな位置を占めている。 買い物が生活の中心であるからこそ、なぜ買い物するのか客観的に考える力を持たなければならない。この授業では、消費社会と欲望・欲求を論じたとテキストによりながら、どのような欲求に基づいて買い物をするのかということと、過剰な消費社会における欲求のコントロールについて考える。加えて、心理学、行動経済学の研究成果から人間が買い物する時に示す心理・行動傾向を学び、現代社会における消費者の心理と行動を客観的に論じることのできる力を養う。							
到達目標	（１）生活の質の向上を可能にするため、なぜ私たちが買い物をするのかを心理面から分析できる。【知識・理解】 （２）生活の質の向上を可能にするため、現代社会における欲求のコントロールの難しさと方法について説明できる。【知識・理解】 （３）買い物の際に人が示す認知・行動傾向を理解し、消費生活のあり方を提案できる。【知識・理解】							
授業計画	第1回 はじめに一買い物の無い生活 第2回 大量消費社会の成立 第3回 なぜ万引きをするのかー欲求と動機を考える 第4回 欲求とは何か１：基本的欲求 第5回 欲求とは何か２：内発的動機と親和動機 第6回 欲求とは何か３：達成動機と自己実現動機 第7回 欲求の模倣 第8回 欲求のコントロール１：買い物依存の心理 第9回 欲求のコントロール２：大量消費社会と欲求 第10回 商品選択の心理：選択の負担 第11回 価格の相対性 第12回 予測の効果 第13回 損して得取る難しさ 第14回 時間の影響 第15回 商品選択の方略							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： 授業内容を復習し、身近な問題に結び付けて考える（学習時間2時間）。 授業の参考書（シラバス参考書欄にあるようにWEB上で紹介）を読む（学習時間2時間）。							
授業方法	講義							
評価基準と評価方法	授業時に毎回提出するリアクションペーパーの評価 50％ 中間レポート 30％、期末レポート 20％（ただし、両レポートの提出が必須） 授業内での提出物： 各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント、質問）の内容・記述的的確さを評価する。到達目標（１）から（３）に関する到達度の確認。 リアクションペーパーのコメント・質問等について、翌週授業で回答する。 中間レポート： 到達目標（１）と（２）の到達度の確認。 期末レポート： 到達目標（３）の到達度の確認。							
履修上の注意	大幅な遅刻は出席と認めない。スマートフォンの電源オフなど授業マナーを守ること。							
教科書	使用しない							
参考書	We b上で紹介している。「神戸松蔭心理学のページ」で検索するか、松蔭CampusLinkから、「心理学のページ」→「参考図書紹介(待田)」→「消費の心理」							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	消費生活コンサルティング論						
担当教員	井上 博子					科目ナンバー	U73260
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	消費者が「消費者市民社会」の構築に積極的に参画するために、どうあるべきか？ 行政や企業に寄せられる様々な消費者トラブル事例から考察する。						
授業の概要	現実直面するさまざまな消費者問題に目を向け、法ルールの基本原理や現代経済社会の仕組みを理解し、批判的思考を働かせながら、「消費者市民」としての社会人基礎力を養う。						
到達目標	1. 身近な財、サービスを取り上げて、個人またはグループで商品研究ができる。 2. 消費者問題や買い物相談、苦情処理を取り上げて、ロールプレイングやディスカッションができる。 3. 消費生活相談事例を通して、消費生活コンサルティングの方法を学ぶ。						
授業計画	第1回 現代社会と消費者問題（ガイダンス） 第2回 「消費者市民」と消費者教育（消費者基本法、消費者庁） 第3回 契約の基礎知識（消費者契約法、クーリングオフ制度） 第4回 消費者トラブルと消費者行政（消費生活センターの相談事例） 第5回 食生活の相談事例のコンサルティング 第6回 食生活の消費者教育教材の作成 第7回 I T社会と契約トラブル（消費者関連法規） 第8回 情報をクリティカルに読み解く（誇大広告と景品表示法） 第9回 若者の消費者トラブルとコンサルティング 第10回 高齢者の消費者トラブルとコンサルティング 第11回 消費者の安全を守るしくみ ーくらしの事故情報（リコール制度）ー 第12回 持続可能な社会とは ー地球環境の現状と温暖化対策ー 第13回 エネルギー問題と原発 第14回 企業のCSR活動とエシカル消費 第15回 グローバル社会のフェアトレード事情・期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	消費者問題は、政治・経済・社会システムと密接に関連しているので、時事問題や社会現象に関心をもつこと。新聞を読み、消費者庁や国民生活センターをはじめとする官公庁のHPをチェックし、公表された白書や報告書に親しんでおくこと。教科書の当該箇所を予習し、事前に指定するキーワードや相談事例について下調べをしたり、（グループ）発表の準備を行ったりしておくこと（授業前準備学習時間：2時間）						
授業方法	講義を基本とするが、理解を深めるために視聴覚教材や新聞記事の解説、最新の消費生活相談の事例研究などを予定している。また、学生による発表やディスカッションを取り入れる。知識の確認や応用に小テストを実施する。						
評価基準と評価方法	期末テスト（レポート）60%、授業内での小テストや各回提出のリアクションペーパー20%、発表20%（講義内容や発表に関してのコメント・事例研究やディスカッションへの積極性など）の内容・発表の的確さなどを評価する。学生の発表、リアクションペーパーのコメント・質問などについて、翌週の授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	1. 「消費生活論」および「消費者法」履修者が望ましい。 2. 授業回数の3分の1以上欠席した人は定期試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	「大学生が知っておきたい消費生活と法律」細川幸一著 慶應義塾大学出版会 ISBN:978-4766425697 「はい！こちら消費生活センターです」（公社）全国消費生活相談員協会						
参考書	「ハンドブック消費者」「消費者白書」消費者庁編 「消費生活相談のための法律74」（公社）全国消費生活相談員協会 「消費生活アドバイザー受験合格対策（2019年版最新版）」丸善出版 参考になるHP：消費者庁（消費者ポータルサイト）、国民生活センター（国民生活）、経済産業省、環境省						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	消費者法						
担当教員	井上 博子					科目ナンバー	U73090
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	すべての市民は消費者であり、消費者を守る法律を知ること、トラブルを未然に防ぎ、起こったトラブルを解決する。消費者問題（消費者の権利、消費者支援の政策、契約・取引、消費者情報、事業者との関係、消費者行政、消費者運動）を法的側面から考察し、公正で持続可能な消費者市民社会の課題と進むべき方向性を検討する						
授業の概要	法体系の中の消費者法の基本的な枠組みと、消費者の権利救済のための法システムについて解説する。多様な法分野および法律群から成り立つ消費者法の中でも、消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法は法律の基礎や趣旨を概説した後、消費生活相談事例や判例をあげて、具体的な法的解決を検討する。また、消費者被害救済の最前線の状況を知るために、消費生活センターの実務家を招き、相談現場での法律の活用方法を聞く。						
到達目標	①消費者法が社会の中で生成されてきた歴史と背景をふまえて、消費者問題の現状を説明できる。 ②消費者法を体系的に理解できるようになる。 ③具体的な消費者問題について、法的解決方法を考える能力を身につける。 ④消費者市民社会の構築に向けての消費者教育を実践できるようになる。						
授業計画	第1回 消費者法とは 第2回 消費者基本法 第3回 消費者庁関連三法 第4回 消費者教育推進法 第5回 消費者と契約 第6回 クーリング・オフ制度 第7回 消費者契約法 第8回 特定商取引法 第9回 特定商取引法 第10回 紛争解決制度 第11回 割賦販売法 第12回 景品表示法 第13回 食の安全と食品表示法 第14回 製造物責任法と被害情報 第15回 授業内容のまとめ・総復習と期末試験（レポート） ・法令の種類・法律の読み方 ・消費者の権利・消費者政策の理念・消費生活センター ・消費者行政の歴史・国民生活センター・消費者庁 ・消費者市民社会とは ・契約の成立・民法の原則・民法改正による「18歳成人」 ・不当条項規制 ・訪問販売・通信販売・電話勧誘販売・訪問購入 ・連鎖販売取引・特定継続的役務提供・業務提供誘引販売取引 ・ADR・民事訴訟（ゲスト・スピーカー招へい予定） ・クレジットの現状と問題点 ・公正な競争に必要な正しい情報 ・食品衛生法改正 ※最新の情報や法改正を取り入れるため、テーマの順番や内容が若干変わることがあります。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	消費者問題は、政治・経済・社会システムと密接に関連しているので、時事問題や社会現象に関心をもつこと。新聞を読み、消費者庁や国民生活センターをはじめとする官公庁のHPをチェックし、公表された白書や報告書に親しんでおくこと。教科書の当該箇所を予習し、事前に指定するキーワードや法律について下調べをしたり、（グループ）発表の準備を行ったりしておくこと（授業前準備学習時間：2時間）						
授業方法	講義を基本とするが、理解を深めるために視聴覚教材の活用や新聞記事の解説、最新の消費生活相談事例研究などを予定している。また、学生による発表やディスカッションを取り入れる。知識の確認や応用に小テストを実施する。						
評価基準と評価方法	授業内での発表30%、小テスト20%、各回提出のリアクションペーパー20%（講義内容についてのコメント・質問・事例提案など）の内容・記述の的確さなどを評価する。期末テスト（レポート）30% 学生の発表、リアクションペーパーのコメント・質問などについて、翌週授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	1. できるだけ「消費生活論」を先に履修しておくこと。 2. 授業回数の3分の1以上欠席した人は定期試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	「大学生が知っておきたい消費生活と法律」細川幸一著 慶應義塾大学出版会 ISBN:978-4766425697						
参考書	「はい！こちら消費生活センターです」、「消費生活相談のための法律74」（公社）全国消費生活相談員協会「消費者法のしくみ」草道倫武 中央経済社、「消費者六法」甲斐道太郎 民事法研究会 「18歳から考える消費者と法（第2版）」板東俊矢・細川幸一著 法律文化社、「ハンドブック消費者」「消費者白書」消費者庁編 参考になるHP：消費者庁（消費者ポータルサイト）、国民生活センター（「国民生活」）、経済産業省						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	消費生活論							
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ－	U12110	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	目まぐるしく変化する状況を消費生活の視点から捉え、消費者と企業（生産者も含む）の双方向から理解することで持続可能な社会の形成を目指したライフスタイルの確立を目指す。							
授業の概要	現代の私たちの消費生活は、他人が生産した「モノ」に依存している。また、近年極めて豊かで便利な「サービス」も受けられるようになった。その反面、欠陥商品、悪質商法などによるトラブルの多発、インターネットを介した電子商取引に関係した消費者被害も続出している。この講義では、現在の消費生活の実態を把握した後、発生したトラブルに対し消費者、行政、企業がどのように対処したかを明らかにし、安全で真に豊かな消費生活を確立するための礎としたい。							
到達目標	①経済社会の変化と消費生活の関係を理解することができる。 ②自らの消費者行動を振り返り、身の回りの変化に関心を高めることができる。 ③消費者の権利と責任を考え、実践していくために必要な知識を身につけることができる。 ④持続可能な社会の形成を考えるきっかけとなる。							
授業計画	第1回 個人としての消費者（家計の現状から） 第2回 消費生活の視点（知覚：人の数だけ現実が存在する） 第3回 生活における経済管理（学習：観察学習・・・動機づけ） 第4回 財・サービスの選択（記憶：思い出しは美化される？） 第5回 多様化する流通・販売方法と消費者（態度：好き・嫌いはどのように生まれるのか） 第6回 意思決定—なぜそれを買ったのか— 第7回 人の好みの違いと消費者の権利・責任 第8回 コミュニケーション—発信源効果とメッセージ効果— 第9回 店頭マーケティング—売れるお店はどうやってつくる？— 第10回 社会的存在としての消費者：アイデンティティ 第11回 家族の購買意思決定とライフサイクル、子供の社会化 第12回 集団—なぜ友人同士の服装は似てしまうのか？— 第13回 ステイタス—なぜモノが集団のシンボルになるのか？— 第14回 持続可能な社会の形成と消費行動（サブカルチャー） 第15回 儀式としての消費（文化）と環境問題（まとめ）							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】常に新聞やテレビを見て情報を集め、現状の問題点を考えておくこと。（60分） 【授業後】復習を必ず行い、知識を身につけていくこと（60分）							
授業方法	講義 【実務経験のある教員等による授業】 マーケティング＆リサーチ関連事業の代表として消費行動を分析した経験から家族の購買行動および意思決定の仕方、リスクマネジメントなどに対する事例研究をする。							
評価基準と評価方法	中間テスト（20％）、レポート（2回）（20％）、期末試験（60％）などによる総合評価							
履修上の注意	①新聞必読 ②授業中の携帯電話、メール、居眠り、20分以上の遅刻・途中退出など、厳しく対処する。 ※講義全体の2/3の出席が確認できない場合は、受講資格を失う。 ③アクティブラーニング（グループワーク、ディスカッション等）を積極的に取り入れる。							
教科書	松井剛・西川英彦編著『1からの消費行動』、2016年、中央経済社							
参考書	随時、授業中に紹介する。							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	消費生活論							
担当教員	吉井 美奈子					科目ナンバー	U12110	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	消費生活の現状を消費者と生産者双方の立場から捉え、消費者が権利の主体として意識を持ち、自ら情報を選択し行動することによって持続可能な社会の形成を目指したライフスタイルの確立をする。							
授業の概要	現代の私たちの消費生活は、他人が生産した「モノ」に依存している。また、近年極めて豊かで便利な「サービス」も受けられるようになった。その反面、欠陥商品、悪質商法などによるトラブルの多発、インターネットを介した電子商取引に関係した消費者被害も続出している。 この講義では、現在の消費生活の実態を把握した後、発生したトラブルに対し消費者、行政、企業がどのように対処したかを明らかにし、安全で真に豊かな消費生活を確立するための礎としたい。							
到達目標	・ 経済社会の変化と消費生活の関係を理解することができる。 ・ 消費者と企業や行政とのかかわり及び連携の在り方などに関する知識と技術を理解することができる。 ・ 消費者の権利と責任を実践していく仕組みを理解することができる。 ・ 持続可能な社会の形成を考えることができる。							
授業計画	第1回 経済の発展と消費生活（家庭生活） 第2回 消費生活の視点 ―社会の変化と消費生活― 第3回 生活における経済の計画と管理 第4回 財・サービスの選択と意思決定 ―広告と企業活動― 第5回 多様化する流通・販売方法と消費者 第6回 消費者問題 第7回 消費者の権利と関係法規 第8回 契約と消費生活 第9回 決済手段の多様化と消費者信用（ゲストティーチャー） 第10回 商品情報と消費者相談 第11回 消費者の自立支援と行政 第12回 消費者教育 第13回 消費生活と環境 第14回 持続可能な社会の形成と消費行動 第15回 環境問題と消費者の関係（まとめ）							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、図書館等で関連する参考書によって下調べをすること（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内で指示したテーマや課題について各自のノートにまとめておく。自分の発表回について、教員や他の学生からもらったコメントを基に修正を行う（学習時間：2時間）							
授業方法	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション（ICTを利用）、一部反転授業を取り入れている。各回共通の形式ではなく、その内容に応じた形式を実施している。							
評価基準と評価方法	中間テスト：第5回以降毎回行う小テストによる理解度（20％）、 授業内での提出物：5回分のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問・事例提案）の内容記述の的確性を評価する（20％）、 プレゼンテーション：各担当箇所のプレゼンテーションの内容、発表態度について評価する（20％）、 期末試験：知識理解できているか（40％）などによる総合評価							
履修上の注意	教職に関わる科目であるため、主体的に参加する態度だけでなく、人に説明する力をつける練習も行います。消費生活について知識を習得するだけでなく、多様化する消費者に対する理解を深め、更にその内容を第三者（生徒）に分かりやすく伝えられるよう授業を通して学習・習得してください。							
教科書	新しい消費者教育―これからの消費生活を考える（2016）神山久美・中村年春（編著）日本消費者教育学会関東支部（監修）慶應義塾大学出版会							
参考書	授業内で適宜紹介する。							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食行動論						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバ－	U72220
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	食行動の心理学						
授業の概要	人が生きていくうえで欠かせない行動が食行動である。この授業では、乳児期、幼児期、児童期、青年期の各年代における食行動の心理的な特徴や問題点を解説し、食問題をテーマとした課題について議論する。母乳の心理的意味、食の嗜好や嫌悪の発達、集団における食行動の変容、食環境の心身に対する影響、食にまつわる行動異常などについて論じる。生涯にわたる自分自身や家族の健康を食の観点から考え、実践できる方法を身につける。						
到達目標	1. 各年代における食行動の心理学的な特徴や問題点を列挙し、説明することができる。[知識・理解] 2. 個人や社会における食問題についてまとめ、自分の考えを述べるすることができる。[知識・理解][態度・志向性]						
授業計画	1. 授業の概要 2. 離乳期までの食行動(1)－母乳とミルク－ 3. 離乳期までの食行動(2)－母乳のでる仕組み－ 4. 離乳期までの食行動(3)－母乳の心理的側面－ 5. 幼児期の食行動(1)－味覚の発達－ 6. 幼児期の食行動(2)－食物嗜好と拒否の発達－ 7. 食問題をテーマにしたKJ法の活用(1)－テーマ設定－ 8. 食問題をテーマにしたKJ法の活用(2)－アイデア出し－ 9. 食問題をテーマにしたKJ法の活用(3)－発表－ 10. 児童期の食行動(1)－特徴と問題点－ 11. 児童期の食行動(2)－食行動と身体の状態－ 12. 児童期の食行動(3)－食卓の絵からの考察－ 13. 青年期の食行動(1)－思春期の食に関わる心と体の病気－ 14. 青年期の食行動(2)－摂食障害－ 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業で指示する資料を収集し、まとめる。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で指定された課題を松蔭manabaコースコンテンツに投稿する（学習時間：2時間）						
授業方法	講義形式で授業を実施する。 授業に関係するテーマについてグループでディスカッションし、まとめ、発表を実施する回もある。						
評価基準と評価方法	小レポート(30%)：グループディスカッションのレポートを評価する。到達目標2に関する到達度の確認。 試験(70%)：授業でとりあげた、各年代における食行動の心理学的な特徴や問題点を確認し、自分の考えを述べるができるかについて評価する。到達目標1,2に関する到達度の確認。						
履修上の注意	3分の2以上の出席がないと、受講資格を失う。私語厳禁とする。電子機器の操作を禁止する。						
教科書	適宜、プリントを配布する。						
参考書	「人間行動学講座2 たべる－食行動の心理学－」 中島義明、今田純雄編 朝倉書店 1996 4800円 「母乳」 山本高治郎著 岩波新書 1983 490円 「未熟児」 山内逸郎著 岩波新書 1992 580円 「子どもと家族とまわりの世界(上)赤ちゃんはなぜなくの」 D・W・ウィニコット著 星和書店1985 1400円 「知っていますか 子どもたちの食卓 ー食生活からからだの心が見えるー」 足立己幸 NHK「子どもたちの食卓」プロジェクト 日本放送出版協会 2000 1500円						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食生活論						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバー	U11020
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	健康な生活を送るための食生活について、様々な観点から解説する。						
授業の概要	『食』を食生活と健康づくりの観点から解説する。本講義は、2年次生以降、食の学びを深めるために基盤となる科目として位置付ける。まず、食品の持つ「食生活と栄養（5大栄養素とその他の成分）」について、化学的・生化学的視点から概説する。次に、「食品の機能」、「食生活と調理」、「食生活と食文化」、「食生活と安全」、「食生活と環境」などについて解説する。健康とは何か、そして、健康な生活を送るために食生活はどうあるべきかを考えられるようになることを目的とする。						
到達目標	・栄養についての問題に答えられるようになる。 ・食生活、調理、食文化についての基本的な内容を説明できるようになる。 ・食生活と健康についての基本的な問題に答えられるようになる。						
授業計画	第1回 人の一生と食事 第2回 食生活と栄養（糖質・脂質） 第3回 食生活と栄養（タンパク質・ビタミン） 第4回 食生活と栄養（ミネラル・水） 第5回 食生活と食品の成分（アルコール、嗜好品、免疫力） 第6回 食生活と調理 第7回 食生活と食文化（米文化と小麦文化） 第8回 食生活と食文化（食事様式、マナー、旬） 第9回 ライフサイクルと食生活（成長期） 第10回 ライフサイクルと食生活（成人期以降） 第11回 体のリズムと食生活 第12回 食生活と安全 第13回 食生活と環境 第14回 食育の意義 第15回 家庭や地域における食育の推進、期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って教科書の該当するところをあらかじめ読んでおく 調査学習の課題についてグループでディスカッションを行いプレゼンの準備をする （学習時間：1.5時間）。 授業後：配布プリント使い学習内容をノートにまとめる（学習時間：1時間）。						
授業方法	講義 ただし、「食生活と食文化」の授業時には8グループに分かれて調査学習とプレゼンテーションを行う。						
評価基準と評価方法	授業における発表など10%、課題40%、期末テスト50%						
履修上の注意	内容が多岐に渡りますので授業後の自主学習が必須です。積極的に学ぶ姿勢が必要です。						
教科書	大学で学ぶ食生活と健康のきほん 吉澤みな子・武智多与理・百木和 著 化学同人 適宜プリントを配布						
参考書	特になし						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	食と観光のマーケティング論							
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバー	U73590	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	月曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	地域の観光素材を「観光商品・サービス」に取り込み、市場に対して積極的・戦略的にマーケティング活動を行っていくことのノウハウや方向性を示し、食と観光における地域活性化の構造と機能について学ぶ。							
授業の概要	「観光」は、街づくりを中心として、自然・生活文化・歴史風土や保全・環境活動まで含む定義がなされている。したがって、観光学や観光マーケティングを学ぶ上でも「モノづくり、コトづくり、場おこし」、さらに「人づくり」までを考えることがますます重要になっている。特に、地域固有の価値づくりを発信していくためには地域食を理解し、新しいものへと革新することが求められる。郷土料理や伝統料理を含めた食を中心として地域に集客を図るターゲットを想定し、顧客満足度をあげ、維持して活動することが基本である。そこで、農林水産業者、商工業者、観光事業者などの参画を通じた地域活性化は、その地域の取り組みの成果として、その地域を訪れる観光者が増加することによってはじめて実現されるものであり、地域の様々な取り組みをいかに観光者の行動につなげるかが重要である。							
到達目標	①成長産業の1つである観光産業の振興、雇用の創出、所得の増加について知識が得られる。 ②生活システムにおける食と観光のマーケティングの役割に気が付くことができる。（理解が得られる） ③日本のみならずインバウンドの取り組みも理解することができる。 ④観光の難しさ・面白さを理解することができる。							
授業計画	第1回 観光の主要産業：旅行業 第2回 観光の主要産業：ホテル業 第3回 観光の主要産業：航空輸送業 第4回 観光の主要産業：鉄道事業 第5回 テーマパーク 第6回 博物館・水族館・動物園 第7回 地域の観光まちづくり事業（道の駅） 第8回 観光地の集客イベント事業 第9回 サステイナブル・ツーリズム 第10回 リゾート事業 第11回 スポーツ・ツーリズムと集客都市 第12回 インバウンドの観光事業 第13回 観光ビジネスの本質（ゲスト・スピーカーを予定） 第14回 観光とマーケティング 第15回 新しい旅行スタイル							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】旅行雑誌や旅行パンフレット、旅行広告などを情報を常に集めておくこと（60分） 【授業後】新聞・雑誌必読。必ず、復習をし知識を身につけていくこと（60分）							
授業方法	講義							
評価基準と評価方法	中間テスト（20％）、レポート（2回）（20％）、期末試験（60％）によって総合的に判断する。							
履修上の注意	①観光産業の取り組みなど、知識を増やすために新聞やニュースを常に見ておくこと。 ②授業中の携帯電話やメールの使用、居眠り、私語、途中退出・遅刻等に対しては厳しく対処する。 ※講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 ※20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ③旅行会社のパンフレットなどに触れておくこと ④アクティブラーニング（グループワーク、ディスカッション等）を積極的に取り入れる。							
教科書	高橋一夫・大津正和・吉田順一編著『1からの観光』中央経済社、2010年							
参考書	随時紹介する。							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食と農の地域インターンシップ						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバー	U22420
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	食卓に上る食べ物が現場でどのように作られているのかを知り、農場から食卓までのプロセスを理解することを目指します。						
授業の概要	自分たちの手で、安心な食と環境づくりについて学びながら、食や環境についての課題を探ります。さらに、技術や専門知識を深めるとともに、将来の夢やキャリア形成を考える機会を提供します。異文化交流をはかりながらコミュニケーション能力など基礎的な実践力を養い、食・農業に関する理解の深化と実践的な立案・調整能力を身につけます。						
到達目標	①農場から食卓までにプロセスを理解する。 ②安心な食の環境づくりについて理解を深める。 ③将来のキャリア形成を考える。 ④異文化交流をはかりながらコミュニケーション能力を養う。						
授業計画	【集中講義】 (本学) 第1回 新しい時代の食・農・環境の農学へ 第2回 農業をめぐるグローバルな関係 第3回 日本の食と農の今 第4回 諸外国の農業の実態：「アフリカの農業の今」 (※第5回～第12回まではインターンシップ：課題解決のカギを学ぶ：視察重視) 第5回 食料・農業と環境の関わり（ファーマーズマーケットの視察） 第6回 歴史の中の日本の農業（ファーマーズマーケット・道の駅などの視察） 第7回 過去より問う環境とのかかわり（農場視察体験） 第8回 生産の場の環境：市場見学 第9回 毎日の食と食文化 第10回 農業を通じた異文化交流と食の現状 第11回 持続可能な社会に求められる人材を目指して 第12回 農業の展開と環境・資源問題 (本学) 第13回 プレゼンテーションの作成 第14回 プレゼンテーション：実習報告会 第15回 持続可能な社会に求められる人材を目指して						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	①農業や食に関する新聞や雑誌の話題をつかんでおくこと。 ②兵庫県の特産品を確認、整理。						
授業方法	講義と実地研修（インターンシップ）						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 平常点（インターンシップの参加も含む）50%：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問など）により評価する。到達目標に関する到達度の確認。 プレゼンテーション 30% レポート課題 20%						
履修上の注意	①授業回数の3分の1以上欠席した人は評価基準を失うものとする。 ②学外実習の費用（交通費や入館料、参加費など）は、自己負担とする。						
教科書	『知っておきたい食・農・環境』龍谷大学農学部食料農業システム学科編、昭和堂、ISBN978-4-8122-1543-2						
参考書	随時紹介していきます。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食農教育論						
担当教員	松木 宏美					科目ナンバー	U72620
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	人間らしい食の追求						
授業の概要	本講義では、①“食育から食教育、そして食農教育へ”、成長期の子どもから成年・中高年層に対しての生涯食農教育を実践し、②栄養主体から食べ物と食べ方のかかわり＝人間らしい食の追求を行う。③モノが生産される生産現場から素材を学び、流通・消費までの理解を深める。食の商品化・情報化の中で、日本の食材・調理・味覚・食べ方をしっかりと伝え、舌と頭脳に刷り込み、心豊かな人間・コミュニティづくりに努める。						
到達目標	(1) 農と食のつながりを理解し、現代の日本の食の問題を意識することができる。 (2) 日本の食材・調理・味覚・食べ方を理解し、伝えることができる。 (3) 日本の食文化を理解し、心豊かな人間・コミュニティづくりにつなぐ方策を身につける。						
授業計画	第1回 オリエンテーション、人間らしい食とは、食と農 第2回 日本の食と農の昔と今 第3回 食育・食教育の背景 第4回 食農教育とは 第5回 行政の取り組み 第6回 学校の取り組み 第7回 地域社会の取り組み 第8回 直売所の取り組み 第9回 企業の取り組み 第10回 家庭の取り組み 第11回 食農教育指導者に聴く「ゲスト・スピーカー招へい予定」 第12回 これからの食農教育の課題 第13回 食農教育とコミュニティづくり 第14回 人間らしい食とは 第15回 授業内容のまとめ・総復習と期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回の授業で扱うテーマについての情報収集、関連文献で予習をする。（学習時間：60分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点整理をし、自らの現状とあわせて考察する。（学習時間：120分）						
授業方法	主として講義形態で授業を行う。グループワークも行う。講義ではプリントを配布し、パワーポイントや映像を用いる。各自が食生活を客観的にふり返し、今後の食農教育やコミュニティづくりに向けた提案ができるように様々な具体例を紹介する。授業の終わりには、各回の課題についてまとめる時間を取り、ミニレポートを作成して提出とする。						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 期末試験40%：授業内容全般についての理解度、興味・関心の有無について評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 課題30%：問題点の提示、問題解決に向けての具体的な提案を評価する。到達目標(1)および(3)に関する到達度の確認。 受講態度30%：各回提出のミニレポートにより、理解度、興味・関心の明確性・具体性およびグループワークでの積極性について評価する。到達目標(1)および(2)(3)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 ミニレポートのコメント・質問等について、翌週の授業で紹介・解説する。ミニレポートは添削して返却する。						
履修上の注意	履修上の注意 授業回数の3分の1以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失うものとする。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 提出物は提出期限厳守のこと。 質問には、授業時および毎回のミニレポートで応じる。						
教科書	なし プリントを配布する。						
参考書	『食と農の社会学』 榎淵俊子・谷口吉光・立川雅司編著、ミネルヴァ書房、ISBN 978-4-623-07017-6 『教育農場の四季』 澤登早苗著、コモンズ、ISBN 4-86187-004-6 『土に生きるふるさとの味』 第1集～第5集、村田文子、第三書館、ISBN 978-4-8074-0910-5(第1集) ISBN 978-4-8074-0911-2(第2集) ISBN 978-4-8074-0912-9(第3集) ISBN 978-4-8074-0913-6(第4集) ISBN 978-4-8074-0914-3(第5集)						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食品衛生学						
担当教員	武智 多与理					科目ナンバー	U73450
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	食品衛生の基礎						
授業の概要	食品の品質を損なうことの最大の原因が、微生物といっても過言ではない。安全性についていえば、食中毒病因物質の85%以上が細菌である。食品の安全性を確立するには、微生物の制御が大きな割合を占めていると言える。本講義では、前半、微生物について、後半、食品をめぐる環境及び安全性の確立について学ぶ。						
到達目標	・微生物の特性を挙げることができる。 ・食品の腐敗・変敗の機構を述べることができる ・代表的な食品の腐敗・変敗の防止法を説明できる。 ・食品をめぐる環境について列挙し説明できる。 ・食品の安全流通と安全管理の方法を挙げることができる。 ・フードスペシャリスト資格試験の過去問を解けるようになる。						
授業計画	第1回 概論 食品衛生学とは 第2回 食品の腐敗・変敗とその防止① 第3回 食品の腐敗・変敗とその防止② 第4回 食中毒（微生物性①） 第5回 食中毒（微生物性②） 第6回 食中毒（自然毒） 第7回 食中毒（その他） 第8回 食品の安全性の確保 第9回 家庭における食品の安全保持 第10回 環境汚染と食品 第11回 器具および容器包装 第12回 小テスト3解説、水の衛生 第13回 食品の安全流通と表示 第14回 食品の安全流通と表示、食品の安全管理 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って、教科書の該当する箇所を読んでおく。（学習時間：90分） 授業後：学んだことを復習し、要点をまとめておく。フードスペシャリスト資格試験の過去問を解く。（学習時間：90分）						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	受講状況：10% 期末試験：50% 小テスト（複数回）：40%						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 2/3以上の出席に満たないものは、受講資格を失う。 教科書は必ず購入すること						
教科書	三訂 食品の安全性 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 ISBN：978-4-7679-0574-7 その他、適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食品加工学						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバー	U72420
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	食品の保存の原理や保存方法、加工の工程、食品添加物などについて学ぶ。						
授業の概要	消費者の嗜好の多様化、健康・安全志向、生活の合理化などから、加工食品の占める割合や価値は高まり、さらに質と量の充実が図られていくと予想される。食品の加工・貯蔵に関する理論や、食品の加工技術、及び加工食品を選択する際に欠かせない食品表示の見方などについて、①植物性食品、②動物性食品、③その他の食品について解説する。						
到達目標	加工食品の利点や欠点を理解して、実生活に応用できる力を身に付ける。						
授業計画	第1回：加工の目的、原理、概要 第2回：農産食品の加工（穀類・イモ類の加工） 第3回：農産食品の加工（豆類・野菜・果実類の加工） 第4回：畜産食品の加工（肉類の加工） 第5回：畜産食品の加工（牛乳・卵の加工） 第6回：水産食品の加工 第7回：食用油脂および調味食品 第8回：嗜好食品およびインスタント食品 第9回：食品の加工法 第10回：食品の保存法 第11回：食品の包装 第12回：加工食品の規格と表示制度 第13回：加工食品と食品衛生 第14回：食品業界の現状 第15回：まとめ 定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って教科書の該当するところをあらかじめ読んでおく グループワークのための資料作成を行う（学習時間：1時間）。 授業後：配布プリント等を使い学習内容をノートにまとめる（学習時間：1時間）。						
授業方法	講義 ただし、いくつかの授業に関してはグループワークの結果発表をふまえて、解説・講義を行う形式とする。						
評価基準と評価方法	受講状況10%、小テスト40%、期末テスト50%で評価する。						
履修上の注意	積極的に学ぶ姿勢が必要です。						
教科書	新食品・栄養科学シリーズ 食品加工学（第2版）食べ物と健康3 化学同人						
参考書	特になし						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	食品加工学実験							
担当教員	川口 真規子					科目ナンバー	U22430	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	金曜1～2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	各種加工食品を製造することにより、食品加工の原理を深く理解する。							
授業の概要	加工食品は私たちの食生活に不可欠なものである。本実験は加工食品の製造工程を具体的に把握するとともに、その加工原理や貯蔵方法などを科学的に理解することを目的としている。							
到達目標	加工食品を実際に製造することにより、その加工原理および製造方法を述べることができるようになる。							
授業計画	第1回 諸説明 第2回 豆類の加工 みそ仕込み 第3回 乳類の加工 ヨーグルト 《実験1》ヨーグルトのpH測定 種実類の加工 ピーナツクリーム 第4回 いも類の加工 こんにゃく 第5回 菓子類の加工 キャラメル・バタースカッチ 《実験2》砂糖の加熱温度の違いによる変化 第6回 豆類の加工 豆腐 第7回 穀類の加工 うどん 《実験3》グルテンの分離 第8回 乳類の加工 アイスcream まとめ1 レポート提出 第9回 乳類の加工 フレッシュチーズ 第10回 野菜類の加工 トマトケチャップ 《実験4》加熱濃縮による可溶性固形成分の変化測定 野菜類の加工 ピクルス 第11回 肉類の加工 ソーセージ 第12回 菓子類の加工 シュトーレン 《実験5》製パン発酵条件の比較 乳類の加工 バター 第13回 果実類の加工・びん詰めの製造 りんごジャムびん詰め 《実験6》ベーキングパウダーによる膨化試験 第14回 乳類の加工 乳酸飲料 みそ官能評価 第15回 まとめ2 レポート提出							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：実習・課題レポートの準備 授業後：実習・課題レポートの作成・完成							
授業方法	実習、一部簡単な実験を含みます							
評価基準と評価方法	授業への取り組み30%、レポート70%							
履修上の注意	食品アレルギーのある学生は事前に連絡してください。対応します。							
教科書	プリント配布							

参考書	
-----	--

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	食品学							
担当教員	馬場 公恵					科目ナンバー	U73440	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	食品の科学的な性質を総合的に理解する。							
授業の概要	食品がいかに栄養豊富であっても、食べられなくては役に立たない。したがって、食べ物は「美味しさ」が重要な要素といえる。「美味しさ」は単に味だけの問題でなく、色や香り、そして触覚（手触り歯触り等）が重要な因子である。さらには食環境も含めて、脳が総合的に判断することである。本講では最初に食品の成分と特徴および「美味しさ」に関係する因子とその重要性、次いで食べ物の原料である食品の二次機能、即ち色・味・香りについて主に化学的側面から論じる。そして触覚に関係する物性についても述べる。							
到達目標	食品成分の科学的性質を理解し、食品の科学的な特徴を説明することができる。							
授業計画	第1回 授業概要の説明、食品の機能と栄養 第2回 食品成分表、食品の成分と特徴：水、炭水化物 第3回 食品の成分と特徴：たんぱく質、脂質 第4回 食品の成分と特徴：ビタミン、ミネラル 第5回 植物性食品―穀類、小テスト①（食品の成分と特徴） 第6回 植物性食品―いも類・砂糖・豆類・種実類 第7回 植物性食品―緑黄色野菜 第8回 植物性食品―淡色野菜 第9回 植物性食品―果物類・きのこ類・藻類 第10回 動物性食品―魚介類・肉類、小テスト②（植物性食品） 第11回 動物性食品―卵類・乳類 第12回 油脂類・調味料及び香辛料類、小テスト③（動物性食品） 第13回 嗜好成分の化学：二次機能 第14回 食品の機能性：三次機能 小テスト④（第12回～第14回） 第15回 まとめ、試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回のテーマについて予習を行う（キーワードは前もって連絡をする）（学習時間1時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点を確認・整理を行い、小テストで理解度を確認する（学習時間1時間）							
授業方法	講義：各回テーマについて講義をした後、グループに分かれディスカッションを行う。							
評価基準と評価方法	授業参加態度50%、小テスト20%、試験30%として評価する。							
履修上の注意	日頃から食品に関心を持ち、資料としてまとめておくこと。 出席回数が開講回数の3分の2に満たないものには、原則単位認定を行わない。 また遅刻・早退20分以上は欠席とする。							
教科書	新カラーチャート食品成分表（増補） 教育図書株式会社 ISBN978-4-87730-304-4 （ただし2015年度以降のものであれば上記以外の食品成分表でもよい） 適宜 資料配布							
参考書	イラスト食品学総論 東京教学社 ISBN978-4808260583 新版 食品学Ⅰ 建帛社 978-4-7679-0581-5 新版 食品学Ⅱ 建帛社 978-4-7679-0582-2							

[illegible]

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食品貯蔵学						
担当教員	升井 洋至					科目ナンバー	U72430
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	身近にある食品の貯蔵方法について、その原理を理解し、平素の食生活での食品について考え、貯蔵法が食生活で応用できるようにする。						
授業の概要	日常、口にする食べ物は、調理・加工が施されている。これらの食品が必ずしも生鮮食品のみであることはなく、流通過程で変化（変質）しないように何らかの貯蔵処理が行われている。本講義では、食品の貯蔵原理について、食品成分およびこれらの成分変化の理解を通じて、得られた知識が日常の食生活に役立てられることを目指して講義する。						
到達目標	(1) 食品貯蔵の原理を理解する。 (2) 家庭での貯蔵法および加工食品等について、食品の特性を理解する。 (3) 貯蔵原理の知識を平素の食生活に役立てるようにする。						
授業計画	第1回 はじめに 食品貯蔵と食品成分との関連 第2回 貯蔵による劣化の要因 (1) 物理・化学的要因 第3回 貯蔵による劣化の要因 (2) 生化学的要因 第4回 貯蔵法 (1) 水分、温度、浸透圧 第5回 貯蔵方 (2) pH、酸素、殺菌 第6回 貯蔵法 (3) 食品添加物 第7回 食品の包装 第8回 貯蔵による食品成分の変化 (1) 食品成分間反応 第9回 貯蔵による食品成分の変化 (2) 酸化 第10回 貯蔵による食品成分の変化 (3) 酵素 第11回 植物性食品の加工貯蔵 (1) 穀類、豆類、イモ類 第12回 植物性食品の加工貯蔵 (2) 野菜類、その他 第13回 動物性食品の加工貯蔵 (1) 畜産 (肉類、乳類) 第14回 動物性食品の加工貯蔵 (2) 畜産 (卵類)、水産 第15回 食品の規格、表示制度、食品貯蔵学のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1 回目を除き、次回講義の関連項目を示すので、その内容について予習を行って下さい。講義ごとに要点をまとめて、身近な食品と関連づけるように復習をしてください。						
授業方法	資料を配布し、パワーポイントにて講義を進める。						
評価基準と評価方法	評価の方法：定期試験（筆記）と平常評価 評価の内容・基準：敵試験（筆記）80%、平常評価（課題提出）20%						
履修上の注意	授業回数の2/3以上の出席に満たないものは受験資格を失う。						
教科書	なし						
参考書	食品加工貯蔵学、本間清一・村田容常編、東京化学同人、ISBN978-4-8079-1667-2						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食品の流通論						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ－	U72530
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	食料（食品）の生産・流通・消費までの流れを具体的かつ総合的に把握することを目的とする。（フードスペシャリスト試験科目）						
授業の概要	情報・技術の発達によりフードシステムが変化している。その要因は、所得の上昇や家族生活の変化、供給側の対応などが考えられる。 本講義では、食生活の外部化に依存している家族の食生活の変化を捉えながら、提供側である小売業・卸売業の実態と変化、さらに生鮮三品や米・小麦・加工食品など様々な食材や食品分野をケースに取り上げながら、その流通と消費実態を考察する。そして、フードマーケティングの視点から今日の食料（食品）問題と流通のシステムの変化について考えていく。						
到達目標	①生産現場の仕組みを理解し、特徴を説明することができる。 ②生産されたモノが消費者に渡るまでの流通プロセスを理解し、現代の流通の課題について自らの考えを述べることができる。 ③具体的な事例をもとに、流通の仕組みについて批判的に捉える事が出来る。 ④食育や環境問題についての実践的な行動を目指すことができる。						
授業計画	第1回目 食市場の変化―消費者の変化と食生活― 第2回目 食品流通の役割と社会的使命 第3回目 食品流通と食品市場① ―食品小売業とスーパーマーケット― 第4回目 食品流通と食品市場② ―外食産業とコンビニエンスストア― 第5回目 PBとNBとは何か 第6回目 食品流通と食品市場③ ―卸売市場― 第7回目 食品流通と食品市場④ ―食品卸売市場― 第8回目 食品流通と食品市場⑤ ―生協の共同購入― 第9回目 主要食品の流通―生鮮三品―（ゲストスピーカーの予定） 第10回目 主要食品の流通―米・小麦・乳飲料・大豆の流通― 第11回目 主要食品の流通―漬物・惣菜・食用油脂・菓子の流通― 第12回目 加工食品の流通と消費①（学外実習） 第13回目 清涼飲料・輸入食品の流通と消費②（学外実習） 第14回目 フードマーケティングと食料消費の課題 第15回目 消費スタイルと流通技術・期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】スーパーや百貨店をはじめコンビニなどがどのような食品を扱い、管理しているのか現場を観察しながら現状を理解する。（60分） 【授業後】新聞を必ず読み（特に食品問題）、復習をしておくこと（60分）。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末試験50%、レポート（2回）30%、発表20%						
履修上の注意	①新聞必読 ②講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 ※20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ③現場視察のため学外実習を行うこともある。入場料・交通費などの実費負担がある。 ④アクティブラーニング（グループワーク、ディスカッション等）を積極的に取り入れる。						
教科書	日本フードスペシャリスト協会編『三訂 食品の消費と流通』建帛社、2016年。						
参考書	石原武政・竹村正明『1からの流通論』碩学舎、その他授業中に随時紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食文化論						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバー	U73610
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	現在進行系の都市の食文化と消費社会におけるのグルメについて、さまざまなテーマから概観する。						
授業の概要	衣食住など、人間の生活行動に関する技術や意識の文化を生活文化という。そのなかでも、食物摂取行動に関する文化を食文化といい、この授業では、食文化の意義と内容、文化から見た日本の食、食文化の国際化と交流に焦点を当てる。 またそれぞれの食文化を形成させた要因を社会的背景や地理的環境と関連づけて学ぶとともに、時代の変遷に伴って多様化した伝統文化としての食文化を理解し、食文化が地域再生のキーとなることを解説する。						
到達目標	(1)食生活および食の楽しみを文化としてとらえることができる。 (2)和食、フランス料理、中国料理などの代表的料理の特徴を理解し、わかりやすく説明することができる。 (3)魅力ある都市の食文化＝グルメについて、情報収集し発信することができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 「食ること」について考えてみよう 第2回 食と食文化 第3回 食と農業、漁業 第4回 日本の食、自然と食材 第5回 和食の歴史と特徴 第6回 京へ上方料理 第7回 現代フランス料理概説 第8回 つくる現場、食べる現場から（ゲスト講師） 第9回 現代中国料理概説消費としての食 第10回 消費社会と食。ゲーム化、エンタメ化、ファッション化する食 第11回 情報社会と美食、グルメ 第12回 コミュニケーションと食 第13回 「おいしい」とは何か。おいしさを科学する 第14回 食料問題と食の安全性。持続可能な食 第15回 授業内容のまとめ。期末課題（試論）提出						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前、授業後に参考書を読んで、キーワードや専門用語を理解する（1時間）。 まちに出て飲食店や市場、スーパーマーケットなどに積極的に行き、さまざまな「食の現場」を知る（1時間）。 自分で料理を作ってみて、家族や仲間と一緒に食べて評論してもらう（2時間）。						
授業方法	講義とその都度の質問。 毎回、レジュメや資料を配布します。 講義についてのリアクションペーパーを書いてください。 「つくる現場、食べる現場」というテーマで、関西で活躍する有名フランス料理のシェフにゲスト講師に来ていただきます。						
評価基準と評価方法	期末試験として1200字程度の試論を提出40%。 各回授業のあとに書いて提出するコメントペーパー40%。 授業中のコール＆レスポンス20%。						
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることが出来ません。						
教科書	毎回、レジュメや資料を配布します。						
参考書	『いま「食ること」を問う』サントリ一次世代研究所編、農山漁村文化協会 ISBN-10: 4540062670 『フランス料理の歴史』ジャン＝ピエール・ブーランほか著、角川ソフィア文庫 ISBN-10: 4044002320 『中国料理の文化史』張 競著、ちくま文庫 SBN-10: 4480430695 『「うまいもん屋」からの大阪論』江 弘毅著、NHK出版新書 ISBN-10: 414088357X 『有次と庖丁』江 弘毅著、新潮社 ISBN-10: 4103354119 『食味往来 食べものの道』河野友美著、中公文庫 ISBN-10: 4122060710 『哲学するレストラン』橘 真著、ブリコロール・パブリッシング ISBN-10: 4990880129						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	色彩学						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバー	U72140
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	色彩の基礎知識を習得する。						
授業の概要	人は情報の大部分を視覚から得ている。その中でも色のもつ影響力は大きい。本講義では色の性質について学び、色の表し方や色彩調和の理論、色の測定方法についての基礎知識を身に着ける。さらに、演習課題を通して、色の効果的な使い方についても学ぶ。						
到達目標	代表的な表色系とカラーオーダーシステムについて説明することができる。 色彩調和に基づいて、色を使った表現をすることができる。 色と光の関係について科学的に説明することができる、 生活と色に関する諸問題について考察することができる。						
授業計画	第1回：色の性質、色と心理 第2回：色を表し、伝える方法(色の表示方法とその特徴) 第3回：カラーオーダーシステム（マンセルシステム） 第4回：カラーオーダーシステム（CIC） 第5回：カラーオーダーシステム（NCS、PCCS） 第6回：色彩調和の考え方 第7回：これまでのまとめと中間試験配色 第8回：配色と色彩調和 第9回：光から生まれる色 第10回：色が見える仕組み 第11回：色の測定 第12回：混色と色再現 第13回：まとめと期末試験 第14回：学外研修事前学習 第15回 学外研修、確認テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所の予習（60分） 授業後学習：授業内容の整理、課題、まとめプリント（60分）						
授業方法	講義、一部実習を含む。学外研修（神戸ファッション美術館※予定）						
評価基準と評価方法	平常点（受講態度、課題）40％、試験 60％ 試験は中間と期末の2回実施する。						
履修上の注意	1. 学外研修の交通費と入館料は自己負担。実施時期は土曜日または補講期間の予定。 2. 教科書、配色カード、のり、はさみ、その他指示されたものを持参すること。 3. 配色カードは試験にも使用するので、各自必ず準備すること。						
教科書	「カラーコーディネーションの基礎」東京商工会議所（中央経済社）ISBN:978-4502445804 「新配色カード199a」日本色研事業株式会社						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	住行動論						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ	U72230
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	人間の「生活」と「住行動」の関わりについて考える						
授業の概要	本講義は、人間にとって最も身近な生活環境である「住まい」を中心的に扱う。住まいと人間との関わりから、人間行動とそれに伴う心理状態の変化などの具体例を紹介する。また、都市で発生する諸問題（騒音、日照権、ゴミ問題等）、高齢者や障がい者との共生のための住まいのあり方などを取り上げ、家族、地域、世代等に着眼し、人間関係や諸環境間の関連について、批判的に考察する基礎的能力を養う。さらに、本講義で学んだ内容を、自らの生活環境を改善する実践へと発展させるような展開を図る。						
到達目標	・身近な住環境を批判的に考察し、改善案について間取り図を作成することができる【汎用的技能】 ・身近な住環境に潜む問題に気づき住行動からの改善を図ることができる【態度・志向性】 ・現在の自分、これからの自分を見据えた住まい方のプランについて述べる【知識・理解、汎用的技能】						
授業計画	第1回 講義形態の確認、住まいに関する関心度アンケート 第2回 身近な住まいへの着眼 第3回 身近な住まいに関するグループワーク（発表含む） 第4回 家族のライフステージと住まい（一人暮らしに必要な情報） 第5回 家族のライフステージと住まい（一人暮らしの人生設計と住まい） 第6回 家族のライフステージと住まい（子育て家族の住まい・学童期） 第7回 家族のライフステージと住まい（子育て家族の住まい・青年期） 第8回 家族のライフステージと住まい（高齢期の住まい・高齢（単身）世帯） 第9回 家族のライフステージと住まい（多世代同居と住まい） 第10回 共生社会と住まい（ペットと住まい） 第11回 共生社会と住まい（バリアフリー、ユニバーサルデザイン） 第12回 共生社会と住まい（持続可能な社会と住まい）※ゲストスピーカー 第13回 共生社会と住まい（多文化共生と住まい） 第14回 共生社会と住まい（多様な家族形態と住まい） 第15回 住行動に関する終講課題及び講義総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各授業について、理解が不足している点を復習すること。（30分） 次時の授業に向けて、自分の身近な生活環境を振り返り、関連する事項を整理するなど、主体的な学習に臨むための準備を行うこと。（20分）						
授業方法	講義はパワーポイントにそって進め、毎時間ノートに要点を整理すること。講義の最後には「本日の課題」と題したミニ記述課題を実施するので、各自、その時間の学びを総括すること。 さらに、身近な住環境や住まい方等について各自の意見を整理する活動や、それをもってペアワークやグループディスカッションなどを行うことがある。						
評価基準と評価方法	終講課題（60%）、授業の参加態度・ワークシート記入状況（40%）などを含め総合的に評価する。						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。						
教科書	授業内容に応じて資料を配布する。						
参考書	小澤紀美子編『豊かな住生活を考える-住居学-第3版』彰国社、2006。ISBN:4-395-00625-6						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	住生活論						
担当教員	平田 陽子					科目ナンバー	U11030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	住居に関する基礎的知識の修得と私たちの生活をめぐる課題の理解						
授業の概要	現代日本の都市生活において、多くの人々が住まいの狭小性、老朽化、設備の不備、バリアあるいは周辺環境などでの不満や不安感を抱いている。また、先の阪神大震災が示したように、住まいの問題は多様で山積している。このような住まいに関して、基礎的知識や意味・重要性を概説し理解を深める。 内容は、住まいとはなにか、その歴史と現代住宅の多様性、家族の変容、高齢化、環境共生、あるいは衣や食なども視野に入れながら、住まいの実態・今後のあり方について、最近のトピックスを交えながら講義を進める。						
到達目標	日本の住まいの特徴と多様性、住居の歴史、住居の間取り、家族の変容、環境共生などの現代の課題について、自分の言葉で語ることができるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション、すまいの色々 第2回 日本の住まいの特徴 第3回 住居の歴史（古代～中世まで） 第4回 住居の歴史（近世） 第5回 住居の歴史（近代） 第6回 間取りの特徴 第7回 間取りの制作（レポート課題）＋まとめのテスト1 第8回 住宅の維持管理 第9回 住生活のための人間工学 第10回 家族の変容 第11回 高齢者の生活空間 第12回 子どもの生活空間 第13回 集合住宅をめぐる問題 第14回 環境共生を考えた住宅 第15回 間取りの制作修正（レポート作成）＋まとめのテスト2						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：テキストの該当箇所をあらかじめ読んでおくこと。発表の順番に当たっているときには、準備をしておくこと（30分） 授業後学習：テキストと配布されたプリント類にもう一度目を通しておくこと（60分） 日ごろから新聞やテレビで取り扱われる住宅の情報や、街を歩く際には街並みなどにも関心を持って欲しい。						
授業方法	テキストとプリントをもとに、パワーポイントを用いた講義を行う。 住まいに対する関心を深めるために、毎回授業の冒頭に、自分の好きな住宅や町並みについての発表報告を受講生から行ってもらう予定である。						
評価基準と評価方法	平常点（20％）、まとめのテスト（30％×2回）、レポート（20％）						
履修上の注意	出席を重視する。						
教科書	中根芳一編著、「私たちの住居学」、オーム社、ISBN-13：978-4274069871						
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	情報社会論						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバー	U72040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生活、仕事などの身近な問題をテーマに情報社会を社会的に捉えていく						
授業の概要	情報化社会とされる今日、我々は、日常生活における様々な問題を解決するために、情報を正確に捉える力や分析する力が求められている。また「情報」と「職業」の接点を考察することは、自身のキャリア形成を考える際や、就職活動に取り組むときに必要な視点となるといえる。この授業では、急速に発展する情報社会を社会的に捉え、仕事、生活をしていくうえで必要な情報の収集、発信の方法や、若者文化におけるSNSの危険性や情報モラルについて考えていく。						
到達目標	(1) 情報社会の諸問題を社会的に捉える力を養う。【知識・理解】 (2) 情報社会に潜むリスクについて理解し、適切な情報の収集、発信方法を習得する。【汎用的技能】 (3) 情報社会に対する興味をより具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 情報社会の成立 第3回 情報社会の進展 第4回 インターネットの普及 第5回 情報化とプライバシー 第6回 若者文化と情報－若者にとって「つながる」とは何か－ 第7回 若者とインターネット 第8回 ネットいじめ問題 第9回 SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の有効性 第10回 SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の危険性 第11回 情報モラルとは 第12回 情報社会と職業－情報化がもたらす仕事の変化－ 第13回 大卒就職とインターネット 第14回 生涯学習社会とインターネット 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・ 情報社会に関するトピックスに日常から関心を持ち、関連文献や行政資料の下調べを通して理解を深めておくこと（学習時間：90分）。 ・ 授業内容をふまえて学生同士でディスカッションを行い自身の意見をまとめておくこと（学習時間：90分）。						
授業方法	講義を中心に、必要に応じてディスカッションを行う						
評価基準と評価方法	・ 課題試験70%：授業で扱った情報社会に対する理解度、インターネット、SNSに対する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価するとともに、到達目標(1)から(3)に関する到達度の確認。 ・ レポート30%：内容についてのコメント、質問の記述の的確性を評価するとともに到達目標(1)から(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	・ 出席及び授業への参加度重視。 ・ 欠席した場合は、必ず相談すること。						
教科書	適宜、レジュメ、資料等を配布する						
参考書	授業中に指示する						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活学概論						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバー	U01010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	人間の生活について総合的に学ぶ						
授業の概要	本講義は、人間の生活について、その変化のメカニズムや生活を捉える方法について知り、本学科で学ぶ上での基礎的な知見を得ることを目的とする。前半は、「生活学」や「家政学」の学問体系について概観し、現代の都市的生活様式がどのように形成されてきたかを知る。後半は、生活の中で重要な家計、生活時間、家事労働等について学び、現代生活の具体的特徴を知る。さらに、死別に伴う悲嘆について考えることから、一人の人間が誕生し、生涯を終えるまでの過程を学び、生活を総合的に捉える視点を養う。						
到達目標	・生活学・家政学の成り立ちや現状について理解している【知識・理解】 ・個人のライフコースにおける諸課題が説明できる【汎用的技能】 ・現代の多様な生活課題に対して、自分なりの解決策を考え提示することができる【知識・理解、態度・志向性】						
授業計画	第1回 生活学を学ぶ意義とこれまでの学びの振り返り 第2回 生活学・家政学の成立と変遷 第3回 戦後の生活変化と家族形態の変遷 第4回 生活と家族をめぐる社会的課題（人口動態、各種統計から） 第5回 生活と家族をめぐる身近な課題（生活・家族をめぐる具体的事例から） 第6回 ジェンダーとセクシャリティ 第7回 恋愛とパートナー選択 第8回 生活と生活自立 第9回 ライフイベントとライフプランニング 第10回 生活時間と女性の就業 第11回 消費生活と家計 第12回 情報社会と消費生活 第13回 加齢と高齢期の生活 第14回 死別と悲嘆 第15回 生活学の将来展望と試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各授業について、理解が不足している点を復習すること。（30分） 次時の授業に向けて、自分の身近な生活環境を振り返り、関連する事項を整理するなど、主体的な学習に臨むための準備を行うこと。（20分）						
授業方法	講義はパワーポイントにそって進めるので、毎時間配布するワークシートに要点を整理すること。講義の最後には「本日の課題」と題したミニ記述課題を実施するので、各自、その時間の学びを総括すること。さらに、大人数の講義ではあるが、主体性をもって学んでもらうため、可能な限り視聴覚教材を積極的に活用しながら意見を整理する時間を設けるので、積極的に臨むことを期待する。						
評価基準と評価方法	試験（60%）、ワークシート記入状況（40%）などにより総合的に評価する。特に、毎時間配付するワークシートは必要事項をすべて埋めること、また、各講義の終末で実施する「本日の課題」は、各テーマに沿った内容について、可能な限りその時間に学んだ専門用語を使用し、自らの考えを具体的に述べられるように意識すること。						
履修上の注意	・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。						
教科書	授業毎に資料を配布する。						
参考書	日本家政学会家政教育部会編、家族生活の支援-理論と実践-、2014、建帛社。 （ISBN: 978-4-7679-6518-5）、¥2,200（税別）。 各自高等学校で使用していた家庭科の教科書（及び資料集）。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	生活経済学							
担当教員	竹田 美知・前田 直哉					科目ナンバー	U12080	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生活と経済のかかわりを理解させ生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性を理解する。							
授業の概要	最近メディア報道で経済的諸問題、具体的には国債発行に見る累積赤字、不良債権問題と金融危機、失業率上昇や就職率低下などの雇用問題、円相場の変動と輸出入の関係、産業の空洞化などが多く取り上げられる。本講義では、失業率上昇や就職率低下などの雇用問題や産業の空洞化など、学生の卒業後の生活とかかわる問題と関連させながら、これら諸問題に対する政府および行政の対応を神戸の産業を例にとりて具体的に論じ、さまざまな経済的問題が私たちの生活にどのように影響してくるかを考えていく。							
到達目標	(1)「経済循環における家計の位置づけを家計の可処分所得の分析などの具体的な事例を通して理解し、その説明ができるようになる」【知識・理解】 (2)「生涯にわたる短期・長期の生活設計を行う上での個人の資産管理の基本的な考え方を理解し、それを身近なものとして認識できるようになる」【汎用的技能】 (3)「キャッシュレス社会とその課題について理解し、展望できるようになる」【態度・志向性】							
授業計画	第1回 日本の家計の金融行動と日本経済の資金循環（担当：前田） 第2回 今日の家計の特徴（担当：竹田）グループワーク 第3回 貨幣の時間価値①：貨幣の時間価値と機会費用（担当：前田） 第4回 貨幣の時間価値②：貨幣の現在価値と将来価値（担当：前田） 第5回 金利①：金利の分類、名目金利と実質金利（担当：前田） 第6回 金利②：単利と複利、債券価格、株式価格と金利（担当：前田） 第7回 長期の生活設計におけるリスク管理（担当：竹田） 第8回 生涯賃金と支出（担当：竹田）プレゼンテーション 第9回 社会保障制度・中間試験（担当：竹田） 第10回 個人・家計の負債利用①：負債利用の意思決定プロセス、負債のコスト（担当：前田） 第11回 個人・家計の負債利用②：ローンの種類と目的（担当：前田） 第12回 個人・家計の負債利用③：クレジットローンの利用と返済（担当：前田） 第13回 ライフプラン実習（担当：竹田） 第14回 金融商品①：金融商品の種類、金融リスク、金利と利回り（担当：前田） 第15回 金融商品②：債券の種類、債券価格と利回り、信用リスクと利回り格差・定期試験（担当：前田）							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードについて、その関係文献を図書館で見つけて、読み込むこと（学習時間：90分） ・授業後学習：授業内で指定したテーマ・課題についてレポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出すること（学習時間：90分）							
授業方法	各回設定のテーマについて講義し、練習問題を出す。その練習問題にペアワークあるいはグループワークによって答えること。							
評価基準と評価方法	・定期試験(30%)：第10～15回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。 ・中間試験(30%)：第1～9回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・平常点(40%)：リアクションペーパー（講義内容に基づいた練習問題）と松蔭manabaコースコンテンツへの提出物で内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。							
履修上の注意	・出席回数が開講回日数の3分の2に満たない場合は、原則として評価の対象としない。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・就職活動や公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席する場合は、証明書とともに、欠席届を提出した場合にのみ、考慮の対象とする。 ・講義への理解度を確認するため、講義中に小テストを行い、その結果は平常点をカウントする上での材料とする。							
教科書	貝塚啓明・吉野直行・伊藤宏一〔編著〕『実学としてのパーソナルファイナンス』中央経済社を薦める。							
参考書	特になし。							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活行動論						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバー	U01040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日常生活における人の行動の心理学的考察						
授業の概要	日常生活のさまざまな場面における人間の行動とその心理メカニズムについて理解することを目的とする。知覚心理学、認知心理学、社会心理学、人間工学といった心理学と心理学関連領域の基礎的な概念を学ぶとともに、衣、食、住、ストレスや対人関係などの日常の生活行動を取り上げ、具体的な事例をとおしてそれらの心理的な意味やメカニズムを考える。この講義をとおして人間の感覚と行動の関係について考える力を養うことが期待できる。						
到達目標	1. 実生活に関わる心理学の考え方、研究を説明できる。[知識・理解] 2. 図表からわかることを文章で表現できる。[汎用的技能] 3. 行動と科学の結びつきを自分の体験に照らし合わせて表現できる。[知識・理解][態度・志向性]						
授業計画	1. オリエンテーション 2. 感覚の心理学的意味 3. 行動と感情 4. 行動と環境 5. 人格 6. 知覚－視覚－ 7. 対人魅力 8. 発達 9. 記憶 10. 認知 11. 感情 12. 知覚－触覚－ 13. 対人関係 14. 心理学の生活への応用 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業で指示する資料を収集し、まとめる。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で指定された課題を松蔭manabaコースコンテンツに投稿する（学習時間：2時間）						
授業方法	主に講義形式でおこなう。あるテーマについてグループでディスカッションしたものを発表し、それについての解説を行う回もある。						
評価基準と評価方法	小レポート(40%)：授業のなかで随時おこなう。到達目標3に関する到達度の確認。 試験(60%)：授業で解説した内容について説明できるか、図表から読み取ったことを表現し、自分の考えを展開できるかについて評価する。到達目標1と2に関する到達度の確認。						
履修上の注意	3分の2以上の出席がないと、受講資格を失う。私語厳禁とする。						
教科書	適宜、プリントを配布する。						
参考書	「視覚世界の謎に迫る－脳と視覚の実験心理学」 ブルーバックス ISBN：978-4062575010 「美人は得をするか 「顔」学入門」 集英社新書 ISBN：978-4087205589 「皮膚感覚と人間のこころ」 新潮社 ISBN：978-4-10-603722-1 「自分の価値を最大にするハーバードの心理学講義」 大和書房 ISBN：978-4479795315						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活情報処理実習						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバー	U22050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	データ分析入門						
授業の概要	この授業では、コンピュータソフトとしてWord、Excel、PowerPointなどを用いたプレゼンテーション資料作成などの基本的な情報処理技術の修得を目指す。また、家庭生活における文書作成や家計に関わるグラフ、表作成の基礎を学び、これらの技術を活用し、自身の関心分野について、データを収集、加工することに取り組む。そして、これらを通して、社会問題に対する意識を高めるとともに、疑問を解決するための糸口を見つけ出す力や、生活設計をする力を養うこと、企画の提案や研究成果等を他者に伝える力を養うことを目的とする。						
到達目標	①Word, Excel, PowerPointに関する基本的な知識、技術を修得すること。【知識・理解】 ②Word, Excel, PowerPointを活用しながら企画書作成、データ分析、加工することができる。【汎用的技能】 ③Word, Excel, PowerPointを基にプレゼンテーション資料を作成し発表することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 授業オリエンテーション（講義） 第2回 課題の設定と情報収集（演習） 第3回 統計の読み方と調査方法（演習） 第4回 文章作成演習－ビジネス文章作成（演習） 第5回 文章作成演習－企画書作成（演習） 第6回 表計算ソフトの操作①－基礎操作（講義と演習） 第7回 表計算ソフトの操作②－データ入力（演習） 第8回 表計算ソフトの操作③－グラフ作成（演習） 第9回 表計算ソフトの操作④－データ分析（演習） 第10回 表計算ソフトの操作⑤－データ分析（演習） 第11回 プレゼンテーションの基礎（講義と演習） 第12回 プレゼンテーションの作成－デザイン（演習） 第13回 プレゼンテーションの作成－図表、グラフ（演習） 第14回 プレゼンテーション課題の発表 第15回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・情報技術に関するトピックスに関心を持ち、関連文献を活用し代表的な技術について下調べをして理解を深めておくこと（学習時間：90分）。 ・自己学習の課題が出た場合、次の授業開始までに提出すること。（学習時間：90分）						
授業方法	コンピュータ教室において、演習を中心に行なう。						
評価基準と評価方法	講義中の課題提出70%：授業で示した技術の理解度の評価と到達目標①および②に関する到達度を確認。プレゼンテーション資料の作成と実演30%：発表資料の評価と到達目標③に関する到達度の確認。						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。 ・欠席した場合は、必ず相談すること。						
教科書	教科書は使用しない。レジュメなどを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活情報処理実習						
担当教員	吉井 美奈子					科目ナンバー	U22050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	家庭生活に関わる情報の意義や役割、モラルを理解させ情報処理に関する知識と技術を習得させるとともに、家庭生活に関わる情報通信技術と各種ソフトウェアを主体的に活用する能力と態度を育てる。						
授業の概要	この授業では、コンピュータソフトとしてWord、Excel、PowerPointなどを用いたプレゼンテーション資料作成などの基本的な情報処理技術の修得を目指す。また、家庭生活における文書作成や家計に関わるグラフ、表作成の基礎を学び、これらの技術を活用し、自身の関心分野について、データを収集、加工することに取り組む。そして、これらを通して、社会問題に対する意識を高めるとともに、疑問を解決するための糸口を見つけ出す力や、生活設計をする力を養うことを目的とする。						
到達目標	家庭生活に関わる、情報通信技術の基礎知識と各種ソフトウェアの知識と技能を習得する。Word、Excel、PowerPointを活用しながら、企画書作成、データの分析、加工、これらを基にプレゼンテーション資料を作成し、発表することができる。						
授業計画	第1回 家庭生活における情報化の進展（講義）ブロードバンド通信、モバイル通信、IPアドレス、タブレット端末、スマートフォン、電子書籍リーダー、マルチメディアの現状と将来 第2回 情報モラルとセキュリティ（講義） 第3回 情報通信ネットワーク（課題の設定と情報収集）（講義）電子メール、SNS、Web情報検索、Webにおける情報発信、データベース、教具としてのソフトウェア 第4回 文章作成演習－生活産業に関わるビジネス文章作成（演習） 第5回 文章作成演習－ヒューマンビジネスに関わる生活産業の企画書作成（演習） 第6回 表計算ソフトの操作①－基礎操作（講義と演習） 第7回 表計算ソフトの操作②－データ入力（演習） 第8回 表計算ソフトの操作③－グラフ作成（演習） 第9回 表計算ソフトの操作④－データ分析（演習） 第10回 表計算ソフトの操作⑤－データ分析（演習） 第11回 プレゼンテーションの基礎（講義と演習） 第12回 プレゼンテーション課題の作成（演習） 第13回 プレゼンテーション課題の実演① 第14回 プレゼンテーション課題の実演② 第15回 家庭生活における情報及び情報活用の意義と倫理的な見方や考え方						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：次回の内容について予習し、担当教員の指定した課題とそのキーワードについて調べる。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内で学習した内容について、繰り返し復習する。次の回までに復習をして課題を作成して松蔭manabaコンテンツに投稿する（学習時間：2時間）。						
授業方法	PCを利用した実習。調査等を実施する時にはフィールドワークも行う。また、プレゼンテーションを行ってもらう。						
評価基準と評価方法	講義中の課題提出70%、プレゼンテーションの課題と実演30%						
履修上の注意	学生の経験等によっては、既習事項や習得技術が異なるため、第一回目にスキル調査を実施する。その結果によっては、授業計画を若干変更することがある。						
教科書	教科書は使用しない。レジュメなどを配布する。						
参考書	授業内で適宜紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	生活設計論							
担当教員	前田 直哉					科目ナンバー	U72010	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	多様なライフスタイルの中でライフデザインの重要性を理解するとともに、その実践手法であるライフプランニングを行う力を身に付ける。							
授業の概要	多様なライフスタイルの中で自立した個人の確立の必要性を認識し、ライフデザインを行う力を身に付ける。生活課題を探究し、他者との共生や社会の一員として自らの在り方を把握することを目指す。現代社会の抱える問題として夫婦関係に伴うジェンダーの問題、少子化社会における子育ての問題、企業と消費者の情報格差から生じる問題、若者の貧困とキャリアデザインといった生活問題を解決する力を養う。							
到達目標	(1)「多様なライフスタイルの中でライフデザインの重要性を理解するとともに、ライフデザインを数値化した手法であるライフプランニングを身に付けることができる」【知識・理解】 (2)「資金計画、社会保険制度、年金制度を理解し、その具体的説明ができるようになる」【汎用的技能】 (3)「マネープランニングによって近未来および未来の生活をシミュレーションすることができるようになる」【態度・志向性】							
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 ライフプランニングの手法：ライフプランニングの手法、ライフプランニングを行う際に利用するツール、ライフイベント表、キャッシュフロー表、個人バランスシート 第3回 ライフプランニングの実践：ライフイベント表と個人バランスシートの作成 第4回 教育資金計画：こども保険(学資保険)、教育ローン、奨学金制度 第5回 住宅資金計画：住宅ローンの金利、住宅ローンの返済方法、住宅ローンの種類、住宅ローンの繰上げ返済 第6回 社会保険①：社会保険の種類、公的医療保険の基本、健康保険(健保) 第7回 社会保険②：国民健康保険(国保)、後期高齢医療制度、公的介護保険 第8回 社会保険③：労働者災害補償保険(労災保険)、雇用保険 第9回 第1～8回のまとめと中間試験 第10回 リタイアメントプランニングの基本：リタイアメントプランニングと老後生活資金、年金以外の老後収入 第11回 公的年金の全体像①：公的年金制度の全体像、国民年金の全体像 第12回 公的年金の全体像②：公的年金の給付手続き、公的年金に係る税金 第13回 公的年金の給付①：老齢基礎年金、老齢厚生年金 第14回 公的年金の給付②：障害給付、遺族給付、併給調整 第15回 第10～14回のまとめと定期試験							
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードについて、その関係文献を図書館で見つけて、読み込むこと(学習時間：90分) ・授業後学習：授業内で指定したテーマ・課題についてレポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出すること(学習時間：90分)							
授業方法	各回設定のテーマについて講義し、練習問題を出す。その練習問題にペアワークあるいはグループワークによって答えること。							
評価基準と評価方法	・定期試験(30%)：第10～14回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。 ・中間試験(30%)：第1～8回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・平常点(40%)：リアクションペーパー(講義内容に基づいた練習問題)と松蔭manabaコースコンテンツへの提出物で内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。							
履修上の注意	・出席回数が規定に満たない場合は、原則として評価の対象としない。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・就職活動や公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席する場合は、証明書とともに、欠席届を提出した場合にのみ、考慮の対象とする。 ・講義への理解度を確認するため、講義中に小テストを行い、その結果は平常点をカウントする上での材料とする。							
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。							
参考書	授業中に適宜、紹介する。							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	生活統計学							
担当教員	前田 直哉					科目ナンバー	U21070	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調査で収集したデータをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学の知識を習得することを目的としている。授業は、確率論の考え方の概説から始め、記述統計量の算出、度数分布表やクロス集計表の作成、統計的検定の方法について解説する。							
授業の概要	統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学的知識を修得することを目的としている。授業は確率論の考え方の概説からはじめ、基本等計量の算出、さまざまな検定と推定に関する理論、質的データの解析方法などに関する理論と技法の説明へつなげる。さらに、これらの知識を基にして、実際に行われた調査結果あるいは調査資料を用いて、平均や比率の検定、独立性の検定、クロス表分析、相関係数の算出、回帰分析などを行う。全ての授業を通じて、豊富な実例を取り上げながら分かりやすい解説を心がける。							
到達目標	(1)「実験や調査で得られたデータの基礎的な統計手法を修得することができる」【知識・理解】 (2)「関数電卓もしくはExcelを用いて、平均・分散・標準偏差・標準誤差・相関係数等の基本的な統計量の計算ができるようになる」【汎用的技能】 (3)「度数分布表やヒストグラムなどのグラフ表示ができるようになる」【汎用的技能】 (4)「母平均の95%信頼区間・統計的仮説検定(平均値の差の検定、無相関の検定、度数の検定)とその考え方を理解し、事例研究ができるようになる」【態度・志向性】							
授業計画	第1回 統計データと尺度水準：個々のデータの統計的評価 第2回 度数分布表とヒストグラム：度数分布表とヒストグラムの作成 第3回 代表値：平均値・最大値・最小値・中央値・最頻値 第4回 散布度：分散・標準偏差・平均偏差・4分位範囲 第5回 データの標準化：データから単位の影響を取り除く 第6回 共分散と相関係数：散布図・相関係数・順位相関～中間試験 第7回 統計的推定の一般手順―母集団と確率分布①：母集団と標本の関係 第8回 統計的推定の一般手順―母集団と確率分布②：点推定・区間推定 第9回 統計的検定の一般手順：仮説と対立仮説・両側検定と片側検定・有意水準と棄却域 第10回 平均の差の検定：母平均の検定・母平均の差の検定 第11回 分割表の検定・ χ^2 検定：独立性の検定 第12回 相関係数の検定：相関係数の推定と無相関の検定 第13回 ノンパラメトリック検定：2組のデータの比較・ウィルコクソン検定 第14回 授業のまとめ①：第7～9回の復習 第15回 授業のまとめ②：第10～13回の復習～定期試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードについて、その関係文献を図書館で見つけて、読みこむこと(学習時間：90分) ・授業後学習：授業内で指定したテーマ・課題についてレポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出すること(学習時間：90分)							
授業方法	各回設定のテーマについて講義し、練習問題を出す。その練習問題にペアワークあるいはグループワークによって答えること。							
評価基準と評価方法	・定期試験(30%)：第7～13回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)・(2)・(4)の達成度を確認する。 ・中間試験(30%)：第1～6回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。 ・平常点(40%)：リアクションペーパー(講義内容に基づいた練習問題)と松蔭manabaコースコンテンツへの提出物で内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(4)の達成度を確認する。							
履修上の注意	・出席回数が規定に満たない場合は、原則として評価の対象としない。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・就職活動や公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席する場合は、証明書とともに、欠席届を提出した場合にのみ、考慮の対象とする。 ・講義への理解度を確認するため、講義中に小テストを行う。その結果は平常点をカウントする際の材料とする。							
教科書	特に使用しない。適宜、資料を配布する。							
参考書	授業中に適宜、紹介する。							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	生活統計学							
担当教員	前田 直哉					科目ナンバー	U21070	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調査で収集したデータをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学の知識を習得することを目的としている。授業は、確率論の考え方の概説から始め、記述統計量の算出、度数分布表やクロス集計表の作成、統計的検定の方法について解説する。							
授業の概要	統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学的知識を修得することを目的としている。授業は確率論の考え方の概説からはじめ、基本等計量の算出、さまざまな検定と推定に関する理論、質的データの解析方法などに関する理論と技法の説明へつなげる。さらに、これらの知識を基にして、実際に行われた調査結果あるいは調査資料を用いて、平均や比率の検定、独立性の検定、クロス表分析、相関係数の算出、回帰分析などを行う。全ての授業を通じて、豊富な実例を取り上げながら分かりやすい解説を心がける。							
到達目標	(1)「実験や調査で得られたデータの基礎的な統計手法を修得することができる」【知識・理解】 (2)「関数電卓もしくはExcelを用いて、平均・分散・標準偏差・標準誤差・相関係数等の基本的な統計量の計算ができるようになる」【汎用的技能】 (3)「度数分布表やヒストグラムなどのグラフ表示ができるようになる」【汎用的技能】 (4)「母平均の95%信頼区間・統計的仮説検定(平均値の差の検定、無相関の検定、度数の検定)とその考え方を理解し、事例研究ができるようになる」【態度・志向性】							
授業計画	第1回 統計データと尺度水準：個々のデータの統計的評価 第2回 度数分布表とヒストグラム：度数分布表とヒストグラムの作成 第3回 代表値：平均値・最大値・最小値・中央値・最頻値 第4回 散布度：分散・標準偏差・平均偏差・4分位範囲 第5回 データの標準化：データから単位の影響を取り除く 第6回 共分散と相関係数：散布図・相関係数・順位相関～中間試験 第7回 統計的推定の一般手順―母集団と確率分布①：母集団と標本の関係 第8回 統計的推定の一般手順―母集団と確率分布②：点推定・区間推定 第9回 統計的検定の一般手順：仮説と対立仮説・両側検定と片側検定・有意水準と棄却域 第10回 平均の差の検定：母平均の検定・母平均の差の検定 第11回 分割表の検定・ χ^2 検定：独立性の検定 第12回 相関係数の検定：相関係数の推定と無相関の検定 第13回 ノンパラメトリック検定：2組のデータの比較・ウィルコクソン検定 第14回 授業のまとめ①：第7～9回の復習 第15回 授業のまとめ②：第10～13回の復習～定期試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードについて、その関係文献を図書館で見つけて、読みこむこと(学習時間：90分) ・授業後学習：授業内で指定したテーマ・課題についてレポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出すること(学習時間：90分)							
授業方法	各回設定のテーマについて講義し、練習問題を出す。その練習問題にペアワークあるいはグループワークによって答えること。							
評価基準と評価方法	・定期試験(30%)：第7～13回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)・(2)・(4)の達成度を確認する。 ・中間試験(30%)：第1～6回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。 ・平常点(40%)：リアクションペーパー(講義内容に基づいた練習問題)と松蔭manabaコースコンテンツへの提出物で内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(4)の達成度を確認する。							
履修上の注意	・出席回数が規定に満たない場合は、原則として評価の対象としない。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・就職活動や公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席する場合は、証明書とともに、欠席届を提出した場合にのみ、考慮の対象とする。 ・講義への理解度を確認するため、講義中に小テストを行う。その結果は平常点をカウントする際の材料とする。							
教科書	特に使用しない。適宜、資料を配布する。							
参考書	授業中に適宜、紹介する。							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	生活と法							
担当教員	後藤 弘州					科目ナンバー	U12070	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	学生生活及び社会に出てからの日常生活に関連する出来事を通じて、法律に関する基本的な考え方を学ぶ。							
授業の概要	日常生活において、法律に関する簡単な知識さえ有していれば、快適に生活を送れたり、トラブルを避けることができることは多い。また、法律を知らないために、自分では気づかないうちに不利益を被っていることもある。そのような事態をできるだけなくせるよう、誰もが日常生活において遭遇しうる事例について解説し、関連する法律の知識を身に付けてもらうことを目的とする。							
到達目標	実際の生活において法がどのように役立っているのかを知り、日常生活で起こり得る様々な場面に対し、法に則った適切な行動がとれるようになる。							
授業計画	第1回 イントロダクション 講義の進め方・法律の学び方について 第2回 お金と法① クーリングオフ・マルチ商法等 第3回 お金と法② クレジットカード・破産等 第4回 賃貸と法 第5回 ネット・SNSと法 第6回 アルバイト・就職活動と法① 残業・有給休暇等 第7回 アルバイト・就職活動と法② 採用面接・内定辞退等 第8回 恋愛・結婚と法 第9回 旅行・交通トラブルと法 第10回 未成年と法 第11回 授業・サークル活動と法 第12回 刑事事件と法① 疑わしきは被告人の利益とは？等 第13回 刑事事件と法② 任意同行・取り調べ・再逮捕等 第14回 刑事事件と法③ 犯罪被害者等 第15回 授業内容のまとめと期末試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には、次回扱う予定の事例について教科書を読み、事例の要点をノートに簡単にまとめる（学習時間1時間30分）。 授業後には、授業で取り扱った事例に関してそれぞれの問題点、授業で取り扱った点などをノートに簡単にまとめることで、知識・考え方の定着を図る（学習時間1時間30分）。							
授業方法	講義形式をとるが、毎回授業の最後に簡単な小テストを行い、理解の確認を行う予定である。また理解が分かれる点については、ディスカッション形式も取り入れる。							
評価基準と評価方法	平常点（毎回の小テスト）…30% 毎回の授業で扱った事例に関する基本的な理解を問う。 期末試験…70% 授業で扱った諸事例に関する基本的な理解を問う。							
履修上の注意	教科書を使用するので、毎回下記の教科書を授業に持参すること。							
教科書	『学生のための法律ハンドブック 弁護士は君たちの生活を見守っている』、近江幸治・弘中惇一郎編著、成文堂、ISBN978-4-7923-0631-1（1800円+税）							
参考書	授業中に適宜指定する。							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活の科学基礎Ⅰ						
担当教員	古濱 裕樹					科目ナンバー	U01020
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	学問的専門領域のための化学と生物学						
授業の概要	生活の科学基礎Ⅰは、生活科学を学ぶための入門として生物学、化学の基礎的知識を身につけることを目的とする。複雑、多様化した現代社会におけるモノと人との関わりを中心とした生活の現状を理解し、問題を見出し、解決するための基礎的な知識、技術、態度を養う。人が健康で質の高い生活をするにはどのような自然科学の知識が必要か生活を取り巻く自然環境にも目をむけ、生活の衛生、モノの機能などの科学的な研究ができる力を養う。						
到達目標	レベルⅠ：化学と生物学が生活に役立てられることを理解する。 レベルⅡ：衣食住の事象やヒトの振る舞いを科学的な眼で見ることが出来る。 レベルⅢ：科学的視点によって、モノの効率的な利用方法を提言したり、モノ自体を改良したり、社会生活をより良く送ることができる。						
授業計画	第1回 化学や生物学をなぜ学ぶのか 第2回 物質とはなにかⅠ、心の性Ⅰ 第3回 物質とはなにかⅡ、心の性Ⅱ 第4回 元素とはなにかⅠ、心の発達Ⅰ 第5回 元素とはなにかⅡ、心の発達Ⅱ 第6回 化学結合とはなにかⅠ、心の発達Ⅲ 第7回 化学結合とはなにかⅡ、男女差の発達Ⅰ 第8回 物質量「モル」とはなにかⅠ、男女差の発達Ⅱ 第9回 物質量「モル」とはなにかⅡ、男女差の発達Ⅲ 第10回 有機化合物とはなにかⅠ、さまざまな性Ⅰ 第11回 有機化合物とはなにかⅡ、さまざまな性Ⅱ 第12回 高分子化合物とはなにかⅠ、さまざまな性Ⅲ 第13回 高分子化合物とはなにかⅡ、性の発達 第14回 化学・生物学の最新トピックス 第15回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習：教科書の指定ページを読み、配布する予習シートを書き込んで次回に持参する。（学習時間：90分間） 復習：授業で生じた疑問や興味について各自で調べ、配布する復習シートを書き込んで次回に持参する。（学習時間：90分間） いずれのシートも授業開始時に回収する。（授業時間中に作業されては困るので授業開始時以降は受け取らない。）						
授業方法	講義 化学と生物学の2冊の教科書に沿って授業を進める。毎回、配布する授業シートを記入し、提出する。						
評価基準と評価方法	平常点 95%（内訳：予習シート22%、復習シート22%、授業シート51%） レポート 5%						
履修上の注意	3種類のシートは提出の次週に返却するので、各自でスキャンし、松蔭manabaにポートフォリオとしてファイリングする。 スマホ等インターネットの使用は授業シートの記述に際しては認めないが、予習シートと復習シートにおいては使用してよい。ただし、サイトの表現をそのまま使うのではなく、頭で解釈してオリジナルの文章にすること。また、参考にしたサイト等文献は必ず注釈に書いておく。 毎回のシートの積み重ねによって最終評価に大きな差がつくことが予想されるため、単位修得にむけては毎回の積み重ねが重要である。						
教科書	図解・化学「超」入門 物質の基本がゼロからわかる(サイエンス・アイ新書)、左巻 健男、寺田 光宏、山田 洋一(著)、ソフトバンククリエイティブ、ISBN:9784797363722 科学でわかる男と女になるしくみ(サイエンス・アイ新書)、麻生 一枝(著)、ソフトバンククリエイティブ、ISBN:9784797362107						
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活の科学基礎Ⅱ						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバー	U01030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	社会生活の中で消費者はどのように行動し、どのような役割を果たしているのか。より豊かな社会生活を営んでいくために必要となる消費者行動の基礎知識と現実問題について学ぶ。						
授業の概要	生活の科学基礎Ⅱは、生産、流通、消費について、その実態を明らかにするとともに、いかにしてこれを生活の豊かさの向上に結びつけるかを考える。また、衣・食・住生活の消費を考え、生活者として現代の消費社会における消費者と事業者の情報力および交渉力格差によって生ずる消費者問題の諸相を把握し、問題解決の方向性を探る力を身につける。さらに、法学、経済学、社会学などの社会科学の視点から現実の問題を分析できる力を醸成する。						
到達目標	(1)「消費者行動を社会科学の枠組みの中で捉え、その基礎知識を理解できるようになる」【知識・理解】 (2)「理論上の消費者の最適な行動を学ぶだけではなく、実際、どのような消費者行動を取れば、より豊かな社会生活を営めるかを考えることができるようになる」【汎用的技能】 (3)「消費者問題の実態を学ぶことを通じて、社会科学の枠組みの中でその問題解決策はどのようなものがあるかを考えることができるようになる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 家計に関する基礎概念と家計調査：家計の収入と支出、物価変動、家計の統計 第3回 現代社会と家計の消費行動①：消費者の行動目標、消費選択と効用最大化 第4回 現代社会と家計の消費行動②：所得変化は消費選択にどのような影響を与えるのか 第5回 現代社会と家計の消費行動③：価格変化は消費選択にどのような影響を与えるのか 第6回 家計収支と家計簿分析：家計簿、家計簿の項目、ライフイベントで必要となる資金 第7回 キャッシュフロー表分析①：キャッシュフローの定義と作成の意義 第8回 キャッシュフロー表分析②：収入と可処分所得、具体的な可処分所得の計算 第9回 第1～8回のまとめと中間試験 第10回 女性から見た消費：単身勤労者世帯の男女の実収入、単身勤労者世帯の男女の費目別消費支出、単身勤労者世帯の男女の消費性向、女性全体の消費性向、働く女性の消費性向 第11回 女性から見た金融：家計の金融行動に関する世論調査、金融資産の状況、金融資産構成の前年比較、金融資産の増減・増減理由、金融資産の選択、借入金の状況、借入の理由、家計のバランス評価、生活設計 第12回 妻と夫、親と子の経済関係と法：結婚生活と家計、世帯と家計、妻と夫の家計・資産、妻と夫の経済関係と法、親と子の経済関係と法、子の教育、親の扶養 第13回 消費者問題と法：多重債務、債務整理、消費者基本法、子どもを取り巻く消費環境の変化、子どもが巻き込まれる消費者トラブル、消費者契約法の目的、消費者契約法の内容 第14回 奨学金問題と法：貸金収入と不確実性、奨学金返済の遅滞とペナルティ 第15回 第10～14回のまとめと定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードについて、その関係文献を図書館で見つけて、読み込むこと（学習時間：90分） ・授業後学習：授業内で指定したテーマ・課題についてレポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出すること（学習時間：90分）						
授業方法	各回設定のテーマについて講義し、練習問題を出す。その練習問題にペアワークあるいはグループワークによって答えること。						
評価基準と評価方法	・定期試験（30％）：第10～14回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標（1）および（3）の達成度を確認する。 ・中間試験（30％）：第1～8回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標（1）および（2）の達成度を確認する。 ・平常点（40％）：リアクションペーパー（講義内容に基づいた練習問題）と松蔭manabaコースコンテンツへの提出物で内容の理解度を評価するとともに、到達目標（1）～（3）の達成度を確認する。						
履修上の注意	・出席回数が規定に満たない場合は、原則として評価の対象としない。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・就職活動や公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席する場合は、証明書とともに、欠席届を提出した場合にのみ、考慮の対象とする。 ・講義への理解度を確認するため、講義中に小テストを行い、その結果は平常点をカウントする上での材料とする。						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活福祉論						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバー	U11170
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	生活福祉と社会生活における様々な事象との関わりから、生活福祉の意義や役割について学ぶ。						
授業の概要	価値観が多様化する現代社会において、一人ひとりが尊厳をもって自分らしいライフスタイルを維持し人間らしい質の高い生活を実現していくために、生活上の困難や問題が生じたときには、解決していくための援助や支援が社会のシステムとして必要になる。社会保障の仕組みを学ぶとともに、さまざまなライフスタイルを持った個人と家族にとって、ライフコースのそれぞれの時点での生活者の視点からの支援を考え、今日の格差社会や貧困層拡大といった問題を射程に入れつつ、人々の福祉ニーズをとらえ生活福祉の活動に必要な方法・技術を学ぶ。						
到達目標	・現代の生活福祉における諸問題を理解し、その概要を説明することができる【知識・理解】 ・それらの諸問題に対して、専門用語を用いながら自らの考えや解決策を述べるすることができる【汎用的技能、態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス（講義形態の確認と生活福祉を「学ぶ」意義） 第2回 生活福祉の定義をもとめて 第3回 健康な生活習慣と生活福祉 第4回 生活福祉を支えるコミュニケーション 第5回 コミュニケーションの限界 第6回 公共と生活福祉 第7回 集団心理と生活福祉 第8回 ストレスと生活福祉 ※ゲストスピーカーによる講義 第9回 社会保障と生活福祉 第10回 援助行動と生活福祉 第11回 人間の尊厳を考える 第12回 メディアと生活福祉 第13回 いのちと生活福祉 第14回 自らの生活福祉を展望する 第15回 終講課題と質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：各テーマについて関連する書籍・新聞記事などを基に自分の考えを整理しておく。（30分） 授業後：専門用語については、レポートで理解度を問うので必ず復習を行うこと。各テーマについて発展的な学習を行うことが望ましい。（30分）						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	終講課題（40%）、授業ワークシートの記入状況や、受講態度などの平常点（60%）などから総合的に評価を行う。						
履修上の注意	講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・松蔭manabaを積極的に活用する（資料公開、レポート提出など）。 ・本講義はアクティブラーニング（グループワーク、ペアワーク、ディスカッション等）を積極的に取り入れる。						
教科書	必要に応じて資料を配布する。						
参考書	講義の中で紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活リスクマネジメント論						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバー	U73080
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会におけるリスクに生活者として対応するために、リスクマネジメントの体系的知識とその能力を育成する。						
授業の概要	生活リスクマネジメントについて、現代社会におけるリスクを分類し、その知識の提供とマネジメント能力の育成を行うことを目的とする。自然災害に対する防災・減災(女性の視点からの)、犯罪に対する防犯(特にDVや児童虐待への対処)、消費者被害に対する製品安全(事故や被害実態に対する製品安全への生活者の対処)、食品の安全性(食のグローバル化に伴う問題)について、生活者が能動的にリスク対応するための資源を認識し、問題解決の手法を学ぶ。						
到達目標	(1)「現在社会にはどのようなリスクが存在し、それぞれのリスクにどのように対応するかということを理解できるようにになる」【知識・理解】 (2)「リスクマネジメントの体系的な知識を習得し、その具体的説明ができるようになる」【汎用的技能】 (3)「生活者の立場から近未来および未来にどのようなリスクマネジメントが必要になるかということを認識できるようにになる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 生活とリスク①：リスクの概念、生活者から見たリスク 第3回 生活とリスク②：自然災害、犯罪、消費生活用製品、食品 第4回 保険の基本①：リスクマネジメント、保険制度、保険の原則 第5回 保険の基本②：契約者等の保護、保険法と保険業法 第6回 生命保険の基本と商品①：生命保険の仕組み、保険料の仕組み、配当金の仕組み、必要保険額の計算 第7回 生命保険の基本と商品②：死亡保障タイプの保険、生死混合タイプの保険、生存保障タイプの保険 第8回 生命保険の基本と商品③：変額保険、主な特約、かんぽ生命、共済の保険商品、その他の保険 第9回 第1～8回のまとめと中間試 第10回 生命保険契約：生命保険契約、保険料の払込み、保険契約の見直し等 第11回 損害保険の基本と商品①：損害保険の仕組み、火災保険 第12回 損害保険の基本と商品②：地震保険、自動車保険 第13回 損害保険の基本と商品③：傷害保険、賠償責任保険、その他の損害保険 第14回 第三分野の保険：第三分野の保険、医療保険、がん保険、生前給付型保険 第15回 第10～14回のまとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードについて、その関係文献を図書館で見つけて、読み込むこと(学習時間：90分) ・授業後学習：授業内で指定したテーマ・課題についてレポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出すること(学習時間：90分)						
授業方法	各回設定のテーマについて講義し、練習問題を出す。その練習問題にペアワークあるいはグループワークによって答えること。						
評価基準と評価方法	・定期試験(30%)：第10～14回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。 ・中間試験(30%)：第1～8回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・平常点(40%)：リアクションペーパー(講義内容に基づいた練習問題)と松蔭manabaコースコンテンツへの提出物で内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・出席回数が規定に満たない場合は、原則として評価の対象としない。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・就職活動や公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席する場合は、証明書とともに、欠席届を提出した場合にはのみ、考慮の対象とする。 ・講義への理解度を確保するため、講義中に小テストを行い、その結果は平常点をカウントする上での材料とする。						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	製パン実習						
担当教員	松木 宏美					科目ナンバー	U22450
学期	後期隔週A	曜日・時限	月曜2～5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	製パンについて基礎的な知識と技能を系統的に身につける。						
授業の概要	本実習では、パンを製品のタイプで分類し、各々の中から代表的なものを選んで実習し、各種穀類粉末の特性、原材料各々の果たす役割、製造工程などの基礎的な知識と技能を系統的に身につける。具体的に、手ごねパン、型焼き食事パン（食パン、イギリスパン（山食パン）、レーズンブレッド）、伝統的食事パン（フランスパン、ドイツパン、ソフト系のパン（バターロール、テーブルロール、編みパン）、砂糖の多い生地（菓子パン）などを実習する。						
到達目標	(1) 衛生面に注意しながら、基本的な作業ができる。 (2) 各種穀類粉末の特性、原材料の果たす役割、製造工程などの基礎的な知識と技能を系統的に身につける。 (3) 基本的な作業を確実にマスターし、タイプに応じた対応ができる。 (4) 習得した技術を用いて、独自のパンを提案することができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション、実習前の注意事項 第2回 手ごねパン バターロール 第3回 手ごねパン 編みパン 第4回 「特別招聘講師」 シンプルなパン 食パン 第5回 「特別招聘講師」 リッチなパン 折り込み生地のパン 第6回 手ごねパン ハードロール 第7回 手ごねパン 揚げパン 第8回 「特別招聘講師」 シンプルなパン フランスパン 第9回 「特別招聘講師」 リッチなパン 菓子パン 第10回 イタリアのパン 第11回 フランスのパン 第12回 ドイツのパン 第13回 イギリスのパン 第14回 オリジナル作成 第15回 まとめ ※パンの種類については、その回の代表的なものを挙げている。場合によって変更することがある。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：実習内容について、教科書の該当箇所を読み、概要を把握しておく。（学習時間：60分） 授業後学習：実習の手順、調理の要点、使用した食材について整理し、レポートを作成する。レポートにまとめたことをもとに復習をする。（学習時間：120分）						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	受講態度50%、提出物20%、課題20%、小テスト10% 授業態度：実習の取り組み、グループ作業への参加度、実習結果（料理の仕上がり）より、総合的に評価する。 提出物：【実習後のレポート】実習結果をもとにレポートが作成できているか、作業内容の記録、結果、考察を総合的に評価する。なお、レポートの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。【課題作成】課題について適切な計画を立てて、計画に基づき作成できているか。 小テスト：指定した基本的な調理操作を正確に行っているかを評価する。						
履修上の注意	「製パン理論」の単位取得者が履修できる。 隔週2回連続の実習となるため日程に注意をすること。 実習内容を把握し、調理に適した身支度をした上で実習に臨むこと。 実習室・試食室へは許可された物のみ持ち込みを可能とし、携帯電話の持ち込みを禁止する。 試食後の後片付けと清掃終了までが実習時間となる。 全回出席を原則とし、出席回数が開講日の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とし、遅刻・欠席の場合は必ず連絡をすること。 提出物については、提出期限厳守。実習後の実習レポート提出をもって、実習を受講したこととする。 実習着購入については、ポータルにて連絡をする。 実習費10,000円を徴収する。（昼食に充当する試食分を含む）						
教科書	『基礎からわかる製パン技術』エコール辻 大阪 辻製パンマスターカレッジ、吉野精一著、柴田書店、ISBN 978-4-388-06106-5						

参考書	
-----	--

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	製パン理論							
担当教員	松木 宏美					科目ナンバー	U72490	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ヨーロッパを中心とした世界のパンの製造法を理論的に学ぶ。							
授業の概要	製パンに必要な機械と器具類、基本材料（穀類粉末・イースト・塩・水）と副材料（砂糖や卵や油脂、その他）の知識と役割、計量・混捏・発酵・成形・焼成までの各工程の知識と意義、直捏法と中種法などの代表的製パン法の理論、パンの種類などを体系的に習得する。そのため、実習とリンクさせながら順を追って学習できるようにする。「経験、技術、コツ」といわれてきた製パン法を理論的に学び、製パン技術を効果的に高められる内容とする。							
到達目標	(1) 製パンに必要な機械と器具類、基本材料と副材料の知識と各工程の知識と意義を理解する。 (2) 直捏法と中種法などの代表的製パン法の理論、パンの種類などを体系的に理解する。 (3) 製パン実習に向けて、具体的な製パン法を理論的にを習得する。							
授業計画	第1回 オリエンテーション、パンの歴史と種類 第2回 製パンの基礎理論 材料と役割 第3回 製パンの基礎理論 製パンの工程 第4回 製パンの基礎理論 発酵 第5回 製パンの基礎理論 焼成 第6回 製パンの基本技術 第7回 ハード系のパン 第8回 ソフト系のパン 第9回 型で焼いたパン 第10回 折り込み生地のパン 第11回 揚げパン 第12回 特殊なパン 第13回 サワー種のパン 第14回 自家製酵母種のパン 第15回 授業内容のまとめ・総復習と期末試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：90分）							
授業方法	主として講義形態で授業を行う。グループワークをすることもある。講義では教科書をもとにパワーポイントや映像を用いる。実習で製造するパンの作り方について、具体的に説明をする。授業の終わりには各回の課題についてまとめる時間をとり、ミニレポートを作成して提出とする。							
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 期末試験50％：授業内容全般についての理解度、興味関心の有無について評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 課題20％：課題に対して積極的に調べ、レポートを作成していることを評価する。(2)に関する到達度の確認。 受講態度30％：各回提出のミニレポートにより、理解度、興味・関心の明確性・具体性について評価する。(1)および(3)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 ミニレポートのコメント・質問等について、翌週の授業で紹介・解説する。ミニレポートは添削して返却する。							
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失うものとする。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 提出物は提出期限厳守のこと。 質問には、授業時および毎回のミニレポートで応じる。							
教科書	『基礎からわかる製パン技術』エコール辻 大阪 辻製パンマスターカレッジ、吉野精一著、柴田書店、ISBN:9784388061075 ※この教科書を「製パン実習」でも使用する。							
参考書								

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	組織論							
担当教員	楠木 新					科目ナンバー	U72550	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	世の中には非常に多種多様な組織が存在する。私企業の組織に対して「公的組織（public organization）」という研究領域もある。ただ、組織のモデルとして主張される組織のタイプはいくつかに集約されている。「組織における人間観」では代表的な組織理論として「伝統的組織論」「人間関係論」「近代組織論」の3つを中心に引き上げ、組織論といわれる分野においてはどのような理論が構築されているのか理解する。							
授業の概要	経営学の組織論の学説史を踏まえながら、現代の経営組織の基礎概念・理論を実務面と結びつけながら理解する。							
到達目標	・ 経営組織論の基礎概念・理論を実際の企業組織と関係付けながら知識として身に付ける。 ・ 身近な組織における諸現象について、学習した知識を応用して理解・解釈することができるようになること。							
授業計画	第1回 経営学における経営組織論の位置づけ 第2回 伝統的管理論（経済人モデル） 第3回 科学的管理法 第4回 人間関係論（社会人モデル） 第5回 近代組織論（自己実現モデル） 第6回 世の中にはどのような組織があるのか（株式会社、NPO、公法人、財団など） 第7回 会社の経営とは（企業経営入門） 第8回 会社はどのように世の中の役に立っているのか 第9回 人の働く組織はどのようにつくるのか（組織設計） 第10回 会社はどのような方針で動いているのか（経営理念と戦略） 第11回 会社はだれが動かしているのか（コーポレート・ガバナンス） 第12回 会社はどんな仕組みで動いているのか（組織形態） 第13回 社員は仕事をどのように分担しているのか（組織構造と職務設計） 第14回 会社は他の会社とどのように協力しているのか（組織間関係） 第15回 経営組織論の総括							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	企業の組織に関わる新聞などの情報について、感覚を磨くこと。 受講者各自のトピックスの発表も予定している（各自の学習時間：3時間程度）。 終盤の授業では、小テストを実施するので（おさらいの学習時間：4時間程度）							
授業方法	講義を基本とするが受講生との対話形式も取り入れる。グループワークをすることもある。 授業で見解を求めることがあるが、積極的な発言を期待したい。							
評価基準と評価方法	出席と毎回の授業での記入するシート、および試験により総合的に評価する。							
履修上の注意	講義全体の2/3の出席が確保できない場合は受講資格を失う・ 20分以上の遅刻は欠席と判定。 受講マナー（私語など）も評価に加味する							
教科書	授業ごとに資料を配布する。							
参考書	「経験から学ぶ 経営学入門」（有斐閣ブックス）							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	調査集計演習						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバー	U22080
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	平均値・分散・標準偏差等の基礎的な統計知識を使いながらデータの作成をし、詳細な分析手法を扱い、統計に慣れながら理解することを目指す。						
授業の概要	定量データや定性データなどの基礎的な資料が読め、平均、分散、標準偏差などの記述統計の知識を使ってデータの作成・分析ができる事を目標とする。エクセルやSPSSなどの統計ソフトを利用して、単純集計、クロス集計、グラフ作成などを実際のデータを使いながら学ぶ。さらに変数と変数の相関係数とその検定や、因果関係と相関関係の区別、疑似相関が理解できるようにする。						
到達目標	①データを作成する手法が身につく。【知識・理解】 ②データの裏側を読み解くことができる。【汎用的技能】 ③データの違いに気が付き、正しい分析手法を使えるようになる。【態度・志向性】						
授業計画	1. 関連データの探し方 2. 官公庁統計の収集・整理 3. フィールドワーク論文の読み方 4. エクセルの基礎 エクセルデータの入力 5. エクセルの基礎 平均・分散・標準誤差 6. 相関係数 因果関係と相関関係 7. 相関係数とその検定 8. クロス集計の基礎 9. クロス集計表の検定-χ^2検定- 10. エクセルによるグラフの作成 11. エクセルとワード ワードによるレポートの作成 12. SPSSによる統計分析 (1) -t検定- 13. SPSSによる統計分析 (2) -一元配置の分散分析- 14. 報告書の作成 15. 報告書の作成						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・社会調査に関するトピックスに関心を持ち、関連文献を活用し代表的な分析手法について下調べをして理解を深めておくこと（学習時間：90分）。 ・授業内で指示した課題について反復練習を行い、分析手法について理解を深めること（学習時間：90分）。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	・授業毎のチャレンジ問題（10%）：授業で示した分析手法の理解度を評価するとともに、到達目標①および③に関する到達度を確認。 ・レポート、小テスト（30%）：データを読み取る力を評価するとともに、到達目標②に関する到達度を確認。 ・期末テスト（60%）：データの性質を読み取り、正しい手法を選択し分析する力を評価するとともに、到達目標①、②および③の理解度を確認。						
履修上の注意	復習は必ずすること 20分以上の遅刻は欠席扱いとする						
教科書	なし（授業中に資料を配布する）						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	調査集計演習						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバー	U22080
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	平均値・分散・標準偏差等の基礎的な統計知識を使いながらデータの作成をし、詳細な分析手法を扱い、統計に慣れながら理解することを目指す。						
授業の概要	定量データや定性データなどの基礎的な資料が読め、平均、分散、標準偏差などの記述統計の知識を使ってデータの作成・分析ができる事を目標とする。エクセルやSPSSなどの統計ソフトを利用して、単純集計、クロス集計、グラフ作成などを実際のデータを使いながら学ぶ。さらに変数と変数の相関係数とその検定や、因果関係と相関関係の区別、疑似相関が理解できるようにする。						
到達目標	①データを作成する手法が身につく。【知識・理解】 ②データの裏側を読み解くことができる。【汎用的技能】 ③データの違いに気が付き、正しい分析手法を使えるようになる。【態度・志向性】						
授業計画	1. 関連データの探し方 2. 官公庁統計の収集・整理 3. フィールドワーク論文の読み方 4. エクセルの基礎 エクセルデータの入力 5. エクセルの基礎 平均・分散・標準誤差 6. 相関係数 因果関係と相関関係 7. 相関係数とその検定 8. クロス集計の基礎 9. クロス集計表の検定-χ^2検定- 10. エクセルによるグラフの作成 11. エクセルとワード ワードによるレポートの作成 12. SPSSによる統計分析 (1) -t検定- 13. SPSSによる統計分析 (2) -一元配置の分散分析- 14. 報告書の作成 15. 報告書の作成						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・社会調査に関するトピックスに関心を持ち、関連文献を活用し代表的な分析手法について下調べをして理解を深めておくこと（学習時間：90分）。 ・授業内で指示した課題について反復練習を行い、分析手法について理解を深めること（学習時間：90分）。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	・授業毎のチャレンジ問題（10%）：授業で示した分析手法の理解度を評価するとともに、到達目標①および③に関する到達度を確認。 ・レポート、小テスト（30%）：データを読み取る力を評価するとともに、到達目標②に関する到達度を確認。 ・期末テスト（60%）：データの性質を読み取り、正しい手法を選択し分析する力を評価するとともに、到達目標①、②および③の理解度を確認。						
履修上の注意	復習は必ずすること 20分以上の遅刻は欠席扱いとする						
教科書	なし（授業中に資料を配布する）						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	調理学						
担当教員	松木 宏美					科目ナンバー	U12130
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	調理をするために必要な知識を学ぶ。						
授業の概要	エネルギー量、たんぱく質量などで表される必要栄養量を、食事という実際に食べられる形に変える仕事を調理という。調理は最も好ましい状態で食べ物が食されるようにすることで、必要な栄養を充足させるだけでなく、おいしく心理的にも満足させるものでなくてはならない。調理学ではこのような調理をするために必要な知識、すなわち食事設計の基本知識、食素材の調理性、調理操作による組織または物性と栄養成分の変化などを学ぶ。						
到達目標	(1) 食事設計の基本知識、食素材の調理性、調理操作による組織または物性と栄養成分の変化などを理解する。 (2) 状況に合わせた食事設計ができるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション、調理の意義、食べ物の嗜好性 第2回 おいしさの演出 第3回 食事設計 第4回 調理操作―非加熱操作と器具 第5回 調理操作―加熱操作と器具、熱源の種類と加熱機器・器具 第6回 包丁の知識勉強会・研ぎ講習会「ゲスト・スピーカー招へい予定」 第7回 炭水化物を多く含む食品の調理性 第8回 たんぱく質を多く含む食品の調理性 第9回 ビタミン・無機質を多く含む食品の調理性 第10回 成分抽出素材の利用と調理性 第11回 調理と摂食機能 第12回 安全性への配慮 第13回 調理から加工への展開 第14回 消費と流通への展開 第15回 授業内容のまとめ・総復習と期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：90分）						
授業方法	主として講義形態で授業を行う。グループワークをすることもある。講義では教科書をもとにパワーポイントや映像を用いる。授業の終わりには各回の課題についてまとめる時間を取り、ミニレポートを作成して提出する。また、2日間の食事を記録する課題によって、自らの食生活を客観的にふり返り、食事設計を行う。						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 期末試験50%：授業内容全般についての理解度、興味関心の有無について評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 課題20%：2日間の食事記録の取り組み方、客観的な振り返りの積極性を評価する。(2)に関する到達度の確認。 受講態度30%：各回提出のミニレポートにより、理解度、興味・関心の明確性・具体性について評価する。(1)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 ミニレポートのコメント・質問等について、翌週の授業で紹介・解説する。ミニレポートは添削して返却する。						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失うものとする。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 提出物は提出期限厳守のこと。 質問には、授業時および毎回のミニレポートで応じる。						
教科書	『調理学』、(公社)日本フードスペシャリスト協会編、建帛社、ISBN 978-4-7679-0524-2						
参考書	『たのしい調理―基礎と実習―』第5版、山内知子他著、医師薬出版株式会社、ISBN 978-4-263-70653-4 『NEW 調理と理論』、山崎清子・島田キミエ・渋川祥子・下村道子・市川朝子・杉山久仁子著、同文書院、ISBN 978-4-8103-1395-6						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	調理実習							
担当教員	馬場 公恵					科目ナンバー	U12140	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	調理実習を通して基本的な調理操作を習得し、自らの食生活と結びつけ、食生活の自立に必要な知識と技術を習得させる。							
授業の概要	日常の日本料理を中心とした調理実習を通して、基礎的調理技術、食品の性質とその取り扱い方、食事作法など、食事に関する基礎的総合的能力を養う。具体的には、非加熱および加熱調理操作、調味操作などの基礎的調理操作を行う過程で起こる諸現象を観察することにより、調理の理論と技術との関連性を把握し、合理的な調理技能を習得する。食事計画から食卓構成を実習するプロセスで、食品の栄養的価値、安全で衛生的な取り扱い方、食卓の演出などを総合的に学ぶ。							
到達目標	・ 基本的な調理を行うことによって、調理の特異性、調理の楽しさ・面白さ・大切さ、そして調理の可能性について理解が出来る、調理に対する興味を広げることが出来る。 ・ 調理技術を習得することによって、食生活に対する自信を培い、自らの食を省み、食の自律を促すことが出来る。							
授業計画	第 1回 オリエンテーション、調理実習の心得、基本的操作、お茶の入れ方 第 2回 炊飯、だしのとり方、青菜の茹で方、出汁巻き卵 第 3回 炊き込みご飯、茶碗蒸し、和え物、白玉粉① 第 4回 魚のおろし方・塩焼き、乾物のもどし方・炊き合わせ、和え物、ご飯、味噌汁、寒天① 第 5回 コンソメスープ、ムニエル、サラダ・フレンチドレッシング、カスタードプディング 第 6回 小麦粉①ホワイトルウ・若鶏のクリーム煮、麺の茹で方①パスタ、ソテー、ゼリー①アガー 第 7回 小麦粉②ブラウンルウ・肉料理、付け合せ、サラダ・マヨネーズ、クッキー、コーヒー 第 8回 小麦粉③ピザ、魚介類のフライ、ミネストローネ、フルーツサラダ、ゼリー②ゼラチン 第 9回 小麦粉④わんたん、酢豚、豆腐入りコーンスープ、中国風カステラ、花茶 第10回 中華ちまき、うずら卵のスープ、春巻き、寒天②杏仁豆腐、烏龍茶 第11回 青椒牛肉糸、トマトと卵のスープ、酢の物、白飯、白玉粉②ゴマ団子、プーアル茶 第12回 おぼんざいく煮魚、おから、野菜の煮浸し、和え物>、ご飯、汁物 第13回 行事食①<お寿司>、飾り切り、麺の茹で方②吸い物、茶巾しぼり、お茶二種 第14回 小麦粉⑤ケーキ・サレ、ポタージュスープ、シュークリーム、紅茶 第15回 行事食②<おこわ、おはぎ・ぼたもち>、お茶二種、まとめ							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：実習内容について、教科書の該当箇所を読み、概要を把握しておく。（学習時間：60分） 授業後学習：実習の手順、調理の要点、使用した食材について整理し、レポートを作成する。レポートにまとめたことをもとに調理をする。（学習時間：120分）							
授業方法	実習							
評価基準と評価方法	受講態度50%、提出物40%、小テスト10% 授業態度：実習の取り組み、グループ作業への参加度、実習結果（料理の仕上がり）より、総合的に評価する。 提出物：【実習後のレポート】実習結果をもとにレポートが作成できているか、作業内容の記録、結果、考察を総合的に評価する。なお、レポートの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。 【課題レポート】課題について適切なレポートが作成できているか。 小テスト：指定した基本的な調理操作を正確にしているかを評価する。							
履修上の注意	「調理学」の単位取得者が履修できる。 実習内容を把握し、調理に適した身支度をした上で実習に臨むこと。 実習室・試食室へは許可された物のみ持ち込みを可能とし、携帯電話の持ち込みを禁止する。 試食後の後片付けと清掃終了までが実習時間となる。 全回出席を原則とし、出席回数が開講日の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とし、遅刻・欠席の場合は必ず連絡をすること。 提出物については、提出期限厳守。実習レポートの提出によって、実習を受講したこととする。 実習着購入については、ポータルにて連絡をする。 実習費10,000円を徴収する。							
教科書	『たのしい調理—基礎と実習—』第5版、山内知子他著、医師薬出版株式会社、ISBN 978-4-263-70653-4							

参考書	映像で学ぶ『調理の基礎とサイエンス』松崎政三・藤井恵子・寺本あい編著、学際企画、ISBN978-4-906514-86-1 『NEW 調理と理論』山崎清子・島田キミエ・渋谷祥子・下村道子・市川朝子・杉山久仁子著、同文書院、ISBN978-4-8103-1395-6
-----	---

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	調理実習							
担当教員	松木 宏美					科目ナンバー	U12140	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	水曜3～4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	調理実習を通して基本的な調理操作を習得し、自らの食生活と結びつけ、食生活の自立に必要な知識と技術を習得させる。							
授業の概要	日常の日本料理を中心とした調理実習を通して、基礎的調理技術、食品の性質とその取り扱い方、食事作法など、食事に関する基礎的総合的能力を養う。具体的には、非加熱および加熱調理操作、調味操作などの基礎的調理操作を行う過程で起こる諸現象を観察することにより、調理の理論と技術との関連性を把握し、合理的な調理技能を習得する。食事計画から食卓構成を実習するプロセスで、食品の栄養的価値、安全で衛生的な取り扱い方、食卓の演出などを総合的に学ぶ。							
到達目標	(1)衛生面に注意しながら、協力して指示に従った基本的な調理をすることができる。 (2)基本的な調理を行うことによって調理に対する興味を広げ、調理の特異性、調理の楽しさ・面白さ、さらに調理の重要性や可能性を理解することができる。 (3)基本的な調理技術を習得することによって調理に対する自信を培い、自らの食を省み、食生活の自律および自立に向かうことができる。							
授業計画	第1回 オリエンテーション、調理実習の心得、基本的操作、お茶の入れ方 第2回 炊飯、だしのとり方、青菜の茹で方、出汁巻き卵 第3回 炊き込みご飯、茶碗蒸し、和え物、白玉粉① 第4回 魚のおろし方・塩焼き、乾物のもとし方・炊き合わせ、和え物、ご飯、味噌汁、寒天① 第5回 コンソメスープ、ムニエル、サラダ・フレンチドレッシング、カスタードプディング 第6回 小麦粉①ホワイトルウ・若鶏のクリーム煮、麺の茹で方①パスタ、ソテー、ゼリー①アガー 第7回 小麦粉②ブラウンルウ・肉料理、付け合せ、サラダ・マヨネーズ、クッキー、コーヒー 第8回 小麦粉③ピザ、魚介類のフライ、ミネストローネ、フルーツサラダ、ゼリー②ゼラチン 第9回 小麦粉④わんたん、酢豚、豆腐入りコンソメスープ、中国風カステラ、花茶 第10回 中華ちまき、うずら卵のスープ、春巻き、寒天②杏仁豆腐、烏龍茶 第11回 青椒牛肉糸、トマトと卵のスープ、酢の物、白飯、白玉粉②ゴマ団子、プーアル茶 第12回 おぼんざいく煮魚、おから、野菜の煮浸し、和え物、ご飯、汁物 第13回 行事食①くお寿司、飾り切り、麺の茹で方②吸い物、茶巾しぼり、お茶二種 第14回 小麦粉⑤ケーキ・サレ、ポタージュスープ、シュークリーム、紅茶 第15回 行事食②くおこわ、おはぎ・ぼたもち、お茶二種、まとめ							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：実習内容について、教科書の該当箇所を読み、概要を把握しておく。（学習時間：60分） 授業後学習：実習の手順、調理の要点、使用した食材について整理し、レポートを作成する。レポートにまとめたことをもとに調理をする。（学習時間：120分）							
授業方法	実習							
評価基準と評価方法	受講態度50%、提出物40%、小テスト10% 授業態度：実習の取り組み、グループ作業への参加度、実習結果（料理の仕上がり）より、総合的に評価する。 提出物：【実習後のレポート】実習結果をもとにレポートが作成できているか、作業内容の記録、結果、考察を総合的に評価する。なお、レポートの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。【課題レポート】課題について適切なレポートが作成できているか。 小テスト：指定した基本的な調理操作を正確にしているかを評価する。							
履修上の注意	「調理学」の単位取得者が履修できる。 実習内容を把握し、調理に適した身支度をした上で実習に臨むこと。 実習室・試食室へは許可された物のみ持ち込みを可能とし、携帯電話の持込みを禁止する。 試食後の後片付けと清掃終了までが実習時間となる。 全回出席を原則とし、出席回数が開講日の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とし、遅刻・欠席の場合は必ず連絡をすること。 提出物については、提出期限厳守。実習後の実習レポート提出をもって、実習を受講したこととする。 実習着購入については、ポータルにて連絡をする。 実習費10,000円を徴収する。							
教科書	『たのしい調理—基礎と実習—』第5版、山内知子他著、医師薬出版株式会社、ISBN 978-4-263-70653-4							
参考書	映像で学ぶ『調理の基礎とサイエンス』、松崎政三・藤井恵子・寺本あい編著、学際企画、ISBN 978-4-906514-86-1 『NEW 調理と理論』、山崎清子・島田キミエ・渋川祥子・下村道子・市川朝子・杉山久仁子著、同文書院、ISBN 978-4-8103-1395-6							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	地域ブランド論						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバー	U72520
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	地域の豊かな生活文化を表す価値、すなわち多様な地域ブランドの理解を深め、地域の課題を考える。						
授業の概要	地域ブランドとは、経済のグローバル化が進展し、世界が一つの市場に統合されていく中で、地域が自らの個性や強みなどローカル特性に徹底的にこだわり、地域にしかできないこと、つまり地域固有の価値を明確にして、世界に対して発信していく取り組みを考える。 具体的には、農林水産業・食品産業・伝統工芸産業・観光サービス業・商業などの分野で幅広い展開が行われていることを講義で理解する。 以上のようなケーススタディを通して、本講義ではブランドの理論、手法、実践例、活用方法を学ぶ。						
到達目標	①地域ブランドの概念について政府機関の考え方を踏まえながら企業ブランドとの関係性について知識と理解を深めることができる。 ②地域ブランドの構築に際して形成すべき要素・構成について理解し、アイデアを深めていく。 ③ブランドの対象となるものに付与すべき価値や機能について考え、地域の課題を考えることができる。						
授業計画	第1回 地域ブランドの概念と構成 第2回 地域ブランドの意味と役割 第3回 ブランドのマネジメント 第4回 地域ブランドの分析視覚：地域空間のブランディング 第5回 地域ブランドの分析視覚：地域産品のブランド論 第6回 地域ブランドの付与条件 第7回 地域ブランドの製品選択 第8回 地域ブランドの市場選択 第9回 地域ブランドのダイナミズム：大阪産（もん） 第10回 地域ブランド資源としての地域産品 第11回 地域ブランドのマネジメントの特徴 第12回 地域ブランドと観光地の集客イベント事業（ゲスト・スピーカーを予定） 第13回 地域ブランドの競争 第14回 地域ブランドの共創 第15回 地域固有性とブランディング						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	①地域の情報誌や駅構内にあるフリーペーパーなどは必読しておくこと。 ②地元（自分が住んでいる市町村）の観光実態を把握しておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点20%：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問・アイデア）などにより評価する。到達目標に関する到達度の確認。 レポート+小テスト20%：到達目標に合わせてレポートと小テストを実施する。 期末試験60%：授業で扱った地域ブランドの考え方に対する理解度、手法、課題など、到達目標に関する到達度の確認。						
履修上の注意	①授業中配布するプリントは、各回の出席者のみ配布する（欠席の時は、翌週授業時に限り再配布）。 ②講義全体の2/3の出席が確認できない場合は、受講資格を失う。 ※20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ③アクティブラーニング（グループワーク、ディスカッションなど）を積極的に取り入れる。 ④学外実習（見学）を伴うこともあるため、入館料や交通費等は自己負担となる。						
教科書	なし ※授業中、プリントを配布する。						
参考書	『地域マーケティングの核心』佐々木茂・石川和男・石原慎士編著、同友館 ISBN978-4-496-05089-3 『よくわかる現代マーケティング』陶山計介・鈴木雄也・後藤こず恵編著、ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-07975-9 『1からの観光』高橋一夫・大津正和・吉田順一編著、中央経済社 ISBN978-4-502-67410-5						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	地域連携論							
担当教員	江 弘毅					科目ナンバー	U12160	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	現在進行形で進む地域連携の具体例を知り、市民的成熟に基づいたコミュニティづくりを考える。							
授業の概要	本講義は、現代社会における地域が抱える諸問題について、いかにして関係諸機関が連携を図り、その問題解決を行うかについて学ぶ。 前半は、社会制度や行政の取り組みを考え、後半はコミュニティ・ビジネスや、ソーシャル・ビジネスの具体的事例を紹介し、NPOや市民団体等による先駆的な実践を大阪～阪神間～神戸の地元から紹介する。 また、本学科が地域と連携して行っている活動についても紹介し、大学の地域貢献についても触れる。 官民による多様な実践例から、身近な生活をよりよくする地域連携のあり方について考察する。							
到達目標	(1) コミュニティにおいての市民的成熟を身につけることができる。 (2) 地域のコミュニティづくりに参画することができる。 (3) 地域のコミュニティづくりの具体案を出すことができる。							
授業計画	前半は「地域連携」の社会的意義、考え方を概論、後半は講師がこれまで関わってきたり取材してきたさまざまなNPOやTMOなどの組織、地域団体、組織、ネットワークの実例をリアルに紹介し、それを理解し考察する。 第1回 この授業で学ぶこと。オリエンテーションに代えて 第2回 地域＝地方性と都市、まち。 第3回 地域と生きる。地域ではたらく。 第4回 交換（市場経済）と贈与（地域連携） 第5回 血縁・地縁と公共。 第6回 ハイパーインダストリアル時代と地域性。地図と暦。 第7回 ソーシャル・キャピタルの観点。 第8回 岸和田だんじり祭礼と地域連携。 第9回 地元灘区の「ナダタマ」の情報発信、地域イベントの実例から。 第10回 NPO「食と農の研究所」（灘区）の取り組み。都市と農家、農業。 第11回 南部再生（尼崎市）の取り組み。「メイドイン尼崎コンベ」「メイドイン尼崎ショッパ」 第12回 都心の情報発信による地域連携。「月刊島民中之島」と「ナカノシマ大学」（大阪市北区中之島）。 第13回 「NPO「食と農の研究所」（灘区）の取り組み。都市と農家、農業。 第14回 市民と落語家が作った「天満天神繁昌亭」（大阪市北区）。 第15回 神戸松蔭女子学院大の地域連携。							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	参考書を読むこと（1時間）。 授業計画にあがった実例の地元をその都度歩くこと、地域イベントなどに参加すること（2時間）。							
授業方法	毎回、レジュメや資料を配付します。実際のフィールドワークにつながるように、大阪～阪神間～神戸の実例を中心に講義する。毎回の講義の後、コメントペーパーを書いて提出してください。 学期中に、自分が知り得た地域連携の実例、タイムリーな地域イベントに参加して、それをレポートすること。							
評価基準と評価方法	期末レポート「わたしが知る地域連携」（50％）。各回提出のコメントペーパー（30％）、授業でのコール&レスポンス（20％）							
履修上の注意	3分の2以上の出席に満たない学生には単位を認めません。							
教科書	その都度、プリントを配布します。							
参考書	『ソーシャル・キャピタル入門～孤立から絆へ』稲葉陽二著、中公新書、ISBN-10: 412102138X 『奇跡の寄席 天満天神繁昌亭』堤成光著、140B、ISBN-10: 4903993043 『月刊島民』（フリーマガジン） 『メイドイン尼崎本』ティーエムオーニ崎 『南部再生～尼崎南部地域の情報誌』（フリーマガジン） HP『ナダタマ』 http://www.naddist.jp							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	データ処理法Ⅰ							
担当教員	前田 直哉					科目ナンバー	U23090	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	質問紙調査で得られたデータの分析によく利用される多変量解析法について、基礎的な考え方とともに、各種分析法とその分析手順について学習する。特に、分散分析、重回帰分析、因子分析について詳しくとりあげる。							
授業の概要	社会学・経営学的データ分析で用いる基礎的な多変量解析について、その基本的な考え方と主要な計量モデルを解説する。使用するデータは「社会調査基礎演習Ⅰ」で得られた質問紙調査であり、統計ソフト（SPSS）を用いて、このデータで実際に多変量解析を行う。解析の方法は、重回帰分析を中心として、その後データの構造や仮説によって、分散分析や共分散分析、t検定あるいはパス解析や因子分析、数量化理論の適用など、少なくとも2・3種類の統計手法を体験させる。							
到達目標	(1)「質問紙から得られたデータを、適切な手法で分析することができるようになる」【知識・理解】 (2)「今までのデータ知識とは違う読み取り方ができるようになる」【汎用的技能】 (3)「得られたデータから現状を理解し、問題点を捉えることができるようになる」【態度・志向性】							
授業計画	第1回 ガイダンス～多変量解析とは 第2回 多変量を要約する：多変量データの種類 第3回 データセットの作成方法：SPSSの基本操作 第4回 記述統計の作成方法：SPSSによる記述統計 第5回 分散分析とは：3つ以上のグループで平均値を比較するための手法 第6回 分散分析の適用方法：一元配置の分散分析、二元配置の分散分析 第7回 分散分析を体験する：SPSSによる分散分析～中間試験 第8回 重回帰分析とは：説明変数が2つ以上の回帰分析 第9回 重回帰分析の適用方法：最小二乗法、偏回帰係数の解釈、決定係数、決定係数の有意性検定、変数選択 第10回 重回帰分析の問題点：多重共線性とその対応方法 第11回 重回帰分析を体験する：SPSSによる重回帰分析 第12回 因子分析とは：複数の観測変数の中から共通因子を抽出するための手法 第13回 因子分析の適用方法：探索的因子分析、確認的因子分析 第14回 因子分析を体験する：SPSSによる因子分析 第15回 授業のまとめと定期試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードについて、その関係文献を図書館で見つけて、読み込むこと（学習時間：90分） ・授業後学習：授業内で指定したテーマ・課題についてレポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出すること（学習時間：90分）							
授業方法	各回設定のテーマについて講義し、練習問題を出す。その練習問題にペアワークあるいはグループワークによって答えること。							
評価基準と評価方法	・定期試験（30％）：第8～14回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標（1）および（3）の達成度を確認する。 ・中間試験（30％）：第1～7回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標（1）および（2）の達成度を確認する。 ・平常点（40％）：リアクションペーパー（講義内容に基づいた練習問題）と松蔭manabaコースコンテンツへの提出物で内容の理解度を評価するとともに、到達目標（1）～（3）の達成度を確認する。							
履修上の注意	・出席回数が規定に満たない場合は、原則として評価の対象としない。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・就職活動や公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席する場合は、証明書とともに、欠席届を提出した場合にのみ、考慮の対象とする。 ・講義への理解度を確認するため、講義中に小テストを行い、その結果は平常点をカウントする上での材料とする。							
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。							
参考書	授業中に適宜、紹介する。							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	データ処理法Ⅱ							
担当教員	江 弘毅					科目ナンバー	U23100	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	インタビューすること、インタビュー記事を書くことを実践的に学ぶ。							
授業の概要	質的研究を行うための基礎的な事柄について学習する。とくにインタビュー調査について、データの収集・整理・分析のための練習を行い、最終的には各自でデーターを収集し、整理・分析したレポートを作成する。質的調査の一連のプロセス（研究テーマ作成）を経験することを通じて、基礎的な力を身につけ、実際に質的調査（インタビュー調査）を企画・実施することができるようになることが目的である。							
到達目標	（１）取材としてのインタビューを実際に行うことができる。 （２）インタビュイー（インタビューを受ける人）との十全なリレーションシップを取ることができる。 （３）インタビューした内容を情報化、記述することができる。							
授業計画	第１回 オリエンテーション（授業の目的、内容、進め方、評価の方法など） 第２回 情報化社会とメディア 第３回 情報と情報化 第４回 質的調査と量的調査。質的社会調査の方法 第５回 インタビュアー（聞き手）とインタビュイー（話し手） 第６回 インタビューの方法。フィールドワークと生活史調査 第７回 新聞・雑誌媒体のインタビュー記事 第８回 インタビューを情報化する 第９回 取材とインタビュー 第１０回 コミュニケーションとインタビュー 第１１回 インタビュー取材の準備の実際 第１２回 インタビュー取材の実施 第１３回 インタビュー記事を書く 第１４回 インタビュー記事の講評と手直し 第１５回 インタビュー記事を完成させる							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	新聞や雑誌、ネットなどのさまざまなメディアのインタビュー記事を読むこと。予習として身近にある、その日の新聞、その週の週刊誌のインタビュー記事欄を読む（90分）。復習として講義で取り上げた実際のインタビュー記事を熟読する（60分）。							
授業方法	編集者／著述家として、実際にインタビュー記事書いている実例をもとに講義する。 毎回レジュメを配布し、それをもとに講義する。 インタビューを実際に行って、記事を作成する。							
評価基準と評価方法	試験は実施しない。課題提出（取材、インタビュー記事作成 約2000字）70%、質問応答（コール＆レスポンス）、授業中の発表 発言30%。							
履修上の注意	出席が3分の2に満たない者には単位認定をしません。							
教科書	『インタビュー』木村俊介著、ミシマ社 ISBN-10: 4903908968 『質的社会調査の方法』岸政彦ほか著							
参考書	『インタビュー術！』永江朗著、講談社現代新書、ISBN-13: 978-4061496279 『人物ノンフィクション 表現者の航跡』後藤正治著、岩波現代文庫、ISBN-13: 978-4006031879							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	特別調理実習							
担当教員	松木 宏美					科目ナンバー	U23470	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	金曜3～4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	この特別調理実習は、伝統食や季節感のある食文化および多様な世代のニーズに対応する献立作成と調理技術を習得し、将来の豊かな食生活や食文化の伝承につなぐことをテーマとする。							
授業の概要	この特別調理実習は、家庭科教職課程の必修教科でもあるため、構成については高校の指導要領を考慮した。日常食を中心に学ぶ「調理実習」に引き続き、特別調理実習では、行事食・供応食、幼児と高齢者の食事、体調を整える食事についての調理実習を行い、調理の理論と技術を深める。具体的には、各食事の献立作成において、栄養面、嗜好性、経済性、能率性、季節性を考慮し、対象者と食事の目的にあわせて調理をすることによって、その重要性を理解し、それぞれの調理操作やもてなし方について学ぶ。							
到達目標	【到達目標】到達目標は、まず、季節ごとの行事食やの供応食といった伝統食の特長を理解する。次に、食事の目的や提供する対象者の多様なニーズに対応した献立作成や調理の工夫について理解する。さらに、その調理の工夫や技術を習得する。将来的には、自立した豊かな食生活を営むことが出来るようになることを目指す。							
授業計画	第1回 オリエンテーション、お茶と和菓子、水菓子のおもてなし 第2回 おもてなしの松花堂弁当（春の香り） 第3回 祝膳：赤飯と尾頭付き 第4回 祝膳：端午の節句の祝膳 第5回 咀嚼・嚥下に考慮して①：離乳食 第6回 咀嚼・嚥下に考慮して②：幼児食 第7回 野菜と豆類たっぷりの精進料理 第8回 『特別招聘講師』による調理実習 第9回 なつかしの家庭料理①：薄味で美味しい食事 第10回 なつかしの家庭料理②：揚げ物じょうずに 第11回 なつかしの家庭料理③：食物繊維たっぷりの食事 第12回 咀嚼・嚥下に考慮して③：高齢者食 第13回 咀嚼・嚥下に考慮して④：長寿を慶ぶ祝膳 第14回 パーティー料理：テーブルマナー 第15回 まとめ、パーティー料理：ティーパーティ ※実習内容の詳細は、第1回オリエンテーションにて伝える。 実習の順番は、変更することがある。							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：実習内容について、教科書の該当箇所を読み、概要を把握しておく。（学習時間：60分） 授業後学習：実習の手順、調理の要点、使用した食材について整理し、レポートを作成する。レポートにまとめたことをもとに調理をする。（学習時間：120分）							
授業方法	実習							
評価基準と評価方法	受講態度40%、提出物40%、小テスト20% 授業態度：実習の取り組み、グループ作業への参加度、実習結果（料理の仕上がり）より、総合的に評価する。 提出物：【実習後のレポート】実習結果をもとにレポートが作成できているか、作業内容の記録、結果、考察を総合的に評価する。なお、レポートの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。【課題レポート】課題について適切なレポートが作成できているか。 小テスト：食事の場面や喫食者に応じた献立作成や調理の工夫、調理操作ができているかを評価する。							
履修上の注意	「調理学」および「調理実習」の単位取得者が履修できる。 実習内容を把握し、調理に適した身支度をした上で実習に臨むこと。 実習室・試食室へは許可された物のみ持ち込みを可能とし、携帯電話の持ち込みを禁止する。 試食後の後片付けと清掃終了までが実習時間となる。 全回出席を原則とし、出席回数が開講日の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とし、遅刻・欠席の場合は必ず連絡をすること。 提出物については、提出期限厳守。実習後の実習レポート提出をもって、実習を受講したこととする。 実習着購入については、ポータルにて連絡をする。 実習費10,000円を徴収する。							
教科書	『調理学実習』栄養科学シリーズNEXT 大谷貴美子・饗庭照美編、講談社、ISBN4-06-155327-5							
参考書	『たのしい調理—基礎と実習—』第4版 水谷令子他著、医師薬出版、ISBN978-4-263-70517-9（※「調理実習」のテキストです。） 『NEW 調理と理論』 山崎清子・島田キミエ・渋谷祥子・下村道子・市川朝子・杉山久仁子著、同文書院、ISBN978-4-8103-1395-6							

参考書	『日本食品標準成分表2015年版（七訂）本表編』文部科学省科学技術・学術審議会資源調査分科会報告、医師薬出版、ISBN978-4-263-70648-0
-----	--

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活インターンシップI						
担当教員	楠木 新					科目ナンバー	U13180
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来のキャリアに関連した10日間の就業体験を通して、専攻の分野がどのように活かされるのか、また社会で働くことの意義を考える。						
授業の概要	①業務体験実習を通して、社会で働くことの意義とその働き方について考える。 ②業務体験実習を通して、職場の実態やビジネスルール、マナーを学ぶ。 ③社会人としての心構えを学び、体験を通して豊かな自己表現力を身につける。 ①～③について、主体的に学び、将来の就業に向けてチャレンジできるようにサポートする。						
到達目標	①専攻の分野が社会でどのように役立つかを考えることができる ②前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を身につけることができる ③社会で「働く」ことを主体的に考えることができる。						
授業計画	【事前学習】（6月、7月） 1. ビジネス基礎講座 ・インターンシップについて ・グループワーク ・会社の仕組み、ビジネスマナーなど。 2. 実習先の企業調査など ・実習先の内容研究 ・実習先とのマッチング ・履歴書の書き方 など 【夏休みの就業体験】 ・実習1①～⑩（各企業においての就業体験） （原則、実習は10日間、70時間以上） 【事後学習】（9月） ・実習の振り返り ・実習の体験発表 ・グループディスカッション ・実習報告書作成						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	①書籍や新聞、雑誌、ウェブなどで、業界や会社の動きをキャッチする。 ②一般常識やビジネスマナーを身に着ける。						
授業方法	実習先での就業体験を軸に、それに応じた事前学習、事後学習を行う。						
評価基準と評価方法	事前・事後レポート（40%）、実習先の評価（60%）で総合的評価						
履修上の注意	①事前学習、事後学習には必ず参加すること。 ②研修は夏休みの実施になるので、日程などについてはキチンと自己管理すること。 ③必ず連絡・相談・報告をすること。 ④研修中は、派遣先の指導に従うこと。また何かがあれば担当教員に連絡すること ⑤実習に伴う交通費などは自己負担となる。						
教科書	プリントを配布						
参考書	随時紹介する						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活インターンシップⅡ						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバー	U13190
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	NPOや市民活動団体、ボランティア団体など非営利組織で仕事をするために必要な知識（社会の捉え方や働き方）の習得と、その現場での10日間の体験を行う。						
授業の概要	実社会で「働く」ことをインターンシップを通じて体験する。さまざまな非営利組織、とくにその「地元」において、タウン誌やネットでの情報発信、地域イベントなどの地域活動、まちづくりの実践や市民ネットワークづくりなどをおこなっている組織や団体の実際の仕事を体験することによって、幅と奥行き深い社会と意義のある仕事の関係性を理解する。						
到達目標	（１）「仕事とは何か」「社会で働く」ことを考えることができる。 （２）利益や営利、経済合理性追求だけではない、現在進行形の「地域活動」と「働く場」を理解する。 （３）専攻の分野が地域社会でどのように役立つかを考えることができる。 （４）様々な業界・業種の実態や職場のルール、マナーを理解し、就職などのキャリアデザインに活かすことができる。						
授業計画	【事前学習】 第１回 実習先の事業と研修内容の確認 第２回 実習先への提出書類の作成 第３回 「企業」とは何か、どういうところか。そこで「働く」とは 第４回 仕事の基本、ビジネス・マナーと話し方のマナー 【夏休み中（実習先により異なるが7月末～9月中旬の期間のうち2週間（10日間）実習予定）】 第５～14回 インターンシップ現地実習 第15回 実習のまとめと報告						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	あらかじめ実習、派遣研修先の活動内容をよく調べて、理解しておく（5時間）。 インターンシップで何を実習し、なにを学ぶのかを考えておく（5時間）。						
授業方法	集中講義						
評価基準と評価方法	事前の準備とその姿勢（20％）、事後報告レポート（20％）、実習先の研修態度と授業参加姿勢など総合的評価（60％）						
履修上の注意	授業への積極的な参加が重要です。 実習すなわち派遣研修は夏休みなどの休暇中に実施するので、日程については各自注意すること。 実習中は、実習先の指導に従い、実習先・大学ともに報告・連絡・相談を密にすること。 実習に伴う交通費などは自己負担となる。						
教科書	プリントを配布						
参考書	随時紹介する						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	都市生活演習A							
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバー	U0308A	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	①地域活性化につながるブランド・マーケティングの在り方を理解し、商品企画・開発を目指す。 ②社会の変化を捉え消費者のニーズを把握する。							
授業の概要	マーケティングにおける商品の企画・立案をするためには、調査は必要不可欠である。そのために、仮説構成、調査項目の設定、調査票の作成、分析、報告書まで社会調査・市場調査の一連のプロセスを経験させ、理解することを目的とし、さらに企画書作成、プレゼンテーションの方法についても学ぶ。 前期のテーマは、地域ブランドについて取り上げる。これまでは、神戸のイメージを表現した洋菓子開発や、他の地域と連携しながら洋菓子を開発するなど行った。さらに後期は、他県へ出向くことで、地域づくりや伝統文化、継承の方法について学ぶ。その中で、創造性を膨らませ、新しい商品づくりに着手する。 このように、質的データから得られた情報の分析結果と量的データから得られた統計的分析結果との関連性・相違性を発見し、最終的にはマーケティング担当者や営業担当者などの実務家に、得られた結果をプレゼンテーションできるように目指す。							
到達目標	①商品の企画・立案の方法を学び、実践することができる ②マーケティングの方法論をどのように実践するのか理解することができる ③調査データを読み取り、商品につなげることができる							
授業計画	第1回. 演習で取り上げるテーマ発表 第2回. マーケティングを実践することの意義 第3回. 調査目的の明確化① 第4回. 調査目的の明確化② 第5回. 調査枠組みの検討① 第6回. 調査枠組みの検討② 第7回. 質的調査を行うための仮説設定 第8回. 量的調査を行うための仮説設定 第9回. 調査票の素案作りとその方法 第10回. 調査票の作成・完成とプレテスト 第11回. インタビュー調査実施（テーブル越し） 第12回. アンケート調査の実施（学内・学外にて） 第13回. 調査収集とまとめ 第14回. 調査結果についてのプレゼンテーション 第15回. 調査結果についてのプレゼンテーション							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】課題設定を行うためにも人・モノ・情報・環境、全てにおいて常に変化していることの観察力を磨いておくこと（60分） 【授業後】議論やディスカッションを通して、課題について考え（アイデア）を深めていくこと（60分）							
授業方法	演習							
評価基準と評価方法	企画力（アイデア出し）（20％）、グループディスカッション（20％）、レポート（30％）、プレゼン発表などによる総合評価（30％）							
履修上の注意	①グループ作業をするので各自責任を持って挑んでください。 ②授業への積極的な参加が重要。 ③データ収集や現場視察のため学外実習もある。入場料や交通費などは実費負担となる。 ④好奇心旺盛に楽しむことが必要！ ⑤固定観念を持たないで前に進みましょう。 アクティブラーニング（ディスカッション、グループワークなど）を積極的に取り入れる。							
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）							
参考書	随時紹介する（参考書リストは授業中に配布します）							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習A						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバー	U0308A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	食を通じて地域の活性化に貢献することができる新しい商品の提案や食品素材の提案を行う。 またこのテーマを遂行するためのプレゼンテーション技術や論理的な思考に基づいた提案方法を修得する。						
授業の概要	本演習では、4年次の卒業研究を行うために必要となる基本的な知識の習得および研究法の習得を目的としている。各自で設定したテーマを個別指導する。 研究の内容によって調査、試作（調理）、実験を行う。						
到達目標	次年度の卒業研究に必要な種々の調査方法、試作、実験の方法などの知識と技術を基礎から積み上げ、修得する。 成果は授業終了時に発表し、演習の仕上げとする。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 効率的な研究計画の立て方 第3回 文献の調査方法 第4回 学術論文の読み方 第5回 研究テーマを決める 第6回 研究に必要な手法を探る 第7回 研究計画を立てる 第8回 各自の研究について 個別指導 第9回 各自の研究について 個別指導 第10回 各自の研究について 個別指導 第11回 各自の研究について 個別指導 第12回 各自の研究について 個別指導 第13回 各自の研究について 個別指導 第14回 各自の研究について 中間報告会 第15回 後期研究打ち合わせ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習科目のため、原則として授業時間内にデータ整理、考察などのすべての学習を行う。 ただし、中間報告会（プレゼンテーション）のための準備（資料収集・レジュメ作成）は授業外に行う。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義、演習、実習、実験						
評価基準と評価方法	授業態度 30点 プレゼンテーション 70点						
履修上の注意	研究テーマによってはフィールドワークなど、授業外の時間も使う場合あり						
教科書							
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	都市生活演習A							
担当教員	竹田 美知					科目ナンバー	U0308A	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会における人間と人間の関係、人間とモノとの関係について、文献、観察、アンケートなどの様々な調査の企画から報告書の構成、さらにはそれを立証するためにふさわしい調査方法を計画し、その計画に応じて、資料収集、質問紙、調査票の作成を行う。							
授業の概要	都市生活演習Ⅳでは、実際の調査によって得られたデータは、統計パッケージなどを用いなどを用いて解析し、仮説の検証を行い、最終的にその調査に基づいたレポートを作成する。全体を通して、社会生活の中での様々な問題を拾い上げ、それを実証するためのデータ作成の技術、方法を身につけることが目的である。テーマは、学生にとって身近な生活のテーマである「女性の視点からみたライフコースと家庭用品」に焦点をあてる。							
到達目標	この演習は、4年次に卒業研究を行うために必要な知識と技法を習得することを目的としている。 （１） 量的調査および質的調査の技法を理解する。 （２） 既存の調査の2次分析及び比較、新規の調査の計画・実施・分析・報告ができる。 （３） フィールドワークに積極的に参加し、問題解決の提案を積極的に行う							
授業計画	1. 既存の文献調査 2. 質的調査の調査方法の確認 3. 質的調査の検討Ⅰ 4. 質的調査の検討Ⅱ 5. 質的調査の検討Ⅲ 6. ライフスタイルアンケート調査方法の確認 7. 量的データ（アンケート調査）の分析Ⅰ 8. 量的データ（アンケート調査）の分析Ⅱ 9. 量的データ（アンケート調査）の分析Ⅲ 10. フィールドワークの準備（ゲストスピーカー招聘） 11. ファイルドワークⅠ 12. インタビュー調査項目の作成Ⅰ 13. インタビュー調査項目の作成Ⅱ 14. インタビューの実施Ⅰ 15. インタビューの実施Ⅱ							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業外学習：調査に関する資料を収集する。（学習時間各120分） ファイルドワークに関しては学外で行う。（学習時間240分） トランスクリプトの作成は授業外に作成し、報告書や発表の準備に関しても授業外に行う。（学習時間それぞれ120分）							
授業方法	演習 産学連携協定に基づく外部機関と連携した課題解決型学習として、社会調査を行う。そのため、第10回には、ホームユースの企業から外部講師を招きフィールドワークの事前学習を行い、第11回は企業におけるフィールドワークを行う。第12回からはフィールドワークに基づいた商品企画についてのインタビューを行う。							
評価基準と評価方法	授業中の課題（40％）、レポート（60％）などによる総合評価 授業中の課題については、その次の授業で返還をし解説を加える。 レポートについては、到達目標（１）（２）（３）にしたがい、知識、能力、態度に関するルーブリック評価を行い、社会調査報告書としての完成度を評価する。報告書の作成途中にも、コメントを加えより社会調査の技法が習得できるように、フィードバックをする。							
履修上の注意	授業への参加が重要なので出席を重視する。 開講授業回数数の3分の2以上の出席をすること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻3回で欠席1回とする。 資料やデータ収集のため、学外実習を行う。交通費や入場料の実費負担がある。							
教科書	プリントを配布							
参考書								

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習A						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバー	U0308A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学研究法の習得						
授業の概要	都市生活演習Aは、4年次に都市生活に関する領域の中から学生が関心をもつ領域で卒業研究を行うために必要となる基本的な知識の習得および研究法の習得を目的としている。先行研究からテーマ設定する方法、研究方法の選択、得られたデータをまとめる方法などを学びながら実際に学生自ら実施し、レポートにまとめ、発表する。それらの過程を通して、自分で都市生活に関わるテーマに関する研究の計画を立て実行できる基礎的な能力を身につけることが期待される。心理学実験の心理学研究法に関する演習であり、心理学に関する研究法の基礎知識の習得を目的とする。						
到達目標	1. グループで実験を立案し、計画的に進めていくことができる。[態度・志向性] 2. 先行研究からテーマを考え、データを図表にまとめ、統計処理をおこない、レポートにまとめたり発表することができる。[汎用的技能][態度・志向性]						
授業計画	1. ガイダンス 2. レポートの書き方 3. 研究例の紹介 4. 文献紹介 5. 先行研究の紹介 6. 実験計画法(1) 7. 実験計画法(2) 8. 心理学実験法(1) 9. 心理学実験法(2) 10. 実験(1) 11. 実験(2) 12. データ処理(1) 13. 統計処理法(1) 14. 統計処理法(2) 15. 実験報告						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：文献講読、実験や発表の準備をおこなう。(学習時間：2時間) 授業後学習：授業時間で仕上がらなかった実験のまとめや、レポートを作成する。(学習時間：2時間)						
授業方法	実習・演習形式でおこなう。 授業は一連の研究の流れに沿って進める。先行研究からテーマ設定する方法、実験計画法、実際に実験もしくは調査を行う際の心理学実験法、得られたデータ処理に関する統計処理法を教員が解説した後に、学生がグループでその手続きに則って実施し、レポートにまとめ、発表し、それに対しさらに教員が解説を加え定着を図る。						
評価基準と評価方法	実習への取り組みの態度(20%)：グループ活動における積極性、協調性を評価する。到達目標1に関する到達度の確認。 レポート(80%)：図表の適切さ、統計処理の適切さを、考察の論理性を評価する。到達目標2に関する到達度の確認。松蔭manabaに提出された課題は松蔭manabaでフィードバックする。						
履修上の注意	毎回出席することが原則である。都合により欠席する場合は、教員に事前に連絡し、次回までに補っておくようにする。 必要な資料やデータの収集のため、学外で授業を行う場合があるので、入場料、交通費などの実費負担がある。						
教科書	プリントを適宜配布する。						
参考書	「心理学マニュアル 要因計画法」 北大路書房 ISBN：978-4762821967 「心理学マニュアル 質問紙法」 北大路書房 ISBN：978-4762821097						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習A						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバー	U0308A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会における人間と人間の関係、人間とモノとの関係について、文献、観察、アンケートなどの様々な調査の企画から報告書の構成、さらにはそれを立証するためにふさわしい調査方法を計画し、その計画に応じて、資料収集、質問紙、調査票の作成を行う。						
授業の概要	この授業では、実際の調査によって得られたデータは、統計パッケージなどを用いて解析し、仮説の検証を行い、最終的にその調査に基づいたレポートを作成する。全体を通して、社会生活の中での様々な問題を拾い上げ、それを実証するためのデータ作成の技術、方法を身につけることが目的である。テーマは、学生たちにとって身近な生活のテーマである「若者の仕事観、文化的価値観」に焦点をあてる。						
到達目標	この演習は、4年次に卒業研究を行うために必要な知識と技法を習得することを目的としている。 (1) 量的調査および質的調査の技法を理解する。【知識・理解】 (2) 既存の調査の2次分析及び比較、新規の調査の計画・実施・分析・報告ができる。【汎用的技能】 (3) フィールドワークに積極的に参加し、問題解決の提案を積極的に行う。【態度・志向性】						
授業計画	01. 調査実習の取り組み方 02. 既存の文献調査 03. 既存の文献調査 04. 量的調査の検討① 05. 量的調査の検討② 06. 量的調査の検討③ 07. 質的調査の検討① 08. 質的調査の検討② 09. 質的調査の検討③ 10. 混合研究法の検討① 11. 混合研究法の検討② 12. 混合研究法の検討③ 13. インタビュー調査項目の作成① 14. インタビュー調査項目の作成② 15. インタビューの実施①						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業外学習：調査に関する資料を収集する。（学習時間120分） ・フィールドワークに関しては学外で行う。（学習時間240分） ・収集データのファイルや報告書の作成については授業外の時間も活用すること。（学習時間120分）						
授業方法	演習 テーマごとに小グループを作り、資料分析、報告書の作成、プレゼンテーションについて学生が主体となって行う。また、インタビュー調査は学生や友人、家族、地域の人々に依頼をして調査対象者を確保し、アンケート調査やインタビュー調査の結果をまとめて分析し、報告書を作成する。						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価 授業中の課題については、その次の授業で返還をし解説を加える。レポートについては、到達目標(1)(2)(3)にしたがい、知識、能力、態度に関する評価及び社会調査報告書としての完成度を評価する。報告書の作成途中にもコメントを加えより社会調査の技法が習得できるようにフィードバックをする。						
履修上の注意	・授業への参加が重要なので出席を重視する。 ・資料やデータ収集のため、学外実習を行う。交通費や入場料の実費負担がある。						
教科書	プリントを配布						
参考書	授業中、適宜指示する						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習A						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバー	U0308A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活での学び（主に衣生活学系の科目および色彩学）を応用し、地域貢献に結びつける。 共同プロジェクトを通して地域社会から学ぶ。						
授業の概要	神戸市の農家との共同プロジェクトとして、花卉生産者、野菜生産者とのコラボ商品を開発する。						
到達目標	プロジェクトの中で役割を果たしながら、得意なことを生かし、不得意なことにも向き合えるようになる。 都市生活専攻で学んだ専門知識を再確認し、応用できるようになる。						
授業計画	第1回：ガイダンス、東播磨花卉生産者との共同プロジェクト① 企画打ち合わせ 第2回：東播磨花卉生産者との共同プロジェクト① 試作品の検討 第3回：東播磨花卉生産者との共同プロジェクト① 製作 第4回：東播磨花卉生産者との共同プロジェクト① 製作 第5回：東播磨花卉生産者との共同プロジェクト① 製作 第6回：東播磨花卉生産者との共同プロジェクト① まとめ 第7回：伊川谷花き生産者との共同プロジェクト② 昨年度の企画説明 第8回：伊川谷花き生産者との共同プロジェクト② 企画打ち合わせ 第9回：伊川谷花き生産者との共同プロジェクト② カラーコンサルタント資料作成 第10回：伊川谷花き生産者との共同プロジェクト② カラーコンサルタント資料作成 第11回：伊川谷花き生産者との共同プロジェクト② カラーコンサルタント資料プレゼンテーション 第12回：野菜生産者神戸STARSとの共同プロジェクト③ 企画会議 第13回：野菜生産者神戸STARSとの共同プロジェクト③ 試作品の検討 第14回：野菜生産者神戸STARSとの共同プロジェクト③ 製作 第15回：野菜生産者神戸STARSとの共同プロジェクト③ 製作						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	打合せやイベント、製作、学外実習（時期はプロジェクトの進捗状況等による）など、授業時間外（土日、長期休暇）の学習あり。（30時間程度）						
授業方法	演習、実験、実習、学外実習						
評価基準と評価方法	平常点80点、課題20点 平常点はプロジェクト等への取り組みを総合的に評価する。						
履修上の注意	授業時間外の活動にも可能な限り参加すること。 交通費等自己負担あり。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習A						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバー	U0308A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	家計レベルから世界レベルまで、各自の関心に合わせた経済問題に取り組み、その過程で経済的知識とその実践手法の修得を目指す。						
授業の概要	都市生活演習Aは、4年次に都市生活に関する領域の中から学生が関心を持つ領域で。卒業研究を行うために必要となる基本的な知識の習得および研究法の習得を目的としている。先行研究からテーマを設定する方法、研究方法の選択、得られたデータをまとめる方法などを学びながら、実際に学生自ら実施し、レポートをまとめ、発表する。それらの過程を通して、自分で都市生活に関わるテーマを選び、その研究計画を立てて実行できる基礎的な能力を身につけることが期待される。						
到達目標	(1)「社会にどのような経済問題が存在するかを見つけ出し、その原因を明らかにするために、どのような理論・データ分析が必要になるかを理解できるようになる」【知識・理解】 (2)「各自が取り組んでいる経済問題を具体的かつ詳細に説明できるようになる」【汎用的技能】 (3)「各自が4年次で作成する卒業論文のために必要な研究手法を修得することができる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 自己紹介 第3回 卒業論文の構成①：テーマと問題意識 第4回 卒業論文の構成②：先行研究のサーベイ 第5回 卒業論文の構成③：事実確認とその論理的解釈 第6回 卒業論文の構成④：結論と提言 第7回 図書館とインターネットを使った資料収集 第8回 文献の要約① 第9回 文献の要約② 第10回 先行研究のサーベイ①：先行研究は問題意識でどのような点を重視されているか 第11回 先行研究のサーベイ②：先行研究はどのようなアプローチを採用しているか 第12回 パワーポイントの使い方 第13回 テーマ発表の準備 第14回 テーマ発表 第15回 夏休み中の取り組み						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：研究テーマに関係する文献を図書館で見つけて、読み込むこと（学習時間：90分） ・授業後学習：研究テーマの内容を見直し、プレゼンテーションの準備を進めること（学習時間：90分）						
授業方法	各回設定したテーマに即した課題に個人あるいはグループワークで取り組み、プレゼンテーションの準備を進めること。						
評価基準と評価方法	・授業中の課題（60%）：リアクションペーパーで内容の理解度を評価するとともに、到達目標（1）および（2）の達成度を確認する。 ・テーマ発表（40%）：リハーサルおよび本発表の内容を評価するとともに、到達目標（1）および（3）の達成度を確認する。						
履修上の注意	・出席および授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習B						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバー	U0308B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	①地域活性化につながるブランド・マーケティングの在り方を理解し、商品企画・開発を目指す。 ②社会の変化を捉え消費者のニーズを把握する。						
授業の概要	マーケティングにおける商品の企画・立案をするためには、調査は必要不可欠である。そのために、仮説構成、調査項目の設定、調査票の作成、分析、報告書まで社会調査・市場調査の一連のプロセスを経験させ、理解することを目的とし、さらに企画書作成、プレゼンテーションの方法についても学ぶ。 前期のテーマは、地域ブランドについて取り上げる。これまでは、神戸のイメージを表現した洋菓子開発や、他の地域と連携しながら洋菓子を開発するなど行った。さらに後期は、他県へ出向くことで、地域づくりや伝統文化、継承の方法について学ぶ。その中で、創造性を膨らませ、新しい商品づくりに着手する。 このように、質的データから得られた情報の分析結果と量的データから得られた統計的分析結果との関連性・相違性を発見し、最終的にはマーケティング担当者や営業担当者などの実務家に、得られた結果をプレゼンテーションできるよう目指す。						
到達目標	①商品の企画・立案の方法を学び、実践することができる ②マーケティングの方法論をどのように実践するのか理解することができる ③調査データを読み取り、商品につなげることができる						
授業計画	第1回. アイデアだしの方法 第2回. グループディスカッション 第3回. 商品開発の企画・立案の方法① 第4回. 商品開発の企画・立案の方法② 第5回. 企画書の書き方 第6回. 本調査実施① 第7回. 本調査実施② 第8回. 本調査分析（データ入力と集計、分析）① 第9回. 本調査分析（データ入力と集計、分析）② 第10回. 中間プレゼンテーション① 第11回. 中間プレゼンテーション② 第12回. 企画書作成 第13回. プレゼン準備と最終確認 第14回. 最終プレゼン発表① 第15回. 最終プレゼン発表②						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】課題設定をしっかりと行うために、人・モノ・情報・環境、全てにおいて常に変化していることの観察力を磨いておくこと。またプレゼンテーションの知識を身につけていくこと（60分） 【授業後】ディスカッションを通して、分析や調査方法などを考え、アイデアを固めていくこと（60分）						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	企画力（アイデア出し）（20％）、グループディスカッション（20％）、レポート（30％）、プレゼン発表などによる総合評価（30％）						
履修上の注意	①グループ作業をするので各自責任を持って挑んでください。 ②授業への積極的な参加が重要。 ③データ収集や現場視察のため学外実習もある。入場料や交通費などは自己負担となる。 ④好奇心旺盛に楽しむことが必要！ ⑤固定観念を持たないで前に進みましょう。 アクティブラーニングを積極的に取り入れる。						
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）						
参考書	随時紹介する（参考書リストは授業中に配布します）						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習B						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバー	U0308B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	食を通じて地域の活性化に貢献することができる新しい商品の提案や食品素材の提案を行う。 またこのテーマを遂行するためのプレゼンテーション技術や論理的な思考に基づいた提案方法を修得する。						
授業の概要	本演習では、4年次の卒業研究を行うために必要となる基本的な知識の習得および研究法の習得を目的としている。各自で設定したテーマを個別指導する。 研究の内容によって調査、試作（調理）、実験を行う。						
到達目標	次年度の卒業研究に必要な種々の調査方法、試作、実験の方法などの知識と技術を基礎から積み上げ、修得する。 成果は授業終了時に発表し、演習の仕上げとする。						
授業計画	第1回 各自の研究について 個別指導 第2回 各自の研究について 個別指導 第3回 各自の研究について 個別指導 第4回 各自の研究について 個別指導 第5回 各自の研究について 個別指導 第6回 各自の研究について 個別指導 第7回 各自の研究について 個別指導 第8回 研究のまとめ方について 第9回 報告会 準備 第10回 報告会 準備 第11回 報告会 準備 第12回 報告会 準備 第13回 報告会 準備 第14回 報告発表会 第15回 まとめ 次年度卒業研究にむけて						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習科目のため、原則として授業時間内にデータ整理、考察などのすべての学習を行う。 ただし、中間報告会（プレゼンテーション）のための準備（資料収集・レジュメ作成）は授業外に行う。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義、演習、実習、実験						
評価基準と評価方法	授業態度 30点 プレゼンテーション 70点						
履修上の注意	研究テーマによってはフィールドワークなど、授業外の時間も使う場合あり						
教科書							
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習B						
担当教員	楠木 新					科目ナンバー	U0308B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	・自ら課題を設定して、論理的な思考に基づいて、レポートを書く力を身に着ける。 ・主に都市生活や食ビジネスにおける現在的な課題について考察を深める。						
授業の概要	・課題設定の参考として、経営学における4つの経営資源である「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」の中の「ヒト」に関する部分を重点的に取り上げる。ただし、受講生の興味・関心によっては、テーマの取り上げ方、進め方を変更することがある。 ・受講生の興味や関心を聞き取りながら進める。 ・授業においては、対話型で進めながら課題についての理解を深める						
到達目標	①経営学の「人的資源管理」の基本的な知識を習得する ②現代的な課題を通して社会を見る目を養う ③自ら課題を設定する力、プレゼン力、論理的な思考をもとにレポートを作成する力を養う。						
授業計画	第1回 自己分析による課題探し（再度） 第2回 男女雇用機会均等法の沿革（課題研究） 第3回 女性活躍推進（課題研究） 第4回 ブラック企業問題（課題研究） 第5回 小レポートの課題設定① 第6回 小レポートの課題設定② 第7回～第10回 小レポートの作成プロセス 第11回 レポートに対するグループ議論 第12回～第13回 プレゼン準備 第14回 プレゼン発表 第15回 全体のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日常から働き方・企業の経営についての関心を高めること。 グループワークの中で、メンバーと協力してプレゼン資料を作成する（学習時間5時間程度）						
授業方法	・講義 ・対話型で授業を進めることが多い ・自らの見解を発表する ・グループワーク						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価						
履修上の注意	具体的なテーマを見つけて、資料を検討して発表すること。 対話型の運営を行うので積極的な発言を期待する。						
教科書	・特に指定しません。適宜プリントを配布						
参考書	・「経験から学ぶ 経営学入門」（有斐閣ブックス） ・「経験から学ぶ 人的資源管理」（有斐閣ブックス）						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	都市生活演習B							
担当教員	竹田 美知					科目ナンバ－	U0308B	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会における人間と人間の関係、人間とモノとの関係について、文献、観察、アンケートなどの様々な調査の企画から報告書の構成、さらにはそれを立証するためにふさわしい調査方法を計画し、その計画に応じて、資料収集、質問紙、調査票の作成を行う。							
授業の概要	都市生活演習Ⅳでは、実際の調査によって得られたデータは、統計パッケージなどを用いなどを用いて解析し、仮説の検証を行い、最終的にその調査に基づいたレポートを作成する。全体を通して、社会生活の中での様々な問題を拾い上げ、それを実証するためのデータ作成の技術、方法を身につけることが目的である。テーマは、学生にとって身近な生活のテーマである「女性の視点からみたライフコースと家庭用品」に焦点をあてる。							
到達目標	この演習は、4年次に卒業研究を行うために必要な知識と技法を習得することを目的としている。 （１） 量的調査および質的調査の技法を理解する。 （２） 既存の調査の2次分析及び比較、新規の調査の計画・実施・分析・報告ができる。 （３） フィールドワークに積極的に参加し、問題解決の提案を積極的に行う							
授業計画	16. インタビューの実施Ⅲ 17. トランスクリプトの作成Ⅰ 18. トランスクリプトの作成Ⅱ 19. トランスクリプトの作成Ⅲ 20. トランスクリプトの分析Ⅰ 21. トランスクリプトの分析Ⅱ 22. トランスクリプトの分析Ⅲ 23. 調査報告書の作成 1 24. 調査報告書の作成 2 25. 調査報告書の作成 3 26. 学生の報告書の発表 1 27. 学生の報告書の発表 2 28. 学外での報告発表 29. プレゼンテーション準備 30. プレゼンテーション							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業外学習：調査に関する資料を収集する。（学習時間各120分） フィールドワークに関しては学外で行う。（学習時間240分） トランスクリプトの作成は授業外に作成し、報告書や発表の準備に関しても授業外に行う。（学習時間それぞれ120分）							
授業方法	演習 産学連携協定に基づき、ホームユース企業と連携した課題解決学習を行う。商品企画についてのインタビューの実施結果を調査報告書の形で提出し、企業関係者へ調査報告を行う。また社会調査士の資格取得のため社会調査協会へ調査報告書を提出する。							
評価基準と評価方法	授業中の課題（40％）、レポート（60％）などによる総合評価 授業中の課題については、その次の授業で返還をし解説を加える。 レポートについては、到達目標（１）、（２）、（３）にしたがい、知識、能力、態度に関してのルーブリック評価を行い、社会調査報告書としての完成度を評価する。報告書の作成途中にも、コメントを加えより社会調査の技法が習得できるように、フィードバックをする。							
履修上の注意	授業への参加が重要なので出席を重視する。 開講授業回数の3分の2以上の出席をすること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻3回で欠席1回とする。 資料やデータ収集のため、学外実習を行う。交通費や入場料の実費負担がある。							
教科書	プリントを配布							
参考書								

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習B						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバー	U0308B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学研究法の習得						
授業の概要	都市生活演習Bは、都市生活演習Aの成果をもとに、さらに都市生活に関する複雑な調査や実験を実施することが可能になるよう、規模を拡大しレベルアップした研究法を習得し、実行力を身につけることを目的としている。規模の拡大に伴い、複数の学生で協力して実行していく場合もある。それらの過程を通して、最終的には自分で都市生活に関わるテーマに関する研究の計画を立て実行でき、発展させることのできる能力を身につけることが期待される。 心理学調査の心理学研究法に関する演習であり、心理学に関する研究法の基礎知識の習得を目的とする。						
到達目標	1. グループで調査を立案し、計画的に進めていくことができる。[態度・志向性] 2. 先行研究からテーマを考え、データを図表にまとめ、統計処理をおこない、レポートにまとめたり発表することができる。[汎用的技能][態度・志向性]						
授業計画	1. ガイダンス 2. 実験計画法(1) 3. 実験計画法(2) 4. 心理学調査法(1) 5. 心理学調査法(2) 6. 心理学調査法(3) 7. 調査(1) 8. 調査(2) 9. データ処理(1) 10. データ処理(2) 11. 統計処理法(1) 12. 統計処理法(2) 13. 統計処理法(3) 14. 実験報告(1) 15. 実験報告(2)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：文献講読、調査や発表の準備をおこなう。(学習時間：2時間) 授業後学習：授業時間で仕上がらなかった実験のまとめや、レポートを作成する。(学習時間：2時間)						
授業方法	実習・演習形式でおこなう。 授業は一連の研究の流れに沿って進める。先行研究からテーマ設定する方法、実験計画法、実際に実験もしくは調査を行う際の心理学実験法、得られたデータ処理に関する統計処理法を教員が解説した後に、学生がグループでその手続きに則って実施し、レポートにまとめ、発表し、それに対しさらに教員が解説を加え定着を図る。						
評価基準と評価方法	実習への取り組みの態度(20%)：グループ活動における積極性、協調性を評価する。到達目標1に関する到達度の確認。 レポート(80%)：図表の適切さ、統計処理の適切さを、考察の論理性を評価する。到達目標2に関する到達度の確認。松蔭manabaに提出された課題は松蔭manabaでフィードバックする。						
履修上の注意	毎回出席することが原則である。都合により欠席する場合は、教員に事前に連絡し、次回までに補っておくようにする。 必要な資料やデータの収集のため、学外で授業を行う場合があるので、入場料、交通費などの実費負担がある。						
教科書	プリントを適宜配布する。						
参考書	「心理学マニュアル 要因計画法」 北大路書房 ISBN：978-4762821967 「心理学マニュアル 質問紙法」 北大路書房 ISBN：978-4762821097						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	都市生活演習B							
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバー	U0308B	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会における人間と人間の関係、人間とモノとの関係について、文献、観察、アンケートなどの様々な調査の企画から報告書の構成、さらにはそれを立証するためにふさわしい調査方法を計画し、その計画に応じて、資料収集、質問紙、調査票の作成を行う。							
授業の概要	この授業では、実際の調査によって得られたデータは、統計パッケージなどを用いて解析し、仮説の検証を行い、最終的にその調査に基づいたレポートを作成する。全体を通して、社会生活の中での様々な問題を拾い上げ、それを実証するためのデータ作成の技術、方法を身につけることが目的である。テーマは、学生たちにとって身近な生活のテーマである「若者の仕事観、文化的価値観」に焦点をあてる。							
到達目標	この演習は、4年次に卒業研究を行うために必要な知識と技法を習得することを目的としている。 (1) 量的調査および質的調査の技法を理解する。【知識・理解】 (2) 既存の調査の2次分析及び比較、新規の調査の計画・実施・分析・報告ができる。【汎用的技能】 (3) フィールドワークに積極的に参加し、問題解決の提案を積極的に行う。【態度・志向性】							
授業計画	16. インタビューの実施② 17. 収集データのファイル作成① 18. 収集データのファイル作成② 19. 収集データの検討① 20. 収集データの検討② 21. 収集データの検討③ 22. データの集約と分析結果の検討① 23. データの集約と分析結果の検討② 24. 調査報告書の作成① 25. 調査報告書の作成② 26. 調査報告書の作成③ 26. 学生の報告書の発表① 27. 学生の報告書の発表② 28. 学生の報告書の発表③ 29. プレゼンテーション準備 30. プレゼンテーション							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・ 授業外学習：調査に関する資料を収集する。（学習時間120分） ・ ファイルドワークに関しては学外で行う。（学習時間240分） ・ 収集データのファイルや報告書の作成については授業外の時間も活用すること。（学習時間120分）							
授業方法	演習 テーマごとに小グループを作り、資料分析、報告書の作成、プレゼンテーションについて学生が主体となって行う。また、インタビュー調査は学生や友人、家族、地域の人々に依頼をして調査対象者を確保し、アンケート調査やインタビュー調査の結果をまとめて分析し、報告書を作成し、社会調査士の資格取得のため社会調査協会へ調査報告書を提出する。							
評価基準と評価方法	授業中の課題（40％）、レポート（60％）などによる総合評価 授業中の課題については、その次の授業で返還をし解説を加える。レポートについては、到達目標(1)(2)(3)にしたがい、知識、能力、態度に関する評価及び社会調査報告書としての完成度を評価する。報告書の作成途中にも、コメントを加えより社会調査の技法が習得できるように、フィードバックをする。							
履修上の注意	・ 授業への参加が重要なので出席を重視する。 ・ 資料やデータ収集のため、学外実習を行う。交通費や入場料の実費負担がある。							
教科書	プリントを配布							
参考書	授業中、適宜指示する							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習B						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバー	U0308B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活での学び（主に衣生活学系の科目および色彩学）を生かした地域連携活動						
授業の概要	地域の施設の活性化を目的としたワークショップの実施 地域資源の有効利用を目的とした羊毛商品の開発						
到達目標	都市生活専攻で学んだ専門知識を応用して、地域連携活動を実施することができる。						
授業計画	第1回：灘区との地域連携 ワークショップの企画、打合せ 第2回：灘区との地域連携 ワークショップの実施、まとめ 第3回：六甲山牧場との共同プロジェクト プロジェクトの紹介 第4回：六甲山牧場との共同プロジェクト 企画打ち合わせ 第5回：学祭、中高バザーの準備 学祭展示・販売の準備 第6回：学祭、中高バザーの準備 学祭展示・販売の準備 第7回：六甲山牧場との共同プロジェクト 試作品の検討 第8回：六甲山牧場との共同プロジェクト 羊毛の加工1 第9回：六甲山牧場との共同プロジェクト 羊毛の加工2 第10回：六甲山牧場との共同プロジェクト 製作1 第11回：六甲山牧場との共同プロジェクト 製作2 第12回：六甲山牧場との共同プロジェクト 製作3 第13回：六甲山牧場との共同プロジェクト まとめ 第14回：最終課題についてのガイダンス、活動記録の作成 第15回：最終課題レポート作成						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	打合せやイベント、製作、学外実習（時期はプロジェクトの進捗状況等による）など、授業時間外（土日、長期休暇）の学習あり。（30時間程度）						
授業方法	演習、実験、実習、学外実習						
評価基準と評価方法	平常点80点、課題20点 平常点はプロジェクト等への取り組みを総合的に評価する。						
履修上の注意	授業時間外の活動にも可能な限り参加すること。 交通費等自己負担あり。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習B						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバー	U0308B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	家計レベルから世界レベルまで、各自の関心に合わせた経済問題に取り組み、その過程で経済的知識とその実践手法の修得を目指す。						
授業の概要	都市生活演習Bは、都市生活演習Aの成果をもとに、さらに都市生活に関する複雑な調査や実験を実施することが可能になるよう、規模を拡大し、レベルアップした研究法を習得し、実行力を身につけることを目的としている。規模の拡大に伴い、複数の学生で協力して実行していく場合もある。それらの過程を通して、最終的には自分で都市生活に関わるテーマを選び、その研究計画を立てて実行でき、発展させることのできる能力を身につけることが期待される。						
到達目標	(1)「社会にどのような経済問題が存在するかを見つけ出し、その原因を明らかにするために、どのような理論・データ分析が必要になるかを理解できるようになる」【知識・理解】 (2)「各自が取り組んでいる経済問題を具体的かつ詳細に説明できるようになる」【汎用的技能】 (3)「各自が4年次で作成する卒業論文のために必要な研究手法を修得することができる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 論文の書き方①：作成ルール 第3回 論文の書き方②：表現、句読点、段落、引用、脚注、参考文献 第4回 先行研究のサーベイ①：文献の要約 第5回 先行研究のサーベイ②：先行研究は他の研究をどのように評価しているか 第6回 「問題意識」を書く① 第7回 「問題意識」を書く② 第8回 「先行研究のサーベイ」を書く① 第9回 「先行研究のサーベイ」を書く② 第10回 研究発表の準備 第11回 研究発表 第12回 小論文の作成 第13回 小論文の初回提出 第14回 小論文の修正 第15回 小論文の最終提出						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：研究テーマに関係する文献を図書館で見つけて、読み込むこと（学習時間：90分） ・授業後学習：研究テーマの内容を見直し、プレゼンテーションの準備を進めること（学習時間：90分）						
授業方法	各回設定したテーマに即した課題に個人あるいはグループワークで取り組み、プレゼンテーションの準備を進めること。						
評価基準と評価方法	・授業中の課題(40%)：リアクションペーパーで内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・研究発表(30%)：リハーサルおよび本発表の内容を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。 ・小論文(30%)：初回提出分および最終提出分の内容を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・出席および授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	都市生活プロジェクト演習A							
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバー	U0207A	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活プロジェクト演習Aの目的は、自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てるとともに、個々の研究テーマにそくした基本的な技法、論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることにある。							
授業の概要	前半は自己分析を行い、現在の自分の力を認識し、将来の進路に基づきどのような力をつけるべきかについて計画を立てる。その計画において3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすか分析する。あわせて個々の研究テーマにそくした研究の基本的な技法の習得を目指し、文章理解力、文章作成能力、資料解釈力、数理的基礎力など基礎的な力を獲得する。後半はグループ討議・発表、個別調査などの授業形式を用いつつ、専門分野のレポート・実験ノート、論文作成の手法を身につける。							
到達目標	(1)「個々の研究テーマにそくした基本的な技法を習得することができる」【知識・理解】 (2)「論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることができる」【汎用的技能】 (3)「自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てることができるようになる」【態度・志向性】							
授業計画	第1回 ガイダンス (UB合同) 第2回 神戸の食文化と街の成長と発展① 第3回 神戸の食文化と街の成長と発展② 第4回 神戸の食文化の発展と課題について考える― 疑問を抱きながら問題意識を高めていく ― 第5回 神戸の産業①：食と観光と貿易 第6回 神戸の産業②：経済関連 第7回 神戸市の抱える課題（食と産業、観光の面から）（ゲストスピーカー）（UB合同） 第8回 フィールドワーク（企業訪問）（UB合同） 第9回 フィールドワーク（企業訪問）（UB合同） 第10回 社会科学の研究手法①：テーマ設定 第11回 社会科学の研究手法②：構想固め 第12回 社会科学の研究手法③：課題発見（企画・立案） 第13回 プレゼンテーション①：チーム発表（UB合同） 第14回 プレゼンテーション②：チーム発表（UB合同） 第15回 前期のまとめ							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：研究テーマに関係する文献を図書館で見つけて、読み込むこと（学習時間：90分） ・授業後学習：研究テーマの内容をグループでディスカッションすること（学習時間：90分）							
授業方法	各回設定したテーマについて講義する。そのテーマに即した課題にグループワークによって取り組むこと。							
評価基準と評価方法	・授業中の課題(40%)：リアクションペーパーで内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・プロジェクトの成果発表(60%)：プレゼンテーションの内容を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。							
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。							
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。							
参考書	授業中に適宜、紹介する。							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習A						
担当教員	楠木 新					科目ナンバー	U0207A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活プロジェクト演習Aの目的は、自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てるとともに、個々の研究テーマにそくした基本的な技法、論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることにある。						
授業の概要	前半は自己分析を行い、現在の自分の力を認識し、将来の進路に基づきどのような力をつけるべきかについて計画を立てる。その計画において3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすか分析する。あわせて個々の研究テーマにそくした研究の基本的な技法の習得を目指し、文章理解力、文章作成能力、資料解釈力、数理的基礎力など基礎的な力を獲得する。後半はグループ討議・発表、個別調査などの授業形式を用いつつ、専門分野のレポート・実験ノート、論文作成の手法を身につける。						
到達目標	(1)「個々の研究テーマにそくした基本的な技法を習得することができる」【知識・理解】 (2)「論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることができる」【汎用的技能】 (3)「自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てることができるようになる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス（UB合同） 第2回 神戸の食文化と街の成長と発展① 第3回 神戸の食文化と街の成長と発展② 第4回 神戸の食文化の発展と課題について考える― 疑問を抱きながら問題意識を高めていく ― 第5回 神戸の産業①：食と観光と貿易 第6回 神戸の産業②：経済関連 第7回 神戸市の抱える課題（食と産業、観光の面から）（ゲストスピーカー）（UB合同） 第8回 フィールドワーク（企業訪問）（UB合同） 第9回 フィールドワーク（企業訪問）（UB合同） 第10回 社会科学の研究手法①：テーマ設定 第11回 社会科学の研究手法②：構想固め 第12回 社会科学の研究手法③：課題発見（企画・立案） 第13回 プレゼンテーション①：チーム発表（UB合同） 第14回 プレゼンテーション②：チーム発表（UB合同） 第15回 前期のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：研究テーマに関係する文献を図書館で見つけて、読み込むこと（学習時間：90分） ・授業後学習：研究テーマの内容をグループでディスカッションすること（学習時間：90分）						
授業方法	各回設定したテーマについて講義する。そのテーマに即した課題にグループワークによって取り組むこと。						
評価基準と評価方法	・授業中の課題(40%)：リアクションペーパーで内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・プロジェクトの成果発表(60%)：プレゼンテーションの内容を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	都市生活プロジェクト演習A							
担当教員	江 弘毅					科目ナンバー	U0207A	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活プロジェクト演習Aの目的は、自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てるとともに、個々の研究テーマにそくした基本的な技法、論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることにある。							
授業の概要	前半は自己分析を行い、現在の自分の力を認識し、将来の進路に基づきどのような力をつけるべきかについて計画を立てる。その計画において3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすか分析する。あわせて個々の研究テーマにそくした研究の基本的な技法の習得を目指し、文章理解力、文章作成能力、資料解釈力、数理的基礎力など基礎的な力を獲得する。後半はグループ討議・発表、個別調査などの授業形式を用いつつ、専門分野のレポート・実験ノート、論文作成の手法を身につける。							
到達目標	(1)「個々の研究テーマにそくした基本的な技法を習得することができる」【知識・理解】 (2)「論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることができる」【汎用的技能】 (3)「自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てることができるようになる」【態度・志向性】							
授業計画	第1回 ガイダンス (UL合同) 第2回 自己紹介 第3回 都市＝まちを記述・表現することの基礎① (UL合同) 第4回 都市＝まちを記述・表現することの基礎② (UL合同) 第5回 社会学とは① (UL合同) 第6回 社会学とは② (UL合同) 第7回 経済学とは① (UL合同) 第8回 経済学とは② (UL合同) 第9回 社会科学の研究手法①：テーマと問題意識の設定 第10回 社会科学の研究手法②：先行研究のサーベイ 第11回 社会科学の研究手法③：事実確認とその論理的解釈 第12回 社会科学の研究手法④：結論 第13回 パワーポイントの使い方 第14回 各プロジェクトチームのテーマ発表の準備 第15回 各プロジェクトチームのテーマ発表							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：研究テーマに関係する文献を図書館で見つけて、読み込むこと（学習時間：90分） ・授業後学習：研究テーマの内容をグループでディスカッションすること（学習時間：90分）							
授業方法	各回設定したテーマについて講義する。そのテーマに即した課題にグループワークによって取り組むこと。							
評価基準と評価方法	・授業中の課題(40%)：リアクションペーパーで内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・プロジェクトの成果発表(60%)：リハーサルおよび本発表の内容を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。							
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。							
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。							
参考書	授業中に適宜、紹介する。							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習A						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバー	U0207A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活プロジェクト演習Aの目的は、自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てるとともに、個々の研究テーマにそくした基本的な技法、論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることにある。						
授業の概要	前半は自己分析を行い、現在の自分の力を認識し、将来の進路に基づきどのような力をつけるべきかについて計画を立てる。その計画において3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすか分析する。あわせて個々の研究テーマにそくした研究の基本的な技法の習得を目指し、文章理解力、文章作成能力、資料解釈力、数理的基礎力など基礎的な力を獲得する。後半はグループ討議・発表、個別調査などの授業形式を用いつつ、専門分野のレポート・実験ノート、論文作成の手法を身につける。						
到達目標	(1)「個々の研究テーマにそくした基本的な技法を習得することができる」【知識・理解】 (2)「論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることができる」【汎用的技能】 (3)「自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てることができるようになる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス (UL合同) 第2回 自己紹介 第3回 都市＝まちを記述・表現することの基礎① (UL合同) 第4回 都市＝まちを記述・表現することの基礎② (UL合同) 第5回 社会学とは① (UL合同) 第6回 社会学とは② (UL合同) 第7回 経済学とは① (UL合同) 第8回 経済学とは② (UL合同) 第9回 社会科学の研究手法①：テーマと問題意識の設定 第10回 社会科学の研究手法②：先行研究のサーベイ 第11回 社会科学の研究手法③：事実確認とその論理的解釈 第12回 社会科学の研究手法④：結論 第13回 パワーポイントの使い方 第14回 各プロジェクトチームのテーマ発表の準備 第15回 各プロジェクトチームのテーマ発表						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：研究テーマに関係する文献を図書館で見つけて、読み込むこと（学習時間：90分） ・授業後学習：研究テーマの内容をグループでディスカッションすること（学習時間：90分）						
授業方法	各回設定したテーマについて講義する。そのテーマに即した課題にグループワークによって取り組むこと。						
評価基準と評価方法	・授業中の課題(40%)：リアクションペーパーで内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・プロジェクトの成果発表(60%)：リハーサルおよび本発表の内容を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	都市生活プロジェクト演習A							
担当教員	前田 直哉					科目ナンバー	U0207A	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活プロジェクト演習Aの目的は、自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てるとともに、個々の研究テーマにそくした基本的な技法、論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることにある。							
授業の概要	前半は自己分析を行い、現在の自分の力を認識し、将来の進路に基づきどのような力をつけるべきかについて計画を立てる。その計画において3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすか分析する。あわせて個々の研究テーマにそくした研究の基本的な技法の習得を目指し、文章理解力、文章作成能力、資料解釈力、数理的基礎力など基礎的な力を獲得する。後半はグループ討議・発表、個別調査などの授業形式を用いつつ、専門分野のレポート・実験ノート、論文作成の手法を身につける。							
到達目標	(1)「個々の研究テーマにそくした基本的な技法を習得することができる」【知識・理解】 (2)「論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることができる」【汎用的技能】 (3)「自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てることができるようになる」【態度・志向性】							
授業計画	第1回 ガイダンス (UL合同) 第2回 自己紹介 第3回 都市＝まちを記述・表現することの基礎① (UL合同) 第4回 都市＝まちを記述・表現することの基礎② (UL合同) 第5回 社会学とは① (UL合同) 第6回 社会学とは② (UL合同) 第7回 経済学とは① (UL合同) 第8回 経済学とは② (UL合同) 第9回 社会科学の研究手法①：テーマと問題意識の設定 第10回 社会科学の研究手法②：先行研究のサーベイ 第11回 社会科学の研究手法③：事実確認とその論理的解釈 第12回 社会科学の研究手法④：結論 第13回 パワーポイントの使い方 第14回 各プロジェクトチームのテーマ発表の準備 第15回 各プロジェクトチームのテーマ発表							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：研究テーマに関係する文献を図書館で見つけて、読み込むこと（学習時間：90分） ・授業後学習：研究テーマの内容をグループでディスカッションすること（学習時間：90分）							
授業方法	各回設定したテーマについて講義する。そのテーマに即した課題にグループワークによって取り組むこと。							
評価基準と評価方法	・授業中の課題(40%)：リアクションペーパーで内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・プロジェクトの成果発表(60%)：リハーサルおよび本発表の内容を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。							
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。							
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。							
参考書	授業中に適宜、紹介する。							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習B						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバー	U0207B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活プロジェクト演習Bの目的は、都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、プロジェクトをデザインする力を身につけるとともに、問題解決能力を高め、3年次演習で取り組むべき具体的な課題を発見することにある。						
授業の概要	都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、さらにプロジェクトをデザインする力を身につける。3年次の演習の内容を紹介しつつ、たとえば、ゲストスピーカーを招いたり、現地調査(フィールドワーク)を組み入れたりするなど、問題解決能力を高める授業を展開する。問題の発見、問題の明確化、情報の収集、アイデアの創出、アイデアの評定、解決策の提示といった過程において、3年次の演習で取り組むべき具体的な課題を、受講生ひとりひとりが主体的に発見し定めていくことになる。						
到達目標	(1)「プロジェクトをデザインする力を身につけることができる」【知識・理解】 (2)「問題解決能力を高めることができる」【汎用的技能】 (3)「3年次演習で取り組むべき具体的な課題を見つけ出すことができる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス (UB合同) 第2回 社会科学の研究手法①：先行研究の把握 第3回 社会科学の研究手法②：事実確認と論理的解釈 第4回 研究テーマの設定と準備① 第5回 研究テーマの設定と準備② 第6回 中間プレゼンテーション① (UB合同) 第7回 中間プレゼンテーション② (UB合同) 第8回 最終プレゼンテーションに向けての内容の修正 第9回 調査実施 (調査票作成) 第10回 調査実施 (分析と結果) 第11回 定性的調査の方法 第12回 定性的調査の実践 第13回 プレゼンテーション①：チーム発表 (UB合同) 第14回 プレゼンテーション②：チーム発表 (UB合同) 第15回 後期のまとめ						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	・授業前準備学習：研究テーマに関係する文献を図書館で見つけて、読み込むこと (学習時間：90分) ・授業後学習：研究テーマの内容をグループでディスカッションし、成果発表の準備を進めること (学習時間：90分)						
授業方法	グループワークあるいは実習・フィールドワークによって、各プロジェクトチームがそれぞれ設定したテーマに取り組み、最終的にその成果発表(プレゼンテーション)を行う。						
評価基準と評価方法	・授業中の課題(40%)：成果発表までの取り組み姿勢とリアクションペーパーの内容を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・プロジェクトの成果発表(60%)：中間プレゼンテーションおよびプレゼンテーションの内容を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習B						
担当教員	楠木 新					科目ナンバー	U0207B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活プロジェクト演習Bの目的は、都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、プロジェクトをデザインする力を身につけるとともに、問題解決能力を高め、3年次演習で取り組むべき具体的な課題を発見することにある。						
授業の概要	都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、さらにプロジェクトをデザインする力を身につける。3年次の演習の内容を紹介しつつ、たとえば、ゲストスピーカーを招いたり、現地調査(フィールドワーク)を組み入れたりするなど、問題解決能力を高める授業を展開する。問題の発見、問題の明確化、情報の収集、アイデアの創出、アイデアの評定、解決策の提示といった過程において、3年次の演習で取り組むべき具体的な課題を、受講生ひとりひとりが主体的に発見し定めていくことになる。						
到達目標	(1)「プロジェクトをデザインする力を身につけることができる」【知識・理解】 (2)「問題解決能力を高めることができる」【汎用的技能】 (3)「3年次演習で取り組むべき具体的な課題を見つけ出すことができる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス (UB合同) 第2回 社会科学の研究手法①：先行研究の把握 第3回 社会科学の研究手法②：事実確認と論理的解釈 第4回 研究テーマの設定と準備① 第5回 研究テーマの設定と準備② 第6回 中間プレゼンテーション① (UB合同) 第7回 中間プレゼンテーション② (UB合同) 第8回 最終プレゼンテーションに向けての内容の修正 第9回 調査実施 (調査票作成) 第10回 調査実施 (分析と結果) 第11回 定性的調査の方法 第12回 定性的調査の実践 第13回 プレゼンテーション①：チーム発表 (UB合同) 第14回 プレゼンテーション②：チーム発表 (UB合同) 第15回 後期のまとめ						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	・授業前準備学習：研究テーマに関係する文献を図書館で見つけて、読み込むこと (学習時間：90分) ・授業後学習：研究テーマの内容をグループでディスカッションし、成果発表の準備を進めること (学習時間：90分)						
授業方法	グループワークあるいは実習・フィールドワークによって、各プロジェクトチームがそれぞれ設定したテーマに取り組み、最終的にその成果発表(プレゼンテーション)を行う。						
評価基準と評価方法	・授業中の課題(40%)：成果発表までの取り組み姿勢とリアクションペーパーの内容を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・プロジェクトの成果発表(60%)：中間プレゼンテーションおよびプレゼンテーションの内容を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習B						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバー	U0207B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活プロジェクト演習Bの目的は、都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、プロジェクトをデザインする力を身につけるとともに、問題解決能力を高め、3年次演習で取り組むべき具体的な課題を発見することにある。						
授業の概要	都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、さらにプロジェクトをデザインする力を身につける。3年次の演習の内容を紹介しつつ、たとえば、ゲストスピーカーを招いたり、現地調査(フィールドワーク)を組み入れたりするなど、問題解決能力を高める授業を展開する。問題の発見、問題の明確化、情報の収集、アイデアの創出、アイデアの評定、解決策の提示といった過程において、3年次の演習で取り組むべき具体的な課題を、受講生ひとりひとりが主体的に発見し定めていくことになる。						
到達目標	(1)「プロジェクトをデザインする力を身につけることができる」【知識・理解】 (2)「問題解決能力を高めることができる」【汎用的技能】 (3)「3年次演習で取り組むべき具体的な課題を見つけ出すことができる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス (UL合同) 第2回 学外研修・見学① 第3回 学外研修・見学② 第4回 プロジェクトの中間発表の準備① 第5回 プロジェクトの中間発表の準備② 第6回 プロジェクトの中間発表① (UL合同) 第7回 プロジェクトの中間発表② (UL合同) 第8回 プロジェクトの中間発表③ (UL合同) 第9回 プロジェクトの最終発表の準備① 第10回 プロジェクトの最終発表の準備② 第11回 プロジェクトの最終発表の準備③ 第12回 プロジェクトの最終発表の準備④ 第13回 プロジェクトの最終発表① (UL合同) 第14回 プロジェクトの最終発表② (UL合同) 第15回 プロジェクトの最終発表③ (UL合同)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・授業前準備学習：研究テーマに関係する文献を図書館で見つけて、読み込むこと(学習時間：90分) ・授業後学習：研究テーマの内容をグループでディスカッションし、成果発表の準備を進めること(学習時間：90分)						
授業方法	グループワークあるいは実習・フィールドワークによって、各プロジェクトチームがそれぞれ設定したテーマに取り組む、最終的にその成果発表(プレゼンテーション)を行う。						
評価基準と評価方法	・授業中の課題(40%)：成果発表までの取り組み姿勢とリアクションペーパーの内容を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・プロジェクトの成果発表(60%)：中間発表および最終発表の内容を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習B						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバー	U0207B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活プロジェクト演習Bの目的は、都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、プロジェクトをデザインする力を身につけるとともに、問題解決能力を高め、3年次演習で取り組むべき具体的な課題を発見することにある。						
授業の概要	都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、さらにプロジェクトをデザインする力を身につける。3年次の演習の内容を紹介しつつ、たとえば、ゲストスピーカーを招いたり、現地調査(フィールドワーク)を組み入れたりするなど、問題解決能力を高める授業を展開する。問題の発見、問題の明確化、情報の収集、アイデアの創出、アイデアの評定、解決策の提示といった過程において、3年次の演習で取り組むべき具体的な課題を、受講生ひとりひとりが主体的に発見し定めていくことになる。						
到達目標	(1)「プロジェクトをデザインする力を身につけることができる」【知識・理解】 (2)「問題解決能力を高めることができる」【汎用的技能】 (3)「3年次演習で取り組むべき具体的な課題を見つけ出すことができる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス (UL合同) 第2回 学外研修・見学① 第3回 学外研修・見学② 第4回 プロジェクトの中間発表の準備① 第5回 プロジェクトの中間発表の準備② 第6回 プロジェクトの中間発表① (UL合同) 第7回 プロジェクトの中間発表② (UL合同) 第8回 プロジェクトの中間発表③ (UL合同) 第9回 プロジェクトの最終発表の準備① 第10回 プロジェクトの最終発表の準備② 第11回 プロジェクトの最終発表の準備③ 第12回 プロジェクトの最終発表の準備④ 第13回 プロジェクトの最終発表① (UL合同) 第14回 プロジェクトの最終発表② (UL合同) 第15回 プロジェクトの最終発表③ (UL合同)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・授業前準備学習：研究テーマに関係する文献を図書館で見つけて、読み込むこと(学習時間：90分) ・授業後学習：研究テーマの内容をグループでディスカッションし、成果発表の準備を進めること(学習時間：90分)						
授業方法	グループワークあるいは実習・フィールドワークによって、各プロジェクトチームがそれぞれ設定したテーマに取り組み、最終的にその成果発表(プレゼンテーション)を行う。						
評価基準と評価方法	・授業中の課題(40%)：成果発表までの取り組み姿勢とリアクションペーパーの内容を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・プロジェクトの成果発表(60%)：中間発表および最終発表の内容を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習B						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバー	U0207B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活プロジェクト演習Bの目的は、都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、プロジェクトをデザインする力を身につけるとともに、問題解決能力を高め、3年次演習で取り組むべき具体的な課題を発見することにある。						
授業の概要	都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、さらにプロジェクトをデザインする力を身につける。3年次の演習の内容を紹介しつつ、たとえば、ゲストスピーカーを招いたり、現地調査(フィールドワーク)を組み入れたりするなど、問題解決能力を高める授業を展開する。問題の発見、問題の明確化、情報の収集、アイデアの創出、アイデアの評定、解決策の提示といった過程において、3年次の演習で取り組むべき具体的な課題を、受講生ひとりひとりが主体的に発見し定めていくことになる。						
到達目標	(1)「プロジェクトをデザインする力を身につけることができる」【知識・理解】 (2)「問題解決能力を高めることができる」【汎用的技能】 (3)「3年次演習で取り組むべき具体的な課題を見つけ出すことができる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス (UL 合同) 第2回 学外研修・見学① 第3回 学外研修・見学② 第4回 プロジェクトの中間発表の準備① 第5回 プロジェクトの中間発表の準備② 第6回 プロジェクトの中間発表① (UL 合同) 第7回 プロジェクトの中間発表② (UL 合同) 第8回 プロジェクトの中間発表③ (UL 合同) 第9回 プロジェクトの最終発表の準備① 第10回 プロジェクトの最終発表の準備② 第11回 プロジェクトの最終発表の準備③ 第12回 プロジェクトの最終発表の準備④ 第13回 プロジェクトの最終発表① (UL 合同) 第14回 プロジェクトの最終発表② (UL 合同) 第15回 プロジェクトの最終発表③ (UL 合同)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・授業前準備学習：研究テーマに関係する文献を図書館で見つけて、読み込むこと(学習時間：90分) ・授業後学習：研究テーマの内容をグループでディスカッションし、成果発表の準備を進めること(学習時間：90分)						
授業方法	グループワークあるいは実習・フィールドワークによって、各プロジェクトチームがそれぞれ設定したテーマに取り組み、最終的にその成果発表(プレゼンテーション)を行う。						
評価基準と評価方法	・授業中の課題(40%)：成果発表までの取り組み姿勢とリアクションペーパーの内容を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・プロジェクトの成果発表(60%)：中間発表および最終発表の内容を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活論						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ	U01050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	現在進行形の都市生活から「まち」「都市」「都会」とはなにかを概観する						
授業の概要	現在、都市をめぐる環境は、インナーシティの問題に加え、商店街の衰退やオールドニュータウン化が進む一方で、都心のマンションラッシュなど都心回帰も始まっている。神戸をはじめとする都市部では、コレクティブハウジングなど新しい住まい方も生まれ、また、行政と協働で生活マナー向上の取り組みも始まっている。本講義では、都市の成り立ちも含めたハード面や、生活上のソフト面を解説し、まちに関心をもってもらえるような具体的な事例を取り上げながら、これからの都市生活の課題や展望について考えていく。						
到達目標	(1) 近代～現在の都市生活を知り、自分にとっての「まち」を考察することができる。 (2) 高度情報化社会の中の「まち」を情報化、記述し、都市情報を発信することができる。 (3) 「まちづくり」に参画することができる。						
授業計画	第1回 まちを読み解く 第2回 京都・大阪・神戸の街 第3回 街と都会。街らしさと地方性 第4回 まちのでき方。大阪アメリカ村・南船場・堀江を例に 第5回 インターネット時代と都市空間 第6回 モバイル、コンビニ化される街 第7回 都市消費生活、消費者と匿名性、生活者と実名性 第8回 情報化、記号化、広告化される街 第9回 グローバリゼーションとハイパーインダストリアル時代 第10回 「ファスト風土化」される街と商店街 第11回 都市生活と「公共」 第12回 都市生活のなかの自己決定、自己責任 第13回 「自分のまち」と居場所 第14回 コミュニティとしての都市、都会、街。ネットワーク 第15回 「わたし」の都市生活について書く						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	あらかじめ授業計画のテーマについて、自分なりの考察を深めておくこと（学習時間の目安：1時間）。街（例えば神戸）についての具体的な情報を収集し、それに応じて街を歩き、都市空間について理解すること（学習時間の目安：1時間）。						
授業方法	講義とその都度の質問。 毎回、レジュメや資料を配布します。 講義についてのリアクションペーパーを書いてください。						
評価基準と評価方法	期末試験50%。各回提出のリアクションペーパー30%、質問応答（コール＆レスポンス）、授業中の発表発言20%。						
履修上の注意	毎回、レジュメや資料を配布します。 出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることが出来ません。						
教科書							
参考書	『「街的」ということ お好み焼き屋は街の学校だ』、江 弘毅著、講談社現代新書 ISBN-10: 4061498568 『街場の大阪論』江 弘毅著、バジリコ ISBN-10: 4862381316、新潮文庫 ISBN-10: 4101319219 『広告都市・東京 その誕生と死』北田暁大著、廣済堂出版 ISBN-10: 433185017X 『アメリカ大都市の死と生』、ジェーン・ジェコブス著、鹿島出版会 ISBN-10: 4306051188 『愛するということ「自分」を、そして「われわれ」を』ベルナール・スティグレール著、新評論 ISBN-10: 4794807430 『愛と経済のロゴス カイエ・ソバージュⅢ』中沢新一著、講談社選書メチエ、ISBN-10: 4062582600						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市文化演習						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバー	U73130
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活のなかのさまざまな文化を地元神戸の実例から体験する。						
授業の概要	この演習では、生活環境とそこに暮らす人の関係を明らかにすることを目的とする。子ども、学生、高齢者など（暮らす人）と公園、商店街、街路、住宅など（生活環境）との関係に焦点をあてたテーマを設定する。受講生ごとにそれらのテーマを選択し、地域や施設などに対してフィールドワークを実施することにより現在の状況を把握する。インタビュー調査や参与観察などの調査技法を使って都市の生活を浮き彫りにし、都市の文化を学ぶ。						
到達目標	(1) 都市生活のなかの文化を読み解く感性が身につく。 (2) 実際の都市のさまざまな様相をフィールドワークを通じて体験、理解する。 (3) 都市文化創造のための具体的なテーマを見つけて、取材調査し発表することができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション。この演習の方法を説明します。 第2回 都市・街の読み解き方 第3回 都市・街の地方性。地図と暦 第4回 フィールドワークと質的調査 第5回 調査テーマの作成 第6回 調査テーマの決定 第7回 フィールドワークの準備 第8回 フィールドワーク実施 1 第9回 フィールドワーク実施 2 第10回 フィールドワークによる調査結果まとめ 1 第11回 フィールドワークによる調査結果まとめ 2 第12回 調査報告発表の準備 1 第13回 調査報告発表の準備 2 第14回 調査報告発表 1 第15回 調査報告発表 2						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	準備学習として、都市や街（自分の地元や神戸が望ましい）の文物や文化について表現された文章、写真、アートなどを読むこと（1時間）。実際に街に出て、歩き、見て、感じたことを書いたり、写真を撮ったり、スケッチする（1時間）。						
授業方法	講義と各自グループでのフィールドワークとそのまとめ、発表。						
評価基準と評価方法	試験は実施しません。発表60%。授業への参加意識と参画態度40%。						
履修上の注意	出席が3分の2に満たない学生は単位を認められません。 発言を求められたら、必ず発言すること。 水道筋商店街など、近隣の地域神戸市街での学外研修の予定あり。交通費や入場料は実費負担となる。						
教科書	その都度、レジュメや資料を配布します。						
参考書	『濃い味、うす味、街のあじ。』江 弘毅著、140B ISBN-10: 4903993264 『アメリカ大都市の死と生』ジェーン・ジェイコブス著、鹿島出版会 ISBN-10: 4306072746 『質的社会調査の方法 ― 他者の合理性の理解社会学』岸政彦ほか著、有斐閣 ISBN-13: 978-4641150379						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市文化論						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバー	U12060
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活、都市文化のなかのさまざまな「情報」の様相ついて学ぶ。						
授業の概要	この授業では、都市のなかの生活文化を扱う。現代のさまざまな情報文化は、都市という場で人間の社会生活と関わり合いながら、都市の生活文化となる。映画館や美術館、書店や喫茶店、マーケットや住宅、学校や交通機関といった都市の構成要素は、情報の発信装置であると同時に、日々の生活の一部でもある。そのような情報と生活の接する場としての都市に生成する「都市文化」の諸相を、家族、地域、消費、余暇、教育など、さまざまな生活の場面のなかに読み解きながら、情報化された現代の都市における生活文化を考える。						
到達目標	(1) 都市情報のリテラシー（情報を見極め、良質な情報を使いこなすこと）を身につける。 (2) 経済合理性と情報を軸にした過酷な消費社会のなか、「自分らしい」有意義な社会生活を送ることができる。 (3) 都会のなかで自分のコミュニティを見つけ、創出することができる、高いコミュニケーション能力の獲得。						
授業計画	第1回 オリエンテーション。この授業で何を学ぶか 第2回 家族の解体と消費社会 第3回 情報の中にある都会 第4回 都会、都市空間とメディアの変貌 第5回 都市情報と消費欲望 第6回 広告化される都市空間 第7回 ソーシャル・キャピタルについて 第8回 差異化と趣味、ライフスタイル 第9回 文化資本と階層 第10回 インターネットとメディア 第11回 都市生活とローカルズム 第12回 都市における職住隣接。「銭湯経済」「小商い」 第13回 都会のなかの拠点と居場所 第14回 都市生活とインターネット「保育園落ちた日本死ね」の衝撃 第15回 課題提出と質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	講義前の準備：教科書や参考書を読むこと（1時間）。 講義後の復習：講義で触れたテーマについて、教科書、参考書を参照しながら、学んだこと考えたことを記述しておく（課題試論作成のため）。						
授業方法	教科書に基づいた講義を行い、その都度毎回リアクションペーパーを書くこと。 毎回、レジュメや資料を配布します。 試論（1200字程度／第15回までに書いて提出）のための課題を出します。						
評価基準と評価方法	試験は実施しません。課題（1200字程度の試論）40%、各回提出のリアクションペーパー40%、質問応答（コール＆レスポンス）、授業中の発表発言20%。						
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない者は単位を与えません。						
教科書	毎回プリントを配布します。						
参考書	『街場のメディア論』 内田樹著、光文社新書 ISBN: 9784334035778 『寝ながら学べる構造主義』内田樹、文春新書 ISBN: 4166602519 『差異と欲望』石井洋二郎著、藤原書店ISBN: 4938661829 『ソーシャル・キャピタル入門-孤立から絆へ』稲葉陽二著、中公新書 ISBN-10: 412102138X 『「消費」をやめる一銭湯経済のすすめ』平川克美著、ミシマ社、ISBN-10: 49303908533						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	発酵学							
担当教員	川口 真規子					科目ナンバー	U73460	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	金曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	発酵によって作られる様々な食品について、その製造原理、歴史、食文化的な背景を学ぶ。 本学の地元・灘における酒造りの歴史、製造技術の変遷について知識を深める。							
授業の概要	ヒトは古来から微生物を利用して発酵食品を作ってきた。本講義では、①微生物とヒトとの関わりの歴史、②微生物の生物学的な分類および形態や性質の特徴、③発酵食品と食文化 について概説する。さらに、各種発酵食品の製造方法ならびに食文化的な背景について個別に解説する。							
到達目標	微生物利用による食品製造についてその原理、利用する微生物の説明ができる。【知識・理解】 各種発酵食品について、その食品の生まれた地域の気候、風土、食文化も併せて説明ができる。【知識・理解】 地元・灘の日本酒製造の歴史を理解し、日本酒の製造法・品質管理について述べるができる。【知識・理解】							
授業計画	第1回 はじめに 発酵と腐敗 第2回 微生物の分類と性質 第3回 発酵食品と食文化 第4回 酒類 ①総説 第5回 酒類 ②清酒・焼酎 第6回 酒類 ③ビール・ワイン 第7回 酒類 ④ウイスキー・ブランデー・その他の酒類 第8回 発酵調味料 ①味噌・醤油 第9回 発酵調味料 ②食酢・みりん・魚醤油 第10回 その他の発酵食品 ①納豆・漬物・水産発酵食品 第11回 その他の発酵食品 ②発酵乳製品・パン 第12回 世界の発酵食品 現代の発酵技術を用いた食品製造 第13・14回 学外研修（酒蔵見学） 第15回 まとめ 期末テスト							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：学習項目についてあらかじめ製造法など調べておく また、学外研修の前には「灘五郷」の歴史について調べておく（学習時間：1時間） 授業後：授業時に配布したプリントを再度読み返し、指示した内容についてレポートにまとめる（学習時間：1時間）							
授業方法	講義：各回テーマに沿ったグループワークを行い、その結果発表をふまえて解説・講義を行う。 学外研修：日本の伝統的な酒造りと最新の醸造技術について見学する（所要時間：約4時間）。							
評価基準と評価方法	レポート40%、期末テスト50%、授業時の態度10%							
履修上の注意	学外研修は西郷（神戸市灘区大石付近）の酒蔵見学を予定している。交通費は各自負担となる。							
教科書	なし 授業時にプリントを配布							
参考書	発酵食品学 小泉武夫編著 講談社							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	パーソナルファイナンス演習							
担当教員	前田 直哉					科目ナンバ－	U73070	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	火曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	「パーソナルファイナンス理論」に引き続き、パーソナルファイナンスの基礎知識を習得するとともに、ペアワークあるいはグループワークによってその実践能力を育成する。							
授業の概要	キャッシュフロー表を始めとしたファイナンシャルプランを作成するとともに、単利・複利、割引計算などの金利の知識を身につける。また、悪質取引などのケース分析、株式学習ゲーム、リスクマネジメントゲームなどを使い、金融制度や社会制度の理解をはかる。同時に、学生が主体的に問題を発見するために、ファイナンシャルクリニックを訪ね、インタビューすることによって、情報を収集し、ケーススタディやアンケート調査などの手法を使って、問題を分析する。グループで討議することによってコミュニケーション能力を高める。							
到達目標	(1)「パーソナルファイナンスを実践するために必要となる知識を具体例や数値計算によって理解できるようになる」【知識・理解】 (2)「パーソナルファイナンスの基礎知識(特に不動産、相続・事業継承)を習得し、その具体的説明ができるようになる」【汎用的技能】 (3)「ペアワークあるいはグループワークによって、パーソナルファイナンスの実践を身近なものとして認識できるようになる」【態度・志向性】							
授業計画	第1回 ガイダンス～不動産の基礎知識：不動産の種類と権利、不動産に関する調査、不動産価格に関する調査 第2回 不動産取引：宅地建物取引業法、不動産の売買契約、不動産の貸借契約 第3回 不動産に関する法令：都市計画法、建築基準法、区分所有法、農地法、国土利用計画法 第4回 不動産にかかる税金①：不動産取得税、登録免許税、消費税、印紙税、固定資産税、都市計画法 第5回 不動産にかかる税金②：譲渡税、不動産所得 第6回 資金計画と6つの係数：終価係数、現価係数、年金終価係数、減債基金係数、資本回収係数、年金現価係数～中間試験 第7回 マネープランニング・ゲーム①：20代、30代のマネープランニング 第8回 マネープランニング・ゲーム②：40代、50代のマネープランニング 第9回 ゲストスピーカーによる講義 第10回 贈与と法律、税金①：贈与の意義と贈与契約、贈与の種類、民法の規定、贈与税の課税、財産と非課税財産 第11回 贈与と法律、税金②：贈与税の計算、相続時精算課税制度、直系尊属からの住宅取得等資金の贈与を受けた場合の非課税制度、贈与税の申告と納付 第12回 相続と法律：相続人と相続分、代襲相続、遺産分割、相続の承認と放棄、遺言 第13回 相続税：相続税、相続税の課税財産、相続税の非課税財産、債務控除、相続税の計算、相続税の申告、相続税の納付 第14回 相続財産の評価：不動産以外の評価、不動産の評価 第15回 授業のまとめと定期試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードについて、その関係文献を図書館で見つけて、読み込むこと(学習時間：90分) ・授業後学習：授業内で指定したテーマ・課題についてレポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出すること(学習時間：90分)							
授業方法	各回設定のテーマについて講義し、練習問題を出す。その練習問題にペアワークあるいはグループワークによって答えること。							
評価基準と評価方法	・定期試験(30%)：第10～14回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。 ・中間試験(30%)：第1～6回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・平常点(40%)：リアクションペーパー(講義内容に基づいた練習問題)と松蔭manabaコースコンテンツへの提出物で内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。							
履修上の注意	・出席回数が規定に満たない場合は、原則として評価の対象としない。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・就職活動や公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席する場合は、証明書とともに、欠席届を提出した場合にのみ、考慮の対象とする。 ・講義への理解度を確保するため、講義中に小テストを行い、その結果は平常点をカウントする上での材料とする。							
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。							
参考書	授業中に適宜、紹介する。							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	パーソナルファイナンス理論						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバー	U73060
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	個人がライフプランに基づいた目標を実現するために必要となるパーソナルファイナンスの基本的知識を習得する。						
授業の概要	個人がライフプランに基づいた目標を実現するために、合理的に資産・負債を管理する方法を学び、貯蓄や資金運用、ローン、年金、保険、税金、相続などの金融活動とそれに関連する市場や取引、商品サービスなどを学ぶことによって市民的資質を育成する。パーソナルファイナンスの領域として、個人の資産管理(ファイナンシャルプランの作成、資産の運用、借入、リスクへの備え)、金融制度の理解、経済環境の理解、社会制度の知識を身につける。						
到達目標	(1)「ライフプランに基づいた目標を達成する上での、パーソナルファイナンスの重要性を理解できるようになる」【知識・理解】 (2)「パーソナルファイナンスの基礎知識(特にタックスプランニング)を習得し、その具体的説明ができるようになる」【汎用的技能】 (3)「パーソナルファイナンスとは学生時代から実践できるものであると認識できるようになる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 所得税の基本：税金の種類、所得税の基本 第3回 各所得の計算①：利子所得、配当所得、不動産所得、事業所得、給与所得 第4回 各所得の計算②：退職所得、山林所得、譲渡所得、一時所得、雑所得 第5回 課税標準の計算：課税標準の計算、損益通算、損失の繰越控除 第6回 所得控除①：基礎控除、配偶者控除、配偶者特別控除、扶養控除、障害者控除、寡婦(寡夫)控除、勤労学生控除、社会保険料控除 第7回 所得控除②：生命保険料控除、地震保険料控除、小規模企業共済等掛金控除、医療費控除、雑損控除、寄附金控除 第8回 税額の計算と税額控除：税額の計算、税額控除、復興特別所得 第9回 所得税の申告と納付：確定申告、源泉徴収、青色申告～中間試験 第10回 個人住民税、個人事業税：個人住民税、個人事業税の申告と納付 第11回 個人の生命保険と税金①：生命保険料を支払ったときの税金、生命保険料控除額、年金保険料控除が受けられる保険契約 第12回 個人の生命保険と税金②：保険金等を受け取ったときの税金、年金保険契約に関する権利評価 第13回 法人契約の生命保険と税金：法人が支払った保険料の経理処理、法人が受け取った保険金等の経理処理 第14回 損害保険と税金：個人の損害保険と税金、法人契約の損害保険と税金 第15回 授業のまとめと定期試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードについて、その関係文献を図書館で見つけて、読み込むこと(学習時間：90分) ・授業後学習：授業内で指定したテーマ・課題についてレポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出すること(学習時間：90分)						
授業方法	各回設定のテーマについて講義し、練習問題を出す。その練習問題にペアワークあるいはグループワークによって答えること。						
評価基準と評価方法	・定期試験(30%)：第11～14回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。 ・中間試験(30%)：第1～9回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・平常点(40%)：リアクションペーパー(講義内容に基づいた練習問題)と松蔭manabaコースコンテンツへの提出物で内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・出席回数が規定に満たない場合は、原則として評価の対象としない。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・就職活動や公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席する場合は、証明書とともに、欠席届を提出した場合にのみ、考慮の対象とする。 ・講義への理解度を確認するため、講義中に小テストを行い、その結果は平常点をカウントする上での材料とする。						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	ヒューマンリソースマネジメント論						
担当教員	楠木 新					科目ナンバ	U72570
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	”人”という資源は、他のモノや情報やカネにはない、非常に特殊な特徴を持っている。まず、”人”は、①「他の資源を動かす原動力」になる。②「育てることができる資源」であり、③人は感情や思考力を持つ。本講座では、経営者の立場に立って、人という資源をマネジメントするするときには、マネジメントされる人に配慮することを理解し、人が他の資源と比べてマネジメントが非常に難しいことに対しての理解を深める。						
授業の概要	ヒト・モノ・カネ・情報という企業の4つの経営資源のうち、この講義では”人”のマネジメントのあり方について考えます。受講生が企業に入社した場合、企業の中でどのように評価されて給与が払われるのか、また企業の中でどのように自分の能力やスキルを発揮して、よりよい企業人生を送るかについて自分の視点で学ぶ。						
到達目標	・主に社員に関わる人事管理の基本を学び、どのような現実的諸問題が発生しているかについて理解をする。 ・昨今のアップトゥデイトな「ライフ・ワーク・バランス」、「働き方改革」の内容も理解する。 人的資源管理に関する基本的な知識を獲得することを目的とする。						
授業計画	第1回 導入、人的資源管理の沿革 第2回 人的資源管理とは何か 第3回 日本型人事制度・運用の特徴 第4回 社員に対する雇用管理の基本 第5回 賃金制度・報酬運営 第6回 年功序列と成果主義 第7回 欧米の賃金・評価制度 第8回 男女雇用機会均等法についての理解 第9回 労働時間管理の基本 第10回 労使関係管理(労働組合と会社との関係) 第11回 ワーク・ライフ・バランスの考え方 第12回 「働き方改革」について 第13回 副業禁止の緩和について 第14回 採用・退職管理について 第15回 人的資源管理のまとめ、社員の企業におけるライフサイクル						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	企業の人的資源管理に関する新聞などの情報について、感覚を磨くこと。 受講者各自のトピックスの発表も予定している(各自の学習時間：3時間程度)。 終盤の授業では、小テストを実施するので(おさらいの学習時間：4時間程度)						
授業方法	講義を基本とするが受講生との対話形式も取り入れる。グループワークをすることもある。授業で見解を求めることがあるが、積極的な発言を期待したい。						
評価基準と評価方法	出席と毎回の授業での記入するシート、および試験で総合的に評価する。						
履修上の注意	講義全体の2/3の出席が確保できない場合は受講資格を失う・ 20分以上の遅刻は欠席と判定。 受講マナー(私語など)も評価に加味する						
教科書	授業ごとに資料を配布する。						
参考書	・「経験から学ぶ 人的資源管理論」(有斐閣ブックス) ・「人事部は見ている。」(日経プレミアシリーズ)						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	被服材料学						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバー	U72170
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の材料である糸、布、その他の素材について学ぶ。						
授業の概要	被服繊維学では多種多様な繊維材料について学んだ。本講義では、繊維から作られる糸や織物や編物の他、皮革や羽毛に至るさまざまなアパレル材料の特徴と、被服に要求される消費性能について解説する。						
到達目標	代表的な被服材料の種類と特徴を説明することができる。 アパレル製品の消費性能と被服材料との関係を説明することができる。 身の回りのアパレル製品について、消費者の視点から考えを述べるすることができる。						
授業計画	第1回：はじめに 被服材料と消費性能 第2回：糸の種類と構造 1 糸の分類 第3回：糸の種類と構造 2 恒重式番手 第4回：糸の種類と構造 3 恒長式番手とより構造 第5回：布の組織と種類 1 織物 第6回：生地見本帳の作成 第7回：生地見本帳の説明 第8回：まとめと中間試験 第9回：布の組織と種類 2 編物 第10回：その他の被服材料 1 不織布、天然皮革 第11回：その他の被服材料 2 合成皮革、毛皮 第12回：その他の被服材料 3 レース、羽毛 第13回：衣服材料の性質 第14回：まとめと期末試験 第15回：学外研修、課題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：テキストの該当箇所を読んでおくこと（30分） 授業後学習：復習と課題（90分）						
授業方法	講義、VTR、演習、学外研修（神戸ファッション美術館※予定）						
評価基準と評価方法	平常点 40％、試験 60％、試験は中間と期末の2回実施する。						
履修上の注意	1. 学外研修の交通費等は自己負担。実施は授業時間外になることがある。 2. 履修の対象者 被服材料学実験を希望する場合は、被服材料学（講義）も履修しなければならない。 3. 前期開講の被服繊維学は、被服材料学の基礎となる内容なので、可能な限り受講することが望ましい。 4. 授業時に課題を出すことがあるので、積極的に取り組むこと						
教科書	『衣服材料の科学』島崎恒蔵 編著 建帛社、ISBN 9784767910499						
参考書	『新稿 被服材料学一説と実験』中島利誠 編著、光生館 ISBN 4332100476						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	被服材料学実験							
担当教員	花田 美和子					科目ナンバー	U23130	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	木曜1～2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	繊維、糸、布の物理学的実験							
授業の概要	被服に要求される性能はさまざまである。被服を構成する繊維、糸、布の物理的性質を学ぶことは、これらを解明し、よりよい衣生活に生かしていく上で欠かせない。ここでは被服材料学で得た知識をもとに実験を行い、それらの方法を理解するとともに、得られた結果から試料の性能を評価する。							
到達目標	測定器類の使い方を身につけ、正しく測定をすることができる。 実験結果を読み取り、適切に評価・考察することができる。 指定された方法に従ってレポートを作成することができる。							
授業計画	第1回：繊維の鑑別―顕微鏡による繊維の観察 第2回：繊維の鑑別―繊維の燃焼性と比重 第3回：繊維の鑑別―染色法、混用率測定 第4回：糸の太さ 第5回：糸の撚り 第6回：織物の基本構造 第7回：編物の基本構造 第8回：織物の水分率 第9回：布の吸水性 第10回：布の防しわ性と剛軟性 第11回：布の保温性、糸の引張強さ 第12回：布の通気性と引き裂き強さ 第13回：布のドレープ性と摩擦強さ 第14回：布のピリング 第15回：布の撥水性、まとめ							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：テキストの該当箇所を読み、実験内容を把握しておくこと。 授業後学習：レポートを作成し、次の授業時に提出すること。							
授業方法	個人またはグループによる実験							
評価基準と評価方法	平常点（40％）、レポート（60％）							
履修上の注意	1. 履修の対象者：被服材料学（講義）を履修した学生を対象とする。 2. 実験科目であるので、遅刻、欠席をしないようにすること。 3. 白衣着用のこと。 教員の連絡先：hana[at]shoin.ac.jp ※[at]を@に置き換える。 オフィスアワー：前期（月）13:10～14:40。後期（火）10:40～12:10（11号館2階の研究室）							
教科書	「衣服材料学実験」松梨久仁子、平井郁子 編著、朝倉書店 ISBN 9784254606348							
参考書	『被服材料実験書』石川欣造 著、同文書院 ISBN 9784810311044							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	被服心理学						
担当教員	牛田 好美					科目ナンバー	U72210
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	被服行動と人間のさまざまな関わりについて考えていきます。						
授業の概要	人が被服を着用する目的には、身体保護や体温調節など、身体内部の生理的平衡状態を保ち、生命維持や健康増進をめざすことがあります。それに加えて、社会的、心理的な目的もあります。すなわち、被服によって自己を確認したり、変身願望を充足させたり、外見の魅力を高めたり、周囲へ同調したり、性的なアピールをしたりします。この授業では、こうした社会的・心理的效果をもつ被服行動について学習し、被服行動と人間のさまざまな関わりについて考える力を養います。						
到達目標	- 被服の社会的・心理的機能を理解することができる。 - 日常生活をより良くするために、被服の社会的・心理的效果を考え、被服に関する行動を行うことができる。						
授業計画	第1回 被服への社会心理学的アプローチ 第2回 被服と自己意識（1）ボディ・イメージとは 第3回 被服と自己意識（2）社会で形成されるボディ・イメージ 第4回 被服と対人認知（1）印象形成 第5回 被服と対人認知（2）自己管理、自己呈示、役割理論 第6回 被服と非言語的コミュニケーション 第7回 被服と対人行動 第8回 被服と集団行動 第9回 被服とジェンダー 第10回 流行の普及と採用 第11回 個人発表（1） 第12回 個人発表（2） 第13回 個人発表（3） 第14回 前期授業の質疑応答 第15回 前期試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	普段から、新聞や雑誌などをよみ、社会情勢に敏感になっておいてください。 授業前準備学習：各回授業で扱うテーマのキーワードについて下調べをする（学習時間2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間2時間）						
授業方法	主に、講義形式でおこないますが、テーマに沿った個人発表（プレゼンテーション）もおこないます。必要に応じて資料を配布します。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物（30%）、個人発表とレポート（40%）、試験（30%）により総合的に評価します。 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパーの内容・記述の的確さ等を評価します。 個人発表（プレゼンテーション）とレポート：授業内容から各自テーマを設定し、調べた内容を発表およびレポートにまとめ提出してもらいます。調べた内容の深さや広がりについて評価します。 試験：授業で扱ったテーマに対する理解度を評価します。						
履修上の注意	座席を指定します。						
教科書	21世紀の社会心理学シリーズ8 高木修（監修） 被服行動の社会心理学 神山進（編）北大路書房						
参考書	授業内で紹介します。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	被服整理学						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ－	U72180
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の洗浄と管理について学ぶ。						
授業の概要	日常の被服の手入れや季節ごとの保管から最終的な廃棄にまでを取り扱う。特に、被服整理の中心となる洗濯について科学的な視点から解説し、さらに柔軟剤やアイロンによる仕上げや虫害による損傷を防ぐための適切な保管方法についても解説する。到達目標は、被服の洗浄理論を説明すること、素材に応じた適切な管理方法を選択することができること、洗濯や管理によって生じたトラブルの原因を考えることができることである。						
到達目標	・被服の洗浄理論を説明することができる。 ・素材に応じた適切な管理方法を選択することができる。 ・洗濯や管理によって生じたトラブルの原因を考えることができる。						
授業計画	第1回：衣服の汚れ 第2回：洗濯用水と衣料用洗剤～洗濯用水 第3回：洗濯用水と衣料用洗剤～洗剤 第4回：洗剤の成分と洗浄作用～界面活性剤水溶液の性質 第5回：洗剤の成分と洗浄作用～陰イオン、非イオン界面活性剤 第6回：まとめと中間試験 第7回：洗剤の成分と洗浄作用～陽イオン、両性イオン界面活性剤 第8回：洗剤の成分と洗浄作用～配合剤の種類と洗浄作用 第9回：洗濯機、家庭洗濯 第10回：洗浄力の試験法と評価 第11回：機械作用の試験法と評価 第12回：漂白剤と増白、しみ抜き 第13回：衣服の保管、商業洗濯 第14回：取扱い絵表示、衣服の廃棄とリサイクル、期末試験 第15回 試験の復習、衣料品の品質管理（ゲストスピーカー）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所の予習（30分） 授業後学習：授業内容の整理、課題、まとめプリント（90分）						
授業方法	講義、DVD、ゲストスピーカーによる講義、ディスカッション等を含む。						
評価基準と評価方法	平常点（受講態度、課題）40％、試験 60％ 試験は中間と期末の2回おこなう。						
履修上の注意	授業中の小課題は、必ず授業中に提出すること。						
教科書	『被服整理学』 社団法人日本衣料管理協会刊行委員会編 社団法人日本衣料管理士						
参考書	『洗剤と洗浄の科学』 中西茂子著 コロナ社 978-4339076837						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	被服整理学実験						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ	U22110
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	被服の洗濯・洗浄と染色に関する実験						
授業の概要	日常の被服管理において、洗濯は最も中心的な役割を果たす。本実験では、洗剤の主成分である界面活性剤の作用と洗濯の諸条件、色素の分解（漂白）や吸着（染色）、染色物の色の落ちにくさ（堅ろう度）に関する実験を行う。						
到達目標	測定器類の使い方を身につけ、正しく測定をすることができる。 実験結果を読み取り、適切に評価・考察することができる。 指定された方法に従ってレポートを作成することができる。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：界面現象 第3回：界面活性剤の性質と作用 第4回：石けんの製造 第5回：洗浄試験、水洗濯、ドライクリーニング 第6回：精練・漂白・増白 第7回：しみぬき 第8回：洗濯に伴うトラブル 第9回：西洋茜による染色 第10回：酸性染料、直接染料による染色と染色条件の検討 第11回：反応染料による三原色配合染色 第12回：分散染料による染色、ナフトール染料による染色 第13回：建て染め染料による染色 第14回：染色堅ろう度試験 第15回：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：テキストを読み、実験内容を把握しておく。（30分） 授業後：レポートを作成する。（90分）						
授業方法	個人またはグループによる実験						
評価基準と評価方法	平常点 50%、レポート 50%						
履修上の注意	被服整理学も併せて履修すること。 遅刻、欠席をしないこと。 安全な靴を着用し、必要に応じて白衣着用のこと。						
教科書	テキスト（プリント）配布						
参考書	『被服整理学』 社団法人日本衣料管理協会刊行委員会編 社団法人日本衣料管理士						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	被服繊維学						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバー	U72160
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の材料である繊維について学ぶ。						
授業の概要	被服の材料である綿や羊毛などの天然繊維の生産工程、化学繊維の原料や開発の歴史に触れながら、被服材料である繊維の種類と性質について学ぶ。また、さまざまな機能の付与した新しい繊維についても解説するとともに、生活環境と繊維との関わりについて考察する。到達目標は、被服を構成する繊維の種類と性質を説明することができること、繊維素材と着用目的に関連づけ、着用目的に合った繊維素材を選択することができることである。						
到達目標	・被服を構成する繊維の種類と性質を説明することができる。 ・自分の被服の繊維素材を調べ、着用目的に照らし合わせて問題点を挙挙することができる。 ・着用目的に合った繊維素材を選択することができる。						
授業計画	第1回：被服の材料、繊維について 第2回：天然繊維 植物繊維～綿① 第3回：天然繊維 植物繊維～綿② 第4回：天然繊維 植物繊維～麻 第5回：天然繊維 動物繊維～羊毛 第6回：天然繊維 動物繊維～絹 第7回：まとめと中間試験 第8回：化学繊維 再生繊維 第9回：化学繊維 半合成繊維 第10回：化学繊維 合成繊維～ナイロン 第11回：化学繊維 合成繊維～ポリエステル 第12回：化学繊維 合成繊維～ビニロン、生分解性繊維、他 第13回：無機繊維～ガラス・炭素・金属繊維、高機能繊維 他 第14回：まとめと期末試験 第15回：試験の復習、最終課題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所の予習（90分） 授業後学習：授業内容の整理、課題、まとめプリント（90分）						
授業方法	講義、DVD、ディスカッション等を含む。						
評価基準と評価方法	平常点（受講態度、ワークシート記入状況）：40％、試験：60％ 試験は中間と期末の2回おこなう。						
履修上の注意	授業中の小課題は、必ず授業中に提出すること。						
教科書	『衣服材料の科学』島崎恒蔵 編著 建帛社、ISBN 9784767910499						
参考書	『新稿 被服材料学—概説と実験』中島利誠 編著、光生館 ISBN 4332100476 『生活のための被服材料学』日下部信幸 著、家政教育社、ISBN 9784760602773						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	フードコーディネート論							
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバー	U72500	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	食物のおいしさについての基礎的な知識を持ち、食べる人がこの食に対して何を求めているのかの要望を察知してコーディネートすることを考える！（フードスペシャリストの資格試験科目）							
授業の概要	食に関する様々な場において複雑な状況を調整し、それぞれの要求に沿って満足できる状況を演出することがフードコーディネートには求められている。その活動範囲は、家での食卓だけでなくレストランや食品を販売するスーパーやデパ地下、食に関する情報を発信するイベントやテレビ、広告などの企画、また知識や技術を伝達する食育、さらには店舗経営など極めて広い。 食に関する場面において満足できる状態を演出するということは、「美味しいものを食べる」だけでなく、「美味しいものを美味しく食べる」あるいは「美味しいものを美味しく食べさせる」ことであり、食物自体の美味しさに加えて食べる人の体調やその食物に対する心情、食べる環境などが関わる総合的な場面を構築することである。 そこで本講義では、世界無形文化遺産に登録された和食をはじめ、イタリアンや中国料理など世界各国の食生活や食文化を学び、昔の経験に基づいて築かれた伝統技術（例えば包丁の扱い方やテーブルマナー）や知識の理解を深め、食生活の楽しさを演出できる工夫を考える。 さらに昨今大きな課題である食育、食の安全性について現状を理解するとともに、なぜこのような問題が生じたのかを考えていく。							
到達目標	①食には幅広い役割（体をつくる役割、コミュニケーションを育むための場、教育の場、楽しむ場、その他）があることを理解し、実践出来るようになる。 ②食教育で利用できる楽しい教材を考えることができる。 ③楽しい食空間を演出できるようコーディネート力をつける。							
授業計画	第1回 フードコーディネートの基本理念 第2回 食事の文化（日本の食事の歴史） 第3回 食事の文化（外国の食事） 第4回 食卓のコーディネート 第5回 食卓のサービスとマナー（日本料理のサービスとマナー） 第6回 食卓のサービスとマナー（中国料理・西洋料理・その他のサービスとマナー） 第7回 メニュープランニングの要件 第8回 食空間のコーディネート（理論） 第9回 食空間のコーディネート（実践） 第10回 フードサービスマネジメント（マネジメントの基本と起業する意義） 第11回 フードサービスマネジメント（投資計画の作成・収支計画の作成・売上） 第12回 食企画の実践コーディネート（食企画の流れ） 第13回 食企画の実践コーディネート（食企画に必要な基礎スキルと実践現場の現状） 第14回 食育の現状問題と課題 第15回 フードコーディネートの今後の課題とまとめ							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って、教科書の必要な箇所を読んでおくこと。また、食に関する資料を集めておくこと。（60分） 授業後：復習をし、要点をまとめておくこと。（60分）							
授業方法	講義 場合によって実習などを取り入れることがある							
評価基準と評価方法	レポートとプレゼンテーション（各1回ずつ）20%、小テスト20%（1回）、期末テスト60%							
履修上の注意	①20分以上の遅刻は欠席扱いとする ※講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 ②学外実習を行うこともある。それに伴う交通費や入場料などは自己負担となる。 ③アクティブラーニング（グループワーク、ディスカッション）を積極的に取り入れる。							
教科書	（社）日本フードスペシャリスト協会編「三訂 フードコーディネート論」ISBN:978-4-7679-0440-5							
参考書	随時紹介する。							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	フードスペシャリスト論							
担当教員	川口 真規子					科目ナンバー	U23490	
学期	後期 前半		曜日・時限	木曜1～2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	フードスペシャリストの概念を理解し、フードスペシャリストとして活躍できる知識を修得する。							
授業の概要	フードスペシャリストが持つ専門性と役割について概説する。また、食物学、食品官能評価・鑑別などのフードスペシャリスト資格認定試験に出題される分野についてのまとめと試験対策も行う。							
到達目標	フードスペシャリストが持つ専門性について理解する。 フードスペシャリスト資格認定試験合格を目指し、試験対策ができる。							
授業計画	第1回：フードスペシャリストの概念 第2回：人類と食物 第3回：世界の食 第4回：日本の食 第5回：現代日本の食生活・食品産業の役割 第6回：食品の品質規格と表示 第7回：食情報と消費者保護 第8回：まとめ①、小テスト 第9回：「フードスペシャリスト論」過去問の傾向と対策 第10回：資格試験問題演習と解答・解説① 第11回：資格試験問題演習と解答・解説② 第12回：資格試験問題演習と解答・解説③ 第13回：資格試験問題演習と解答・解説④ 第14回：資格試験問題演習と解答・解説⑤ 第15回：まとめ②、期末テスト							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って教科書の該当するところを読み、演習問題についてはあらかじめ解いておく。 （学習時間：1時間） 授業後：過去問題演習で不正解だった箇所を再度を解きなおし、関連する内容について教科書でもう一度学習しておく。（学習時間：1時間）							
授業方法	講義：演習授業の時には問題の正誤の解説を行い、関連する内容について講義を行う。							
評価基準と評価方法	授業態度10%、小テスト40%、期末テスト50%							
履修上の注意	授業外における学習をしっかりと行うこと。							
教科書	四訂フードスペシャリスト論第4版 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 2019年版フードスペシャリスト資格試験過去問題集 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社							
参考書								

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	保育・看護学							
担当教員	寺村 ゆかの					科目ナンバー	U72020	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。							
授業の概要	高齢化、少子化、核家族化が一般的となった現代、若い夫婦が健全な生活を営むのには多大の努力が必要である。出産や死亡は病院が普通となり、医学の進歩により家庭での看護の意義も変容してきた。育児では家庭が主体であることに変わりはないが、保育所や幼稚園も無視できない。 本講義では、乳幼児の発育、家族の発達過程で生じるさまざまな健康の問題に対し、解決方法や家庭での看護のあり方、具体的な看護技術について学ぶ。さらに、より健康的なライフスタイルを獲得するためには何が必要かを考える。							
到達目標	1. 子どもの成長・発達の基本を理解するとともに、子育てに必要な知識と態度を身につけることができる 2. 現代社会における子育て支援の現状と課題を知り、それらについての自分の意見を表明することができる							
授業計画	第1回 授業のオリエンテーション／保育とは何か 第2回 成長と発達 第3回 妊娠期の女性（母親）の心身の変化と胎児の成長・発達 第4回 新生児・乳児期の心身の成長・発達 第5回 幼児期の心身の成長・発達 第6回 乳幼児期の人間関係の発達 第7回 乳幼児の健康（かかりやすい病気と家庭での看護）管理（家庭での看護実習） 第8回 乳幼児期におこりやすい事故とその予防 第9回 子どもへの接し方（子ども園や地域の子育て支援施設での実習） 第10回 子どもの遊びの発達 第11回 子どもの文化 第12回 家庭保育の現状と課題 第13回 保育サービスの現状と課題 第14回 地域の子育て支援の現状と課題 第15回 まとめ							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：毎回の講義の最後に、次回の講義内容に関係する「キーワード」を提示するので、それについて次回の授業までに自己学習をしておく。授業ではその「キーワード」についての質問を行い、学生の皆さんの意見等を求めるので、答えられるように準備しておく。＜学習時間90分＞ 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点を復習し、それに関する新聞記事や文献等を読む。＜学習時間90分＞							
授業方法	講義が中心であるが、子どもが病気になった時のケアの方法や現代の子育て家庭が抱える課題などの事例検討の際には、演習（グループワークもしくはペアワーク）も行う。							
評価基準と評価方法	授業内での提出物 70% 最終レポート 30% 授業内での提出物：毎回（1～14回）の授業中に作成するミニレポート 授業のテーマについての理解度の確認を行い、さらにレポート内容記述の的確性を評価する。 最終レポート：到達目標1と2についての到達度を確認する。 授業内で作成したミニレポートについては、翌週の授業で紹介・解説する。							
履修上の注意	出席回数が開講日数の2/3に満たないものには単位認定を行わない。 携帯電話・スマートフォン等の使用を禁止する。							
教科書	なし。 毎回レジュメを配布する。							
参考書	「保育の心理学」伊藤篤 編著（2017）ミネルヴァ書房 ISBN:978-4-623-07956-8							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	ホスピタリティと産業							
担当教員	福田 洋子					科目ナンバー	U73600	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、産業におけるホスピタリティの価値を考察する。							
授業の概要	産業とホスピタリティとの関連の深さから産業群は大きく5群に分けられる。ここでは、医療・介護事業、宿泊産業、外食産業、旅行産業、観光・レジャー産業から代表的な企業を取り上げ、その企業の発展、消滅にホスピタリティがどのように関係したのか、などを考察し、上質なホスピタリティの実践につなげる。							
到達目標	(1)ホスピタリティに関する基礎知識や専門用語を理解し説明することができる【知識・理解】 (2)ホスピタリティ産業に必要とされる人材像を把握し、めざすことができる【態度・志向性】 (3)また、企業の収支例を考察することで成否要因を推測することができる【知識・理解】							
授業計画	1. オリエンテーション 2. ホスピタリティとは（その歴史と文化） 3. 主なホスピタリティ産業 4. 医療・介護事業 5. 企業研究 6. 宿泊産業（ウェディングを含む） 7. 企業研究（ゲストスピーカー招聘予定） 8. 外食産業 9. 企業研究 10. 旅行産業（航空を含む） 11. 企業研究 12. 観光産業（レジャーを含む） 13. 企業研究 14. まとめとふりかえり 15. 質疑応答と期末試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	グローバルな視点を持ちホスピタリティ産業界の動向を観察する。そして、特長のある企業をフォローする。各自の得意分野（興味がある）の産業が明確になるよう、情報収集をしておきましょう。企業研究・訪問、OG訪問につながるように、毎日新聞やWebニュースのために、少なくとも1時間かけましょう。結果をスクラップしておき、活用できるようにしましょう。							
授業方法	講義と演習 グループディスカッションや発表を実施する。 機会があれば、企業現場への見学や現地での実習を実施したい。							
評価基準と評価方法	定期試験70%とその他30%（課題の提出を含む）の総合評価とする。 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。							
履修上の注意	社会人としての基本姿勢を備えていることを要請します。無断欠席、遅刻、マナー違反はホスピタリティの対極にあります。 企業で実施されているとおり、口頭による指示をノートにとることを習慣としてください。							
教科書	『ホスピタリティ・マネジメント』、服部 勝人、丸善株式会社、ISBN4-621-04901-1 C0234							
参考書	『ポスト新産業革命ー「人口減少」x「AI」が帰る経済と仕事の教科書ー』、加谷 珪一、（株）CCCメディアハウス、ISBN978-4-484-18210-0							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	マーケティング論							
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバー	U12090	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ヒット商品の誕生背景を取り上げながら、商品開発・流通システム・販売促進・価格そしてブランド育成・管理等、マーケティングの基礎的な考え方を学習する							
授業の概要	身の回りにあるモノの中には高品質なモノ、革新的なモノなど、たくさんのモノが登場している。では、これらのモノはどのように誕生したのだろうか。また、どのように魅力ある商品として、売り出されているのだろうか。誰もが知っているメーカーの製品開発（ブランド開発）の背景には何があったのか、具体的なケースを取り上げ、マーケティングの理論と組み合わせながらマーケティングの面白さ・難しさについて理解を深めることを目的とする。							
到達目標	①日常の変化に対するマーケティングの仕掛けについて興味・関心を高めることができる。 ②生活システムにおけるマーケティングの役割に気が付くことができる。（知識が身に付く） ③商品開発の裏側を読み解き、自らの考えを述べることができる。 ④具体的な事例をもとに商品の違いを自ら説明できるようになる。 ⑤商品開発の難しさ・面白さを理解することができる。							
授業計画	第1回 マーケティング発想の経営 第2回 マーケティングのパラダイム革新 第3回 マーケティングの基本概念 第4回 戦略的マーケティング 第5回 製品のマネジメント 第6回 価格のマネジメント 第7回 広告のマネジメント（WEB他） 第8回 広告のマネジメント（メディア他） 第9回 チャネル戦略 第10回 サプライチェーンのマネジメント 第11回 営業のマネジメント 第12回 顧客関係のマネジメント（ゲスト・スピーカーを予定） 第13回 顧客理解のマネジメント 第14回 ブランド構築のマネジメントと組織の在り方 第15回 マーケティングにおける社会性と倫理性							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】流行のものや話題のものを常に把握しておく。（街の変化などにも敏感にキャッチしてください）（60分） 【授業後】授業の復習と共に新聞・雑誌は必ずよんでおくこと。（60分）							
授業方法	講義 【実務経験のある教員等による授業】 マーケティング&リサーチ事業の代表として食品マーケティングを中心とする商品開発を行った経験を生かし具体的な事例を提供しつつ授業を進め製品開発についての知識を教える。							
評価基準と評価方法	中間テスト（20％）、レポート（2回）（20％）、期末試験（60％）によって総合的に判断する。							
履修上の注意	①消費者に指示される商品の特徴とは何か？常に考えておいてください。 ②授業中の携帯電話やメールの使用、居眠り、私語、途中退出・遅刻等に対しては厳しく対処する。 ※20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ※講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 ③新聞は必読							
教科書	石井淳蔵・廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社、2011年							
参考書	随時紹介する。							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	リーダーシップ論						
担当教員	楠木 新					科目ナンバー	U72560
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	本講義では、これまでのリーダーシップ論の展開を概観し、初期のリーダーシップ論から現代のリーダーシップ論までどのような理論的展開と進歩があったのかを明確にしたうえで、新しいリーダー育成法としての「リーダーシップ開発論」の観点から、「リーダーは生まれつきではなく育成できる」という考え方にに基づき、リーダーシップ「発生・発現」の中核にある要素、リーダーシップコア（能力、人間性、一貫性からなる）について講義する。						
授業の概要	リーダーシップ論を概観したうえで、企業の中で「ヒト」をどのように育てるか、個人はどのように自分の能力やスキルを高めるかについて考える。自身が企業に入社した場合にどのように成長して、よりよい企業人生を送るかを自らの視点で学んでほしい。						
到達目標	①リーダーシップ論の基本を理解する ②企業における人材開発の基本部分を理解する ③自己の能力やスキルの発揮について身近な課題に結び付けて考える ・組織のリーダーシップに関する基本的な知識を取得することを目指す。						
授業計画	第1回 導入とリーダーシップ概観 第2回 リーダーシップの資質理論 第3回 リーダーシップの行動理論 第4回 リーダーシップのコンティジェンシー理論 第5回 働く人のモチベーション1（経済人モデル） 第6回 働く人のモチベーション2（人間関係モデル） 第7回 働く人のモチベーション3（自己実現モデル） 第8回 企業の教育・訓練 第9回 OJTと自己啓発 第10回 経営者のリーダーシップ例 第11回 中間管理職のリーダーシップ例 第12回 メンタリングとコーチング 第13回 女性のリーダーシップ例 第14回 男女雇用均等法による女性の働き方の変化 第15回 女性活躍推進など。リーダーシップ総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	企業の人的資源管理に関する新聞などの情報について、感覚を磨くこと。 受講者各自のトピックスの発表も予定している（各自の学習時間：3時間程度）。 終盤の授業では、小テストを実施するので（おさらいの学習時間：4時間程度）						
授業方法	講義と各自の発表。必要に応じてグループワークを取り入れることもある。 授業で見解を求めることがあるが、積極的な発言を期待したい。						
評価基準と評価方法	出席と毎回の授業での記入するシート（40%）、試験（60%）で総合的に評価する。						
履修上の注意	講義全体の2/3の出席が確保できない場合は受講資格を失う・ 20分以上の遅刻は欠席と判定。 受講マナー（私語など）も評価に加味する						
教科書	授業ごとに資料を配布する。						
参考書	・「経験から学ぶ 経営学入門」（有斐閣ブックス）						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	和食文化研究							
担当教員	湯木 潤治					科目ナンバー	U73630	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	茶懐石の作法や流れについての知識を習得できる。							
授業の概要	「和食」がユネスコの無形文化遺産に登録されて以来、日本文化としての「和食」に世界的な注目が集まっている。「和食」といえば料理内容に関心が集まりやすいが、登録された「和食」とは「日本人の伝統的な食文化」である。 本講義では、伝統的な「日本人の食文化」がどのようなものであったかを、ハレとケ、日本の四季と食文化の関係、行事食、米食、酒、食器とはし、食事の場としつらえ、地域と食文化などの内容で解説する。現代の私たちが「和食の文化」をどのように受け継ぎ、活かすことができるかを考えることを目的とする。							
到達目標	(1) 食文化が日本の四季とどのように結びつき、伝統文化を醸成してきたかについて説明できる。 (2) 茶懐石の歴史や文化的側面を考察しながら、懐石の作法や流れが身に附く。 (3) 季節感を得て、「一期一会」に代表されるような精神的な考え方を取り入れることができる。							
授業計画	1. 茶懐石とは 2. 茶懐石の起源 3. 茶懐石の歴史 4. 茶懐石の心 5. 茶懐石の作法 6. 茶懐石の料理の器 7. 茶懐石の流れ 8. 茶懐石のすすめ方・いただき方 9. 飯 実習 10. 汁物 実習 11. 向付 実習 12. 煮物 実習 13. 焼き物 実習 14. 預け鉢 実習 15. 茶懐石と日本の食文化							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：茶懐石に関連した書籍が多く出版されているので、1冊読んで、時代的背景や文化的側面に対する理解を深めておくとよい。（予習2時間） 授業後学習：授業で示したテーマ・課題について報告文を作成する（復習2時間）							
授業方法	講義：各回のテーマに即して、グループもしくはペアによるディスカッションを行う。グループワークの結果発表を踏まえて、各回のテーマについて解説・講義を行う。							
評価基準と評価方法	授業内での提出物 50%：各回でのリアクションペーパーによって茶懐石の作法や流についての知識を問い、到達目標（1）および（2）に関する到達度を確認する。 レポート提出 50%：到達目標（1）および（3）に関して「一期一会」に代表されるような精神的な考え方を取り入れたレポートが作成できているかどうか確認する。 両方を総合的に見て判断する							
履修上の注意	失格条件：レポート未提出及び授業を1/3以上欠席したもの 実習のために材料費を受益者負担として徴収する。学外で研修する場合は、交通費や入館料が必要な場合があります。							
教科書	特に使用しない。（プリントを配布する）							
参考書	特になし							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	和洋菓子実習						
担当教員	松木 宏美					科目ナンバー	U22440
学期	後期隔週B	曜日・時限	月曜2～5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生地を中心に基本的な製菓技術を実習し、和洋菓子製作の基礎をマスターする。						
授業の概要	本実習では、基本的な和菓子（饅頭・団子・大福）を中心に実習して、包餡の技術をしっかり身につける。洋菓子は、スポンジ生地、バター生地、タルト生地、パイ生地など基本の生地を作成できるようになり、さらにデコレーションの技術も身につける。基本的な作業（混ぜる、泡立てる、こねる、のばす、切る、等）を確実にマスターし、衛生面への認識も深めながら実習を進める。						
到達目標	(1) 衛生面に注意しながら、基本的な作業ができる。 (2) 和菓子では包餡を身につけ、洋菓子では基本の生地を作成できるようになる。 (3) 基本的な作業を確実にマスターし、デコレーションの技術も身につける。						
授業計画	第1回 オリエンテーション、実習前の注意事項 第2回 和菓子 粒餡・潰し餡 第3回 和菓子 大福、饅頭 第4回 「特別招聘講師」洋菓子 スポンジ生地 第5回 「特別招聘講師」洋菓子 デコレーション、マジパン細工 第6回 「特別招聘講師」洋菓子 タルト生地 第7回 「特別招聘講師」洋菓子 バター生地 第8回 和菓子 漉し餡 第9回 和菓子 団子、羊羹 第10回 洋菓子 パイ生地 第11回 洋菓子 シュー生地 第12回 和菓子 白餡 第13回 和菓子 練切 第14回 和洋菓子 オリジナル作成 第15回 和洋菓子 まとめ ※菓子の種類については、その回の代表的なものを挙げている。詳細は、オリエンテーション時に伝える。 内容については変更することがある。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：実習内容について、教科書の該当箇所を読み、概要を把握しておく。（学習時間：60分） 授業後学習：実習の手順、調理の要点、使用した食材について整理し、レポートを作成する。レポートにまとめたことをもとに復習する。（学習時間：120分）						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	受講態度50%、提出物20%、課題20%、小テスト10% 授業態度：実習の取り組み、グループ作業への参加度、実習結果（料理の仕上がり）より、総合的に評価する。 提出物：【実習後のレポート】実習結果をもとにレポートが作成できているか、作業内容の記録、結果、考察を総合的に評価する。なお、レポートの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。【課題作成】課題について適切な計画をたてて、計画に基づき作成できているか。 小テスト：指定した基本的な調理操作を正確に行っているかを評価する。						
履修上の注意	「和洋菓子理論」の単位取得者が履修できる。 隔週2回連続の実習となるため日程に注意をすること。 実習内容を把握し、調理に適した身支度をした上で実習に臨むこと。 実習室・試食室へは許可された物のみ持ち込みを可能とし、携帯電話の持ち込みを禁止する。 試食後の後片付けと清掃終了までが実習時間となる。 全回出席を原則とし、出席回数が開講日の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とし、遅刻・欠席の場合は必ず連絡をすること。 提出物については、提出期限厳守。実習後の実習レポート提出をもって、実習を受講したこととする。 実習着購入については、ポータルにて連絡をする。 実習費 7,000円を徴収する。						
教科書	『和菓子教本』、堀正幸著、日本菓子教育センター和菓子編集委員会編、日本菓子教育センター（2014） 『洋菓子教本』、日本菓子教育センター洋菓子編集委員会編、日本菓子教育センター（2016） ※これらの教科書を「和洋菓子実習」でも使用する。						

参考書	『決定版 和菓子教本』、日本菓子教育センター編、誠文堂新光社、ISBN 978-4-416-81293-8
-----	---

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	和洋菓子理論						
担当教員	松木 宏美					科目ナンバー	U72480
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	和洋菓子製造の実践に活かせる知識や理論を科学的に習得する。						
授業の概要	和洋菓子製造の基礎知識（道具の名称・種類・使用法や菓子の分類・歴史）や、理論（混捏、発酵、膨化のしくみ、副材料の意義など）、衛生的な取扱いなどを解説する。和洋菓子の理論を順に学び、製法や素材選びなど製造現場での基本的な知識を体系的に身につけるために、基本材料、製法、分類および製菓道具など、実習とリンクさせながら順を追って学習する。卓上の知識ではなく実践に活かせる知識としての習得を目指す。						
到達目標	(1) 和洋菓子製造の基礎知識や理論、衛生的な取扱いを理解する。 (2) 製法や素材選びなど製造現場での基本的な知識を体系的に習得する。 (3) 和洋菓子の理論コツとカンに類する部分を、科学的知識として身につける。						
授業計画	第1回 オリエンテーション、和洋菓子の歴史と種類、 第2回 原材料の基礎知識 小麦粉・糖類・卵 第3回 原材料の基礎知識 乳製品・その他 第4回 洋菓子 基本の生地とその応用 第5回 副材料の意義 第6回 膨化のしくみ 第7回 和菓子の基礎知識 年中行事 第8回 和菓子の基礎知識 製菓原料 第9回 和菓子の基礎知識 分類 第10回 和菓子 餡 第11回 和菓子 生地 第12回 製菓道具と器具の役割 第13回 菓子の周辺 お茶・食器 第14回 オリジナル菓子に向けて 衛生的な取り扱い 第15回 授業内容のまとめ・総復習と期末試						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：90分）						
授業方法	主として講義形態で授業を行う。グループワークをすることもある。講義では教科書をもとにパワーポイントや映像を用いる。この授業の中で、和洋菓子実習で実習する菓子の調理科学的な理論について具体的に説明をする。授業の終わりには各回の課題についてまとめる時間をとり、ミニレポートを作成して提出とする。						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 期末試験50%：授業内容全般についての理解度、興味関心の有無について評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 課題20%：課題に対して積極的に調べ、レポートを作成していることを評価する。(2)に関する到達度の確認。 受講態度30%：各回提出のミニレポートにより、理解度、興味・関心の明確性・具体性について評価する。(1)(2)および(3)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 ミニレポートのコメント・質問等について、翌週の授業で紹介・解説する。ミニレポートは添削して返却する。						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失うものとする。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 提出物は提出期限厳守のこと。 質問には、授業時および毎回のミニレポートで応じる。						
教科書	『和菓子教本』、堀正幸著、日本菓子教育センター和菓子編集委員会編、日本菓子教育センター（2014） 『洋菓子教本』、日本菓子教育センター洋菓子編集委員会編、日本菓子教育センター（2016） ※これらの教科書を「和洋菓子実習」でも使用する。						
参考書	『決定版 和菓子教本』、日本菓子教育センター編、誠文堂新光社、ISBN 978-4-416-81293-8						